

# 盲・聾・養護学校における 学習評価の事例集

平成14年3月

独立行政法人

国立特殊教育総合研究所

# 目 次

## 評価の実際

1. 自立活動の指導の評価 .....	1
(1) 事例1 (盲学校) .....	1
(2) 事例2 (聾学校) .....	4
(3) 事例3 (知的障害養護学校) .....	10
(4) 事例4 (知的障害養護学校) .....	15
(5) 事例5 (肢体不自由養護学校) .....	21
(6) 事例6 (病弱養護学校：腎臓疾患児の指導) .....	24
(7) 事例7 (病弱養護学校：進行性筋ジストロフィー児の指導) .....	27
2. 重複障害児の指導の評価 .....	32
(1) 事例8 (養護学校) .....	32
(2) 事例9 (盲学校) .....	36
(3) 事例10 (聾学校) .....	38
3. 知的障害児の指導の評価 .....	41
(1) 事例11 (教科別の指導) .....	41
(2) 事例12 (領域・教科を合わせた指導) .....	48
(3) 事例13 (領域・教科を合わせた指導) .....	53
<研究分担者・研究協力校> .....	56

## はじめに

平成11年3月告示の盲・聾・養護学校の新学習指導要領等を受けて、各学校においては、地域の実情等に応じ、教師の創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開することが求められている。

この新しい学習指導要領等の下での評価については、平成12年12月の教育課程審議会答申において、目標に準拠した評価や個人内評価を一層重視することとされている。

小・中学校については、国立教育政策研究所教育課程研究センターにおいて、評価規準、評価方法等の研究開発を進め、平成14年2月に評価規準の作成や評価方法の工夫改善のための参考資料が取りまとめられたところである。

盲・聾・養護学校において、小・中学校に準じた教育課程で学習している児童生徒については、この資料を参考にして具体的な評価を行うこととなるが、盲・聾・養護学校の自立活動や知的障害養護学校の各教科の指導、重複障害児の指導については、個々の児童生徒の実態に即した指導に対する評価が求められる。

評価にかかわる課題は、盲・聾・養護学校においても、小・中学校と同様に重要な課題である。

そこで、本研究所が平成13年度より開始した「21世紀の特殊教育に対応した教育課程の望ましいあり方に関する基礎的研究」（プロジェクト研究）においては、評価に関する研究を今年度の重点課題に位置付け、研究協力校より、具体的な評価の事例を収集し、それを取りまとめ、盲・聾・養護学校における学習指導の評価に関する実践の参考に資することとした。

障害のある児童生徒については、一人一人の障害の状態等に応じた指導目標・内容・方法を工夫して指導していくことが求められ、評価に当たっても様々な配慮が必要である。評価の在り方については、これらの事例も参考としつつ、今後更に検討を加え、改めて各学校の参考となる資料を提供する予定である。

この事例集の作成に当たり、資料提供に快くご協力いただいた研究協力校の関係者に深く感謝するとともに、本書が各学校の創造的な実践のための一助となることを期待するものである。

研究代表者 川 住 隆 一

# 評価の実際

## 1. 自立活動の指導の評価

### (1) 事例1 (盲学校)

本校における自立活動の取組は、他の教科・領域に先行し、個別指導計画を作成して行っている。その中では「計画的な評価」や「複数の指導者による評価、評価内容の妥当性の検討及び課題の検討」を重視してきている。

「図1-1 自立活動の指導の流れ」は、本校における自立活動の基本的な進め方である。

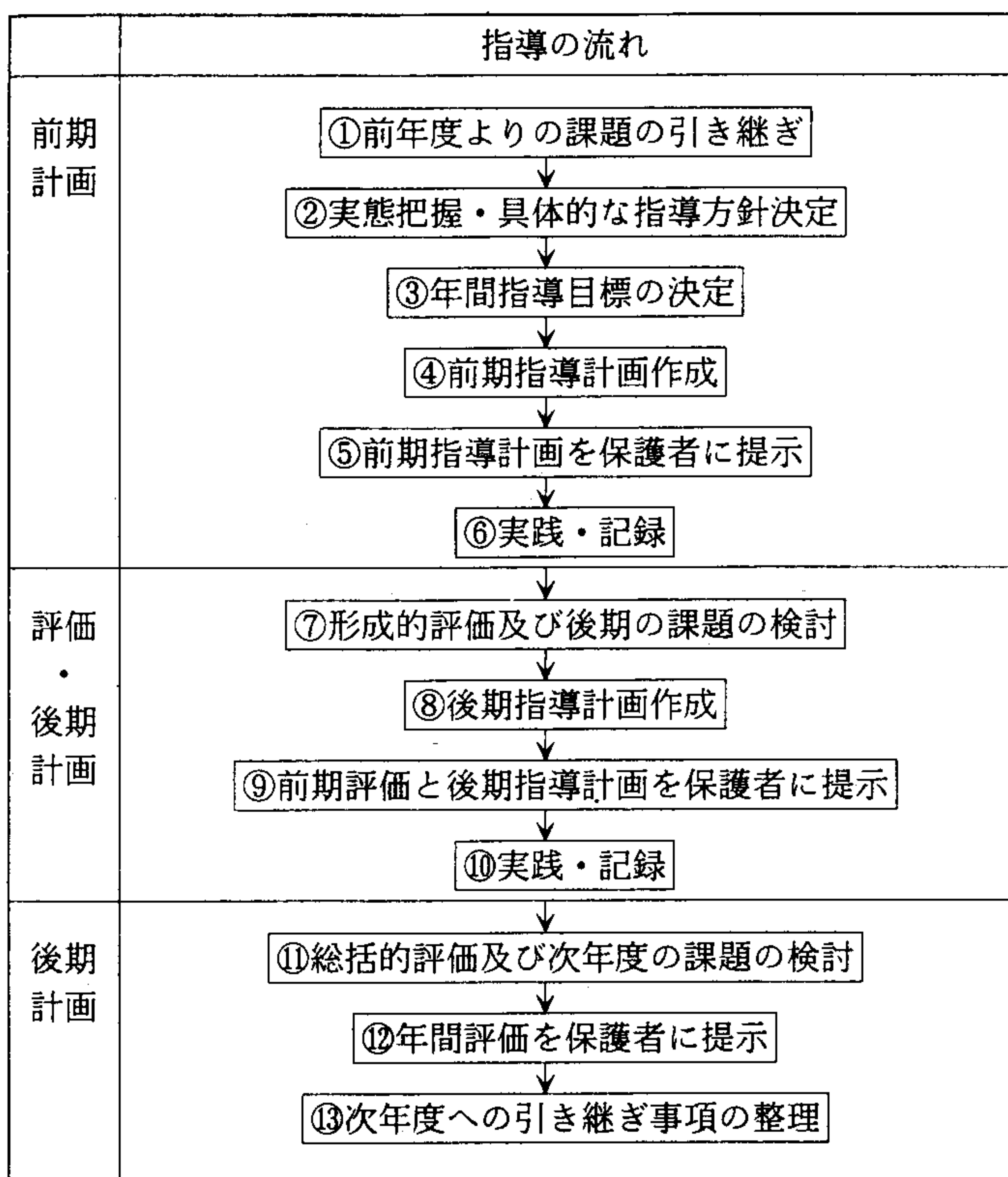


図1-1 自立活動の指導の流れ

図中②の実態把握の結果については、4月の参観日の学級懇談の中で説明している。

以下は、小学部低学年の児童の指導の実際である。

#### 1 実態把握について

実態把握は、「自立活動個人別実態把握表」を作成して実施している。また、実態把握のための具体的な検査等の実施項目は、前年度の課題や発達段階を考慮し決定している。実態把握は、以下のような観点で、作成したチェックリストや既存のチェックリスト、検査等を使って行っている。実態把握の結果からは、各観点における検査結果等から「所見(指導の方向性)」をまとめる。

#### (1) 実態把握と記入の観点

① 日常生活技能(自分でできる)[コミュニケーション的内容を含む]、検査等:ADLに関する実態把握表、広D-K式視覚障害児用発達診断検査等

・記入の観点:日常生活動作全般

② 視知覚(視覚)・触知覚(触覚)、検査等:フロスティック視知覚検査等

・記入の観点:保有する視力の活用と、目と手の協応、触察、触察技能、空間概念

③ 学習への適応(自ら学ぶ)、検査等:点字指導開始期のレディネス、点字読速度テスト等

・記入の観点:文字の習得、学習用具の使用等

④ 感覚補償・補強機器の活用(自ら使える)、検査等:レンズに関する児童生徒の実態把握

・記入の観点:弱視レンズ、拡大読書器、コンピュータ等

⑤ 運動技能(動きを身に付ける)

・記入の観点:各種運動技能、平衡感覚、柔軟性、持久力、調整力等

⑥ 歩行(自ら歩行する)、検査等:The Body Image of Blind Children 歩行状態等チェックリスト(盲・弱)

・記入の観点:ボディーイメージ、地理的空間概念、交通規則の理解、交通機関の利用、歩行時の情報取得、白杖の使用等

⑦ 視覚管理(自ら保護する)

・記入の観点:眼疾の理解、運動制限及び点眼等の目の養護にかかわる内容の理解

#### (2) 実態把握の実際

以下の「表1-1 実態把握表」は、低学年の児童のものであり、前年度からの課題を引き継ぎ、保護者の願いも考慮して4月に行ったものである。

表1-1 平成〇年度 自立活動個人別実態把握表

小学部 △年 氏名・[盲 弱・点 墨]担当者・・

分野	諸検査及び観察の結果(実態)	所見(指導の方向性等)
日常生活技能(自分でできる)[コミュニケーション的内容を含む]	検査名:ADLに関する実態把握表	
	※学校生活に慣れた8月下旬頃に実施する。	
視知覚(視覚)・触知覚(触覚)	検査名:フロスティック視知覚検査:H○.○.○	・空間における位置は優れているが、図と地の関係や形の恒常性に不足が見られる。これは、やや飽き気味だったのが原因と考えられる。
	結果 I 視覚と運動の協応 PA 5:10 SS 9 II 図形と素地 PA 5:11 SS:9	

	Ⅲ形の恒常性 PA 4:11 SS: 8 Ⅳ空間における位置 PA 8:00 SS: 12 Ⅴ空間関係 PA 6:06 SS: 10 SS合計 48 PQ: 93	H△年の実施の パターン認知検査をH ◇年4月に実施し、 比較した結果からは、 形のとらえ方が向上 していることがわか がえ、バランスよい 発達と判断できる。
感覚補償・ 補強機器の 活用(自ら 使える)	検査名: ひらがな 50 文字の 文章の読速度を測定 (近距 離と 3m 離れたの単眼鏡)	・継続的な単眼鏡操 作の練習をするこ とで技能の向上が 期待できる。
	○ランドルト環: 単眼鏡を 使い 3m から 1.0	・現在は、横書き 48 ポイントのひらが なを 3m 離れた地 点から読む環境が 実態から妥当と考 える。
	結果	・黒板の文字は、こ の条件よりも楽に なることから、日 常的な単眼鏡の使 用も徐々に進める ことも必要である。
	近距離 単眼鏡	
	25文字も 3 回目で 1 文字 1 秒をクリアー、78文字は、 読むのを途中で止める。	
歩行(自ら 歩行する)	検査名: The Body Image of Blind Children 等	相手の左右など瞬 時に判断できないが、 ちょっと考えると正 しく判断できる。 全体を通しては基 本的なボディイメ ージをもっていると判 断できる。
	結果「体を曲げて～して下 さい」の 2 問以外は、すべて クリアーしている。	

## 2 指導内容の選択及び他の領域・教科との関連

### 実態把握の結果から

○ ADL (日常生活動作) については、小学部低学年と  
いうこともあり、学校生活に慣れてからの実施とした。

○ 弱視レンズについて

・教科書は、現在の段階では近用レンズを使用しなく  
とも支障のない程度の速さで読める。

・授業で板書を書き写したり、文字の練習で単眼鏡の  
使用が必要である。

・単眼鏡の操作等に苦手意識をもっており、早期に苦  
手意識を払拭できるくらいの技能の獲得が将来に向け  
て必要である。

・読速度や書写、ルーペを使用する習慣は、国語科を  
中心に各教科経営案の「自立活動のねらいに即した事  
項」でも押さえ、関連させて指導していく必要がある。

○ ボディイメージにかかわる課題は、体育科や日常  
の生活の中で指導する。

以上を主な理由とし、自立活動では「単眼鏡の訓練」  
を選択し、前期(4月から9月まで)の指導を行った。

## 3 自立活動の指導記録

下記の「表 1-2 平成○年度 前期 時間の自立活動  
指導記録」は、児童生徒の課題の種類により、指導者の  
グループを編成し、計画や評価の妥当性を検討している。

表 1-2 平成○年度 前期 時間の自立活動指導記録

小学部 ○年 児童氏名 担当 . . . .		
年間 目標	1. 単眼鏡を使って文章を速く読むことができる。 (50文字程度の文章を30秒で読む。) 2. 単眼鏡を使って読んだ文字を速く書くことができる。 (50文字程度の文章を3分程度で書き写す。)	
前期 目標	1. 単眼鏡を使って、50文字程度の文章を50秒以内で読 むことができる。 2. 単眼鏡を使って読んだ50文字程度の文章を5分以内 で書き写すことができる。	
期 間	学 習 内 容	学 習 の 記 録
4 月	○単眼鏡のピント合わせ 教材文を見、単眼鏡のピ ントをできるだけ速く合 わせる。(毎回の導入で行う。)	○単眼鏡のピント合わせ 5月末の段階でピント合 わせの所要時間が、4秒程 度になりました。
9 月	1. 読み (1) 横書きの50文字程度の ひらがなの文章を読む。 ・3回以内で「文字数×1 秒」の時間で読む。 ・3回でクリアーできない 時は、近い距離で読み、 練習してから単眼鏡で読 み、クリアーできるよう に工夫する。	1. 読み 6月下旬には、初読で 「1文字1秒」の速さで読 むことができるようになり ました。 6月下旬からは、「1文 字0.6秒」の速さに目標を 変更しました。 現在は、3回目ないしは、 4回目で1文字0.6秒をク リアーしてきています。分 かち書きも徐々に減らして いるため、7文字以上続く 部分では、時間がかかるこ とが多いです。
	6 月	2. 書き(書写) (1) 単語を単眼鏡で読み、 書き写す。 (2) 読み慣れた文章を単眼 鏡で読み、書き写す。 (3) 横書きの50文字程度の ひらがなの文章を1度読 み、次に確かめながら書 き写す。 (4) 初読の文章を読みなが ら書き写す。 【練習環境】 3mで48ポイント、ゴシッ ク体、横書き、ひらがなの 文章を使用。 *練習は、ゲーム的な要素 を工夫し、学習意欲や集 中力が維持できるように 進める。
9 月		

#### 4 評価及び課題の整理について

##### (1) 自立活動の評価及び課題について

時間における指導は、「3」で示した自立活動の指導記録として後期も整理される。その時に、「年間の目標の評価」が行われ、次年度の課題が整理される。

##### (2) 各教科における「自立活動のねらいに即した事項」の評価について

年度末の教科経営の評価時に各児童について、評価を行い、教科指導の観点から自立活動に関連する課題を整理する。

##### (3) 自立活動の課題の総合的な整理

(1)と(2)に加え、「進路を含めた担任の考える課題」「保護者の願い」から「自立活動の課題」を整理して次年度に引き継いでいる。また、指導した内容は、「自立活動累積指導内容表」に記入される。

#### 5 まとめ

本校では、自立活動の指導の評価が整理されてきているが、①内容選択にかかわる保護者に対する説明や②各教科との関連は、今後も充実が必要である。

## (2) 事例2 (聾学校)

新学習指導要領においては、自立活動の指導に当たっては個別の指導計画を作成することが明記された。聾学校における自立活動は、養護・訓練と称していた頃より、聴覚障害の特性に応じた様々な指導内容・方法が工夫されて今日に至っている。特に、発音・発語指導や聴覚活用の指導においては、個々の児童生徒の実態が異なることから、その状況に即して、指導内容の配列や系統性を工夫し、児童生徒に無理のない形で細かくステップを刻み、指導してきたところである。

こうした指導の記録については、これまで「指導カルテ」と呼ぶなどして、指導の経過を記録し、部を越えて活用に資するなどの配慮がなされてきた。このことは、まさに個別の指導計画の原型であるとも言える。

今回、学習指導要領に位置付けられたことを契機にこれまでの実践を見直し、指導計画等をより一層価値あるものとするため聾学校において幾つかの実践が始まっている。ここでは、A 聾学校の実践について紹介することとする。

### 1 個別の指導計画の作成に当たっての基本的方針

A 聾学校では、校務分掌の組織に自立活動部を設け、そこで、幼稚部から高等部までの自立活動の指導が共通理解のもとに協力して行えるよう配慮してきた。以下にその概要を述べる。

#### (1) 目標について

幼稚部は、「長期目標を1年間の目標」とし、「短期目標を学期ごとの目標」とする。小学部・中学部・高等部は、「長期目標を3年間の目標」とし、「短期目標を1年間の目標」とする。

#### (2) 内容

「～(目標)ができるようにするため、～(具体的な支援方法)をする。」と記入する。

#### (3) 記録

支援した結果、子どもの変化等を学期末に記入する。

#### (4) その他

聴覚学習・発音・コミュニケーション・言語・障害認識に該当しない支援も例えば肢体のまひ等への支援の計画があれば記入する。

#### (5) 評価

学期末に通知表に記入する文章を記入する。

#### (6) 記入者

担任が自立活動担当者とよく話し合って記入する。

#### (7) 作成期日

ア 5月7日までに、目標と1学期の内容の下書きをし、各部の自立活動部員に提出。直ちに各部の教務主任・

部主事に内容をチェックしてもらう。

イ 支援計画の内容を、懇談週間中に保護者と相談し計画表を完成させる。

① 作成した表を保護者に見せるのではなく、口頭説明して、保護者の意見や願いを聞く。

② 平成13年度は、年度始めのみ懇談する。2・3学期は、1学期を発展させる予定と説明する。

③ 計画表についての話し合いは電話でもよい。聴覚障害の保護者とは、できるだけ直接面談し話し合う。

ウ 5月21日までに自立活動部に提出する。

#### (8) 観点表について

計画表に記入するときの参考資料として観点表を配布する。あくまでも例文なので子どもに合った支援内容を各自で考えることとする。

## 2 観 点 表

聾学校における自立活動の指導については、聴覚活用、発音指導、言語指導、コミュニケーションに関する指導、そして、最近、自己の障害認識にかかわる指導などが取り上げられることが多い。

それらについては、これまでの聾教育の長い経験から指導のプロセスなどが明らかになっているものもある。したがって、ここに示された観点表は、こうした経験則を踏まえてまとめられたものであり、実態把握や指導目標の設定や具体的な指導内容の選定、指導の評価など、指導の折々に活用できるものである。

特に、指導目標の設定においては、個々の児童生徒が達成可能な具体的な課題を掲げるように努めるとともに、児童生徒の主体的な活動を促すようにすることが大切である。

以下に、具体的な観点を述べる。これらはあくまでも例示であり、個々の児童生徒の実態に応じて、より細かなステップを設定することも必要である。

### － 聴覚活用 －

#### A 補聴器（人工内耳）の取扱い

##### 例

- ・補聴器（人工内耳）のスイッチの切り替えができる。
- ・電池交換ができる。
- ・補聴器を自分で装用できる。
- ・ボリュームを自分で調整することができる。
- ・使用しない時は乾燥ケースにしまうなど、補聴器の管理ができる。

## B 補聴器（人工内耳）の装用習慣

例

- ・補聴器（人工内耳）を嫌がらずに装用することができる。
- ・自分から補聴器（人工内耳）を装用しようとする。
- ・両耳装用ができる。
- ・電池切れが分かる。

## C 音・音楽の聞き取りについて

例

- ・音の有無が分かる。
- ・聴力検査がしっかりできる。
- ・太鼓に合わせて数えることができる。
- ・身の回りの環境音に反応する。
- ・音の大小を表現することができる。
- ・音を聞いて音源を探そうとする。
- ・音楽に合わせてリズムを取ることができる。
- ・音を聞いて何の音か分かる。

## D 言葉の聞き取りについて

例

- ・母音の弁別ができる。
- ・名前を呼ばれたら振り向くことができる。
- ・音節数の違う（同じ）単語の聞き分けができる。
- ・読話を併用すれば、簡単な会話をすることができる。
- ・音声のみで会話が成立する。
- ・電話で会話をすることができる。

## E 聴力・補聴器等についての知識

例

- ・オーディオグラムの読み方が分かる。
- ・自分の平均聴力レベルを計算することができる。
- ・補聴器周波数特性を見て、補聴器の状態を理解できる。
- ・新しい補聴器や補聴援助システムなどについて知る。
- ・補聴器の調整ができる。

## F 聴覚活用への関心・意欲

例

- ・補聴器（人工内耳）をいつも装用する。
- ・補聴器（人工内耳）の故障に気付き知らせることができる。
- ・補聴器（人工内耳）を活用し、聞き取ろうとする姿勢がある。
- ・自分の聞こえの変化に気付き、聴力の自己管理ができる。
- ・音楽を楽しむことができる。
- ・FMマイクを話し手に渡して使用をお願いできる。

## － 発音・発語 －

### A 音器関係（息・声・舌・あご・唇等）

例

- ・声が安定して自然なよい声が出る。
- ・舌がだんだん安定する。
- ・声量が増え、声の調整がうまくなる。
- ・腹式呼吸ができるようになる。
- ・舌・唇・あごなどがうまく使える。
- ・息の強弱、長短、継続、息止め、破裂ができる。
- ・幾つかの息の出し方が分かる。（強・弱・長・短・断続）
- ・話の中で息継ぎが自然にできる。
- ・息と声を区別して出す。
- ・声の調子を自分で調節できる。
- ・声の調整が自由にできる。（高低、大小、強弱、緩急、断続）
- ・話し言葉の中で安定した声が自由に出せる。

### B 単音（母音・子音）

例

- ・母音がはっきり言える。
- ・母音を長く続けて言える。（アー、アーオー等）
- ・母音を短く言える。（ア・ア・ア、ア・オ・ウ等）
- ・短音と長音を区別して発音できる。（アー・ア・ア等）
- ・一息で母音をなめらかに言える。（アイウエオ、アオイウエ等）
- ・語文の中の母音が明瞭に言える。
- ・子音の発音要領が身に付く。（清直音、濁音、拗音、撥音）
- ・子音の発音要領がしっかり身に付き明瞭に発音できる。

### C 語句・文

例

- ・簡単な言葉や文の口声模倣ができる。
- ・1～2語文の口声模倣ができる。
- ・語調がなめらかになる。
- ・3～4語文が正しく言える。
- ・語文の中での長音、促音が自然に言える。
- ・抑揚、強弱（イントネーション、アクセント）に気を付けて正しい発音で話す。
- ・場面に合った声の大きさ、話の速さ、間の取り方を考えて話す。



## D その他

### 例

- 基本的な音器の名前を知る。
- 発音指示サインを理解し指示通り発音できる。
- 発音の仕方が分からないときは尋ねることができる。
- 自分の発音に絶えず注意する。
- 自分の誤りやすい音を知り注意して発音できる。
- 音器の名称と各音の調音点を知る。
- 不明瞭な発音に対し、発音構図などを利用して発音要領を再確認し、発音を明瞭にすることができる。
- 適切な教材・教具を使用して、反復練習することにより発音を明瞭にすることができる。

## —コミュニケーション・言語—

### A コミュニケーション（意欲）

### 例

- 相手の顔を見る。
- 要求を表現しようとする。
- 自分から進んで挨拶をする。
- 口声模倣を積極的にする。
- 経験したことや気持ちを積極的に話すことができる。
- 友達に話しかける。
- 一方的に話すのではなく、会話が成立する。
- 家族や友達との会話を楽しくすることができる。
- 友達の会話に興味をもち、内容を知ろうとする。
- 集団の中で友達の話を聞き、自分の意見を言うことができる。
- 話をきちんと聞く態度が身に付く。
- 分からない単語を自分から聞く。
- 新しい言葉を進んで使う。
- いろいろな人に話しかけることができる。
- 人前でもきちんと話ができる。
- 知らない人にも話ができる。
- 友達と簡単な会話ができる。
- 音声や手話を用いて積極的にコミュニケーションをとることができる。
- 気になることは質問し、周りの情報を得ようとする。
- 他人と積極的にかかわろうとすることができる。
- 立場、状況に応じて話すことができる。
- 自分の意見を積極的に言える。
- だれとでも話すことができる。
- 全体の場で発表ができる。

## B コミュニケーション（受容）

### 例

- 身の回りのものは、身振りや絵カードで理解できる。
- 絵や写真を手掛かりに話を聞くことができる。
- 挨拶の手話が分かる。
- 身振り、手話で2～3語文は理解できる。
- 簡単な手話での問いかけを理解できる。
- 毎日使っている言葉はキューサインで理解できる。
- キューサインで表現された友達の名前が分かる。
- 生活でよく使われる言葉を理解して行動できる。
- 友達のキューサイン（手話）のやりとりを見て、部分的に理解する。
- 手話と指文字（キューサイン）で生活の中のいろいろな会話を理解して、友達や教師とやりとりができる。
- キューサインを手掛かりにして、音声言語での会話を理解できる。
- 話し手の表情や口形などに注意をすることができる。
- 集中力を継続して話を聞くことができる。
- 尋ねられたことが分かり答えることができる。
- 聴覚をよく活用し会話ができる。
- 話の前後関係をつかみながら読話し、話の内容を理解できる。
- 話の内容を理解し、疑問に思ったことを質問できる。
- 相手の手話が分かる。
- 他の人の意見を聞くことができる。
- 他の人の意見を聞いて、理解できる。
- 分からない言葉は前後関係から類推して話が理解できる。
- 話し合いの筋を順序立てて理解できる。
- 話の要点をつかみ、順序や主題を考えることができる。

## C コミュニケーション（表出）

### 例

- 表情で気持ちを表現する。
- 身振りや手話で意思表示をする。
- 生活に密接でかつ簡単な言葉を覚え、身振りを手掛かりに話す。
- 経験したことを伝えようとするすることができる。
- カレンダーワーク・絵日記などで、簡単な問答ができる。
- 絵カードや絵本を見て、自分が知っていることを身振りなどで話せる。
- 身振りや手話で2～3語文を表出できる。
- 「見せて」「待って」「かわって」など、生活や遊びでよく使う言葉はスムーズに口声模倣できる。
- 絵や写真を見て経験したことを音声言語で話す。
- 曜日、天気、給食の内容などキューサインを使って表出できる。

- ・人の名前、身の回りのものの名前など、指文字で表出できる。
- ・興味をもったことを2語文又は単語の羅列で表現する。
- ・キューサインや手話を使いながら思ったことや考えたことを助詞を伴った文の形で伝える。
- ・問いかけの言葉に慣れて応答することができる。
- ・助詞や助動詞などを使い、多語文で話す。
- ・教師の問いかけに答えながら、接続詞を使って順序よく話したり、話を深めたりできる。
- ・おしゃべりの中で助詞を正しく使ったり、いろいろな言い方をしたりする。
- ・接続詞を使い、順を追って話をするができる。
- ・「～でしょ」など、自然な話し言葉を使う。
- ・過去、現在、未来の時制に気を付けて話そうとする。
- ・相手に分かるようにいろいろな手段を使って話すことができる。
- ・見聞きしたことや自分の考えや意見をきちんと述べるができる。
- ・時、相手、場所に応じて、手話や指文字などの手段を使うことができる。
- ・敬語を理解し、使うことができる。
- ・表現を工夫して相手に伝えることができる。
- ・相手に分かりやすいような言葉を選んで話すことができる。
- ・正しい助詞を使って会話ができる。
- ・必要な要件や事柄を確実に理解し伝えることができる。
- ・目的に応じて、分かりやすく効果的に話すことができる。
- ・考えをまとめて話すことができる。
- ・ディベート・生徒会の会議等、話し合いの場面で、話し合いの技術を身に付けることができる。

#### D コミュニケーション (その他)

例

- ・3語文以上のやりとりができる。
- ・友達と身振りで簡単なやりとりをしながら遊べる。
- ・主にキューサインを使ってコミュニケーションを取ることができる。
- ・話し手に合わせてキューサイン、手話、指文字などを使用してコミュニケーションを取ることができる。
- ・時や場や相手に合わせて挨拶ができる。
- ・語彙が豊富でいろいろな言い回しができる。
- ・友達や先生の話に興味をもって聞き、それに対して質問したり自分の考えを言ったり自由に会話ができる。
- ・正しい手話で会話ができる。
- ・FAXやメールなど情報機器を使ってコミュニケーションを取ることができる。

#### E 言語 (理解)

例

- ・身近な人や果物の名前、生活語が分かる。
- ・友達の名前が分かる。
- ・簡単な名詞が理解できる。
- ・簡単な形容詞が理解できる。
- ・身近な言葉を文字で理解できる。
- ・文字と指文字を対応できる。
- ・平仮名の文をキューサインを付けながら読むことができる。
- ・簡単な平仮名の文であれば助詞を意識して読むことができる。
- ・簡単な文を読んで内容が分かる。
- ・物に名前があることを知り、知ろうとする意欲が表れる。
- ・身近な日常生活に必要な事物や事柄に関する言葉を理解する。
- ・平仮名、カタカナが読んだり書いたりできる。
- ・漢字の意味を理解し文の中で使える。
- ・本などを読むことに興味をもち読むことができる。
- ・文字の読み書きに慣れ、読んで理解できる言葉が増える。
- ・本などから多くの言葉を獲得できる。
- ・日記文のような簡単な文章を読むことができる。
- ・日記文のような簡単な文章を読んで理解できる。
- ・教科書、新聞レベルの文章を読むことができる。
- ・教科書、新聞レベルの文章を読んで理解できる。
- ・段落ごとの要点の相互の関係をつかんだり、文書の中心点を押さえたりしながら、正確に読み取ることができる。
- ・進んで読書をし、読書で深められた知識を日常生活で活用できる。
- ・自分の生活や考え方と比べながら、読むことができる。
- ・読書をして自分の感じ方や考え方がどのように変わったかを考えることができる。

#### F 言語 (表出)

例

- ・身近な人や果物の名前、生活語を一語文で表現する。
- ・簡単な名詞を表現する。
- ・簡単な形容詞を表現する。
- ・2~3語文で表現する。
- ・絵日記や手紙を自分で書こうとする。
- ・習った言葉を覚えて使うことができる。

- 二語文がすらすら言える。
- いろいろな言い回しができる。
- 話し言葉のいろいろな構文が使える。
- 文の組み立てに気付き正しく使うことができる。
- 学習した漢字を文章の中で進んで使える。
- 文章の中で読点、句点を正しく打つことができる。
- 「 」やそのほかの符号の使い方が分かり使うことができる。
- 人前で発表したり意見を言ったりできる。
- 語彙が増え、経験したことや意見、考えをきちんと文章に書き表せる。
- 濁点・文末の活用の誤りがなくなり、自分の伝えたいことを明確にして書くことができる。
- 正しい助詞の使い方ができる。
- 日記文、生活文を書くことができる。
- 新聞やテレビなどの情報を総合して、自分の考えを書くことができる。
- 他人の考えを踏まえて、自分の考えを書くことができる。
- ○年生程度の漢字を書くことができる。
- 自分の考えをはっきりさせて、文に書き表すことができる。
- 目的に応じた書き方を考えることができる。
- 書く必要があることを整理して書くことができる。
- 自分の書いた文章の間違いを見つけて、直すことができる。
- 文・文章の組み立てや語句の使い方について工夫することができる。
- 効果的な文章表現を考えることができる。

## G 言語（その他）

### 例

- 漢字能力検定○級に合格する（漢字検定、文書検定等の取組）。
- 文中の助詞の誤りに気付き、訂正することができる。（文のねじれ・助詞の誤用について）

## — 障害認識 —

### 例

- 自分の障害について知る。
- 自分の障害を肯定的に受け止めることができる。
- 自分の障害について真剣に考える。

- 聴覚障害に伴う不便さに気付く。
- 補聴器の大切さに気付き扱うことができる。
- 自分のことを含めいろいろな障害をもった人のことを知る。
- 自分の聴力レベルを理解する。
- 分かりにくい時は、質問したり聞き直したりできる。
- お願い手帳を使ったり、携帯電話・メール・FAXなどをよく活用する。
- 聴者と話すことの苦手意識を克服する。
- 気後れすることなく人とかかわることができる。
- 聾学校以外の場所でも堂々と手話を使って話ができる。
- 卒業した後の自分の生活がイメージできる。
- 家族以外の人とのかかわりを多くもつ。
- 家族以外の人と積極的にかかわる。
- 客観的に自分の障害を認識することができる。
- 障害による情報不足を認識し、それを補う努力ができる。
- 自分の文章力や漢字力を認識し努力できる。
- 社会適応力がある。
- 聴覚障害に伴う不便さを理解し、それを克服する努力ができる。
- 小中時代の思いをばねに、大学に入ったら手話を広めたり自分の障害を知ってもらおうと考えられる。
- 自分の障害を他の人に説明できる。
- 手話のことをいろいろな人に知ってもらいたいと考えられる。
- 聴覚障害の有無にかかわらずだれとでも仲良くなれる。
- 自分の聞こえの状況を理解する。
- 聴覚障害者としての生き方を考えられる。
- 聴者との違いを理解できる。
- 障害者に関する法律等を知る。

## 3 個別の指導計画の様式及び記述例

小学部4年のある児童の個別の指導計画を以下に紹介する。

A聾学校では、定期的に保護者の授業参観を設定しており、その後の懇談会等で、指導の経過、今後の予定、見通しなどについて、担任等とやりとりが行われる。個別の指導計画は、日常の授業実践に生かされてこそ意味があるものである。

以上が、A聾学校における自立活動の指導についての評価の実践例である。まだ、試行錯誤の状態であるが、実践を通して、今後更なる改善が行われていくものと期待する。

目 標	長期目標	身の回りや社会の出来事に対する関心を深める。人と伝え合う楽しさを味わい、より豊かにかかわりたいという気持ちを養う。
	短期目標	自分がやったことや頑張ったことに自信をもち、のびのびと自己表現できるようにする。
学 期	1 学 期	
聴 覚 学 習	内 容	FM補聴器や補聴器を活用し、自分にとっての聞こえやすさに少しずつ関心をもつようにする。
	記 録	FMマイクの管理がしっかりできた。FM使用時とそうでない時の聞こえやすさについては、まだ分かりづらいようだ。
発 音	内 容	場に合った声の大きさを意識する。 /s/ /ʃ/の要領練習を行う。
	記 録	気持ちが高ぶると大きな声になる。
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ 言 語	内 容	いろいろな人とかかわる機会を増やし場慣れするとともに、場や相手に応じた話し方を身に付ける。
	記 録	伝えたい気持ちが先走り、話が前後したり大切な部分が抜けたりする。少しずつ順を追って質問すると、的確に答えられ、伝えられる。
障 害 認 識	内 容	困った時や失敗した時にどうしたらよいかを考え、人の助けを借りつつ自分なりに行動できる力を身に付ける。
	記 録	困った時や失敗した時に、なかなかその事実に向き合うことが難しいが、少しずつ自分で向き合うように促し、気持ちを動かすように努めてきた。
そ の 他	内 容	
	記 録	
評 価	自分のことを伝えたい気持ちが旺盛で経験したことや感じたことなどをたくさん話しかけてくる。日記にも毎日丁寧に取り組み、したことだけでなく、その時の様子や気持ちも表現できるようになってきた。 FMマイクの取扱いにも留意し、大切な物であるという意識が見られる。	

(3) 事例3 (知的障害養護学校)

名) が設置されており、自立活動の個別年間計画を作成するに当たり以下に述べるような手順で行っている。

1 自立活動の個別の指導計画作成のシステム

本校では学部とは別に独立した自立活動部 (教師数 4

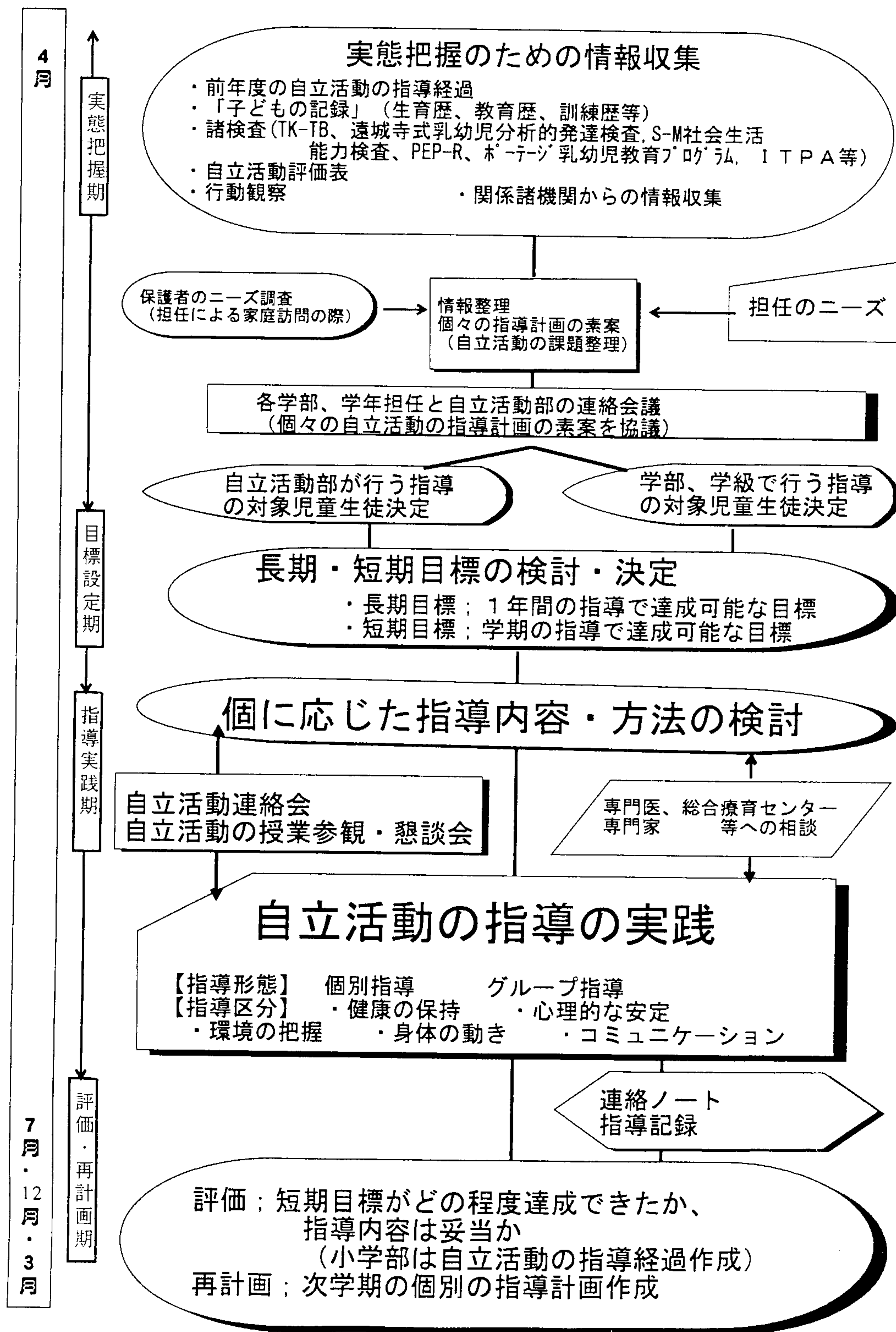


図 3-1 自立活動における「個別の指導計画」の作成手順

### (1) 実態把握等について

入学時又は転入時に保護者に「子どもの記録」(生育歴、教育歴等)を記入してもらう。4月、5月に、知能検査や発達検査、社会生活能力検査等の諸検査に加えて、本校独自の自立活動評価表で評価を行う。検査場面や待ち時間の自由な時間に行動観察を行い、担任から生活や学習の場面での様子を聞いて記録をする。保護者のニーズにこたえるために、家庭訪問時に担任を通して、保護者からいろいろな情報を聞き取る。また、担任に対して自立活動の時間の指導の希望調査を行っている。

### (2) 実態把握から課題の整理まで

前年度本校に通学していた児童生徒については、過去の指導経過記録もある。これらの情報や記録をもとに、個々の児童生徒について、自立活動の5つの区分に沿った課題の整理を行う。

### (3) 個々の児童生徒の課題の検討

自立活動連絡会で、各学部、学年担任と資料をもとに個々の児童生徒の課題の検討をする。次に自立活動部が指導を行う児童生徒と、学年学級で指導を行う児童生徒を決める。

### (4) 指導目標の検討

長期目標は、1年で達成できる、達成してほしい目標を設定する。短期目標は、学期ごとの指導で達成できると考えられるスモールステップの目標を設定する。

### (5) 指導内容や方法の検討

担任と自立活動担当者で連絡会をもち、目標達成に向けて効果的な指導内容や方法を決定する。学級での指導目標と自立活動の時間の指導での指導目標を確認する。

### (6) 指導の実践

指導の形態は、個別指導とグループ指導がある。個別指導は課題別の1対1指導を行っており、グループ指導は課題別の1対児童生徒数名又は数名対数名の指導である。グループ指導の対象は、個別の指導に加えて、集団の場を設定して指導した方が効果があると考えた児童生徒である。教師と対象の児童生徒が一緒に集まって集団を作り、その集団の場を利用しながら個に応じた指導を行っている。

本市には専門医制度(各学校で言語聴覚士や精神科医師等による相談を行う制度)や地域支援事業(市の療育センターの専門家を要請して相談を行う制度)があり、より確かな実態把握と指導に向けて助言を得ている。

### (7) 自立活動の評価について

担任や保護者との日々の連絡ノート、それぞれの子どもの指導記録はもとより、授業参観、懇談会、担任との連絡会を行い、目標の達成度、指導内容や方法の妥当性を確認し評価を行っている。通知票とは別に、学期毎に指導経過をまとめることで、今後の課題等細かな指

導内容が明確になり、次期の指導計画作成に役立っている。

## 2 評価の実際

### (1) 個別の指導計画作成

自立活動の個別の指導計画を表3-1に示す。

### (2) 毎時の評価について

自立活動担当者が、その時間の指導目標に対して、児童生徒の様子、態度、到達状況などがどうであったかを簡潔に記録し、評価できるよう記録用紙の工夫を行い、その日のうちに記録し評価を行っている。表3-2、表3-3に示す。評価項目、観点は担当者が決めている。

### (3) 学期ごとの評価について

評価は自立活動担当者が作成する。保護者に渡す通知票には、短期目標を明記し、それに対して、児童生徒の伸びた点、努力している様子を中心に評価する。これとは別に表3-4に示すような、学期ごとの指導経過を作成する。短期目標に対する達成状況、態度、意欲など、伸びた点のみならず、難しい点も含めて客観的に、細かく評価する。これをもとに、次の学期の指導計画を作成する。

### (4) 年度末の評価について

自立活動担当者が作成した各学期の評価をもとに、学級担任が指導要録に記載する。自立活動担当者は、指導経過をまとめ、1年間を通しての評価を行い、次年度への課題を明らかにする。

### (5) 保護者との連携について

年度初めと年度末に、自立活動の時間の指導対象児童生徒全員について、授業参観及び懇談を行っている。長期指導目標及び指導計画について説明し、保護者の意見や要望を聞き、指導計画を作り直すこともある。また、自立活動の時間に学習したことについて、家庭生活でも繰り返し取り組んだり、生活に生かしたりする方法についても話し合うようにしている。例えば、ことばによるコミュニケーションを高めたいと考えている児童については、まず、現在の表出語彙を調べるために、「幼児の基本語彙表」を渡し、1ヶ月程かけて表出語彙を調べてもらい、学校での調査結果と合わせて、現在の表出語彙を書き出しておく。さらに、学級や家庭で新たな自発語が出た場合には、連絡帳などで情報交換し、それを更に定着できるようことばかけや、場面の工夫を行うようにした。低学年の児童については、ポータープログラムに基づき、家庭と連携して全般的な発達を促すようにしている。

年度末の会では、指導経過と現在の状況及び今後の課題について説明し、家庭での変容の有無、生活の広がり等について情報を得るようにしている。

表 3-1 自立活動 平成 13 年度 個別年間指導計画の例

( ) 部 ( ) 年 ( ) 組 氏名 ( ) 担当者 ( )

実態把握

主障害	知的障害 自閉的傾向	保護者・担任 の要望	思い通りにならない時や思いが伝わらない時、いらだって攻撃的になるので、自分の気持ちをことばで伝えたり、コントロールしたりできるようになって欲しい。
諸検査		行動観察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験のないことやできないことに対し、不安になり身近な人に対し、攻撃的行動に出ることが多い。</li> <li>・指示は理解でき、表出では自発語の語彙数は多いが、名詞中心で場面に応じて使うことが難しい。</li> </ul>
自立活動評価	「心理的な安定」「コミュニケーション」に課題が多い。認知面では聴覚一言語系の遅れが目立つ。感覚的な要因で興奮することがある。マッチング、ポインティングはできるが、ことばでのやりとりは難しくエコアリアが多い。	総合所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸検査の結果より発達のアンバランスが目立ち、全体的な遅れもある生徒である。</li> <li>・攻撃的になる原因を明らかにし、環境設定、援助の手だてなど、周囲のかかわりの工夫が重要。攻撃的行動に代わるコミュニケーション手段を身に付けることで、情緒の安定につなげていく。</li> <li>・コミュニケーション意欲はあるので、設定場面での依頼、要求等ことばの使い方を教えていく。</li> </ul>

長期及び短期指導目標

長期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の予測と違う時でも気持ちをコントロールして適切な行動ができる。</li> <li>・周囲の人に自分からかかわりをもち、要求や意思を伝える。</li> </ul>	短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の手順を理解して、落ち着いて取り組む。</li> <li>・グループ活動で指示を理解して、身体を動かそうとする。</li> <li>・したい活動を選択して、カードやことばで伝える。</li> </ul>
		短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容が変わっても、手順が示されれば落ち着いて取り組む。</li> <li>・グループ活動の制作場面で、他児を待つことができる。</li> <li>・動作法による教師とのやりとりを楽しんで、誘うようになる。</li> </ul>
		短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動で、場面に応じた要求、依頼のことばを言う。</li> <li>・制作場面で、そっと置く、丁寧に折るなどができるようになる。</li> <li>・ことばやカードで、したい活動を教師に要求する。</li> </ul>

指導目標及び指導内容、指導方法

指導目標	指導内容、指導方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動（3，4名）で指示を理解し、他児を待ったり、状況の変化に対応したりして、落ち着いて行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の順序、パターンを本児に理解できる方法で伝える。4セッション程度で少しずつ変えていき、本児の予測とは少し違う展開にして、状況を理解して受け入れ、気持ちをコントロールして活動に参加できるようにする。その際、活動時間、状況を伝える方法、他児とのかかわり方などを工夫する。具体的な活動内容は、柔軟体操、リズム運動、クッキー作り、メモ帳作りなど。場面に応じて「○○貸して」「どうぞ」等、ことばの使い方を指導する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の働きかけを理解して受け入れ、要求に合わせて身体を動かしてこたえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動作法による伸展仰臥、腕上げ、躯幹のひねり等の課題を、教師の動きに合わせて行うよう促す。身体を通してやりとりをする。</li> <li>・常に同じキルティングマットの上で行い、マットを見せてするかどうか尋ねる。したがらない時は無理強いしない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな活動を選んで教師に伝える。活動を通して気分の安定やリラックスができる。好きな活動が増える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本児の行動パターンには入っていないが、教えれば楽しんでしそうな活動を選んで、教材を準備しておき活動に誘う。最初は手順カードを準備して、指導する。慣れて一人でできるようになったら、自分で活動を選んで教師に依頼、要求して行うよう促す。迷路、文字プリント、手工芸、大型遊具での遊びなど。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外で落ち着いて行動できるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭で攻撃的になりやすい場面について、似たような状況を設定し、適切な行動の仕方を本児に理解できる方法で伝える。コンビニやスーパーでの買い物、皿洗い、公園での遊びなど。</li> </ul>

表 3-2 毎時間ごとの評価例 平成 13 年 6 月 5 日

指導内容	働きかけに対する理解度	意思の伝達度	指導者へのかかわり
柔軟体操 (グループ)	行動 3	表出 2	しきりに顔をのぞき込み様子を伺う。
リズム運動 (グループ)	行動 3 → 5	表出 4 → 1 (ごめんなさい)	笑いながらつねったり叩いたりを繰り返す。
皿洗い (個別)	行動 2 表出 2	表出 3	激しく皿を重ねるが「やさしく」と言われると少し静かに置こうとした。
動作法 (個別)	行動 2 表出 2	表出 1 (「毛布」と言って敷くことを要求。「ここ」と言って背中を掻くことを要求)	視線を合わせ続ける。おとなしく教師の援助に合わせる。終わって、痒いところを掻いて欲しいと要求する。
本時の総合的到達度	開始時、グループみんなの集合が遅れて少しいらだって、授業の前半は機嫌が悪かった。リズム運動で攻撃的行動が頻繁だった。好きな皿洗いを始めると、少しずつ落ち着いてきた。		

表 3-3 毎時間ごとの評価例 平成 14 年 1 月 26 日

指導内容	働きかけに対する理解度	意思の伝達度	指導者へのかかわり
メモ帳作り (グループ)	行動 2 → 1 表出 2	表出 4 (快の表情) 1 (「貸して」と友だちのタオルを取ってよだれを拭く)	笑顔で指導者を見る。 自分の作業手順が一つ終わると確認するように、教師を見る。
ブランコ遊び (個別)	行動 1 表出 1	表出 1 「ブランコ」と言って遊びを要求	笑いながらつねったり叩いたりを繰り返す。
迷路 (個別)	行動 1 表出 2	表出 1 (したいプリントを自分で選び、「する」と差し出す)	間違えた時、「こっちよ」と正しい道を教えると、じっと手元を見る。次々プリントを選んではたがる。
文字学習 (個別)	行動 2 表出 1	表出 1 (物の名前を次々言う)	分からない文字は「貸して」と言ってカードを要求する。
本時の総合的到達度	前回、メモ帳作りで紙を半分に折る時、端がきれいに合わず、教師が注意すると怒って攻撃的になっていたが、紙と同じ大きさの箱を準備し、中央に線を引いておくと、線に合わせてきれいに端を重ねて折ることができた。この後、ずっと落ち着いて活動に参加できた。自分から活動を選択したり、要求したりする言葉も多く出ていた。		

評価項目

- |                            |                    |
|----------------------------|--------------------|
| 行動 5 : 相手を叩く, つねる, 他の人に当たる | 4 : 周りの物に当たる, 威嚇する |
| 3 : 時々飛び跳ねるが, 戻ってきて活動する    | 2 : 指示に応じて活動に取り組む  |
| 1 : 意欲的に活動に取り組む            |                    |
| 表出 5 : 不快の声を上げる            | 4 : 表情で伝える         |
| 3 : 自分を落ち着ける歌を歌う           | 2 : 「はい」「いや」等返事をする |
| 1 : 自分の気持ちを言葉で伝える          |                    |



表 3-4 平成 13 年度 自立活動の指導の経過の例 (小学部 1 年 C 児)

指導目標	指導の経過		
	1 学期	2 学期	3 学期
<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いて学習に取り組む態勢ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題に興味を示し、集中して取り組むことができるが、飽きやすいので、課題を次々に変えていくことが必要。個別の操作性のある課題には特に熱心に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の意味を理解して、落ち着いて学習に取り組むことが、毎回できた。机についての学習には特に熱心に取り組んだ。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの物事に対する理解や、場面や状況の理解ができるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「動物体操」は踊りを覚えて全てできるが途中からふざけることが多い。用具の準備や後片付けは良くできる。</li> <li>・赤・青・黄の同じ色同士のマッチングができるようになった。</li> <li>・○△□の型はめができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「動物体操」は、動きの種類や道具を変えて行った。カラーハードルを色の指示に従って並べたり、片付けたりできた。ハードルのまたぎ越し、床に置いたはしご渡りができた。</li> <li>・円柱、正方形、玉を使った紐通しは、左手に持って、右手で紐を通すことができるようになった。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の人とのかかわりを楽しみ、身振りや音声言語を使ってコミュニケーションをすることができるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師とのやりとりを楽しむ。教材をひっくり返したり投げたりして、気を引こうとする。相手に合わせて動いたり待ったりすることは苦手。</li> <li>・場面にあった自発語が増え、41 語の自発語がある。模倣で言う言葉は多数。</li> <li>・具体物と写真のマッチングは三択方式で 90% の正解率でできる。</li> <li>・自分の名前の文字のマッチングは姓と名に分けると確実にできるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション意欲が高く、自分の気づいたこと、感情、要求などを周囲の人にことば、身振り、表情、音声などで伝え、一緒に楽しむことができる。</li> <li>・絵・写真カードをマッチングしてその名を言う学習を繰り返し行った。身の回りの物の写真は六択でほぼ 100% の正解率。</li> <li>・自発語が 25 語増え、形容詞や動詞の使用も少しずつできるようになってきた。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に必要な動作が少しでも一人でできるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗濯ばさみの付け外し、瓶のふたを開けること、ボタンを外すことができるようになった。</li> <li>・紙を持つ手を援助すれば、はさみで直線に沿って切り進むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい鉛筆の持ち方ができるようになり、自分の名まえの文字のなぞり書きができるようになった。</li> <li>・ひもをクロスして 1 回結ぶことができるようになった。</li> </ul>	

評価と今後の課題

(4) 事例4 (知的障害養護学校)

自立活動指導部 (4名) が設置されている。自立活動における個別の指導計画は、図4-1に示す観点と手順で作成し、計画に基づいて指導と評価を行っている。

1 本校の自立活動における「個別の指導計画」の作成手順と評価

本校では、小・中・高等部とは独立した専任部として

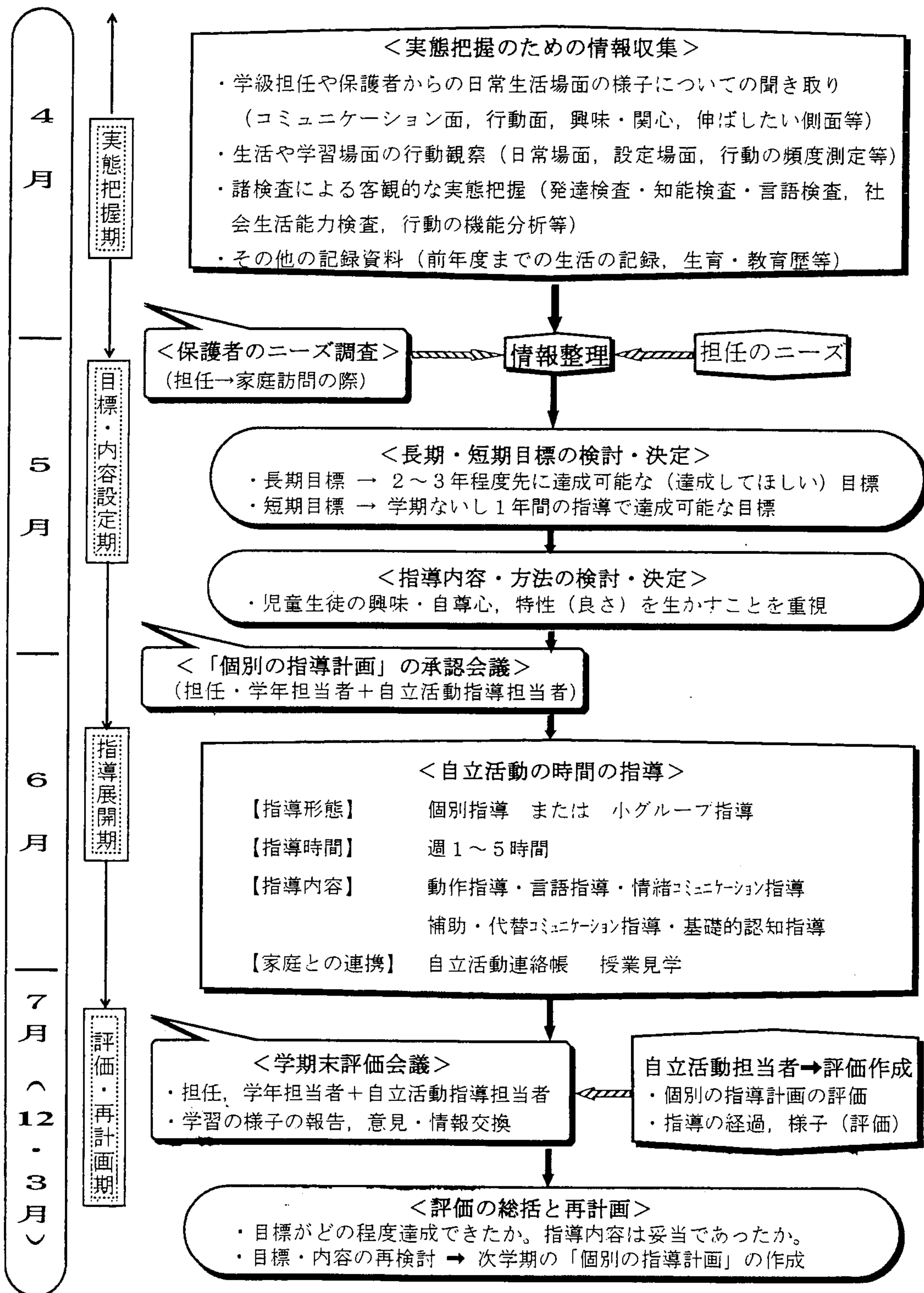


図4-1 自立活動における「個別の指導計画」の作成手順

(1) 実態把握と保護者・担任のニーズ把握

ア 児童生徒の実態は、次のような情報や記録資料等を整理して把握する。

- ① 生活・学習場面の行動観察（日常の場面、設定場面、行動の頻度測定等）
- ② 諸検査による客観的な実態把握（知能・発達検査・言語検査・社会生活能力検査・行動の機能分析等）
- ③ その他の記録資料（前年度までの生活の記録、生育・教育歴等）による情報

イ 保護者・担任・本人のニーズを具体的に把握する。保護者のニーズ調査は、アンケート項目をもとに、学級担任が家庭訪問時に聞き取りを行っている。

(2) 指導目標（短期・長期）の検討・決定

ア 長期目標は、1～3年程度先に達成できる（達成してほしい）と考えられる目標を設定する。

イ 短期目標は、学期ないし1年間の指導で達成可能と考えられる目標（長期目標達成のためのスモールステップとして）を設定する。

ウ 目標設定においては、子どもの良さ（伸ばしていきたい力）と課題（改善していきたい力）の両面から検討・設定する。

エ 目標の記述については、児童・生徒を主語にして、「～ができる」等の表現にする。

(3) 指導内容と方法の検討・決定

ア 指導目標の達成に向けて効果的な指導プログラム（系統・継続的方法）を設定する。

イ 児童生徒が興味・感心をもって取り組めるような教材・教具を工夫する。

ウ 児童生徒が課題の達成感、成就感、成功感を十分に体験できる内容を検討する。

(4) 「個別の指導計画」の承認会議

個別の指導計画の目標や内容を複数の教師間で共通理解するために、「個別の指導計画の承認会議」を設定する（各学年会に自立活動担当者が入って行う）。

(5) 指導の展開

ア 児童生徒の実態や目標・内容に応じて、個別または小グループ指導の形態を設定する。

イ グループでの指導に当たっては、「個別の指導計画に基づくグループの指導計画」を作成し、個別性と集団性の両視点をもって指導を進めていく。

ウ 日々の指導における記録の取り方（記録用紙）については、評価に直接結び付くように工夫していく（指導場面のビデオ録画や写真記録も定期的に撮る）。

(6) 指導の評価（計画者側の評価と児童生徒の評価）

自立活動の評価は、個別の指導計画の評価（計画者側の評価）と指導の経過（児童生徒の評価）についての評価を行う。

ア 個別の指導計画の評価（計画者側の評価）

学期毎に、短期目標がどの程度達成されたか、指導内容・方法が妥当であったかどうかについて評価し、次学期の指導方針（短期目標）を明確にする。

イ 指導の経過についての評価（児童生徒の評価）

児童・生徒の学習の様子、変化、努力状況、態度等を評価する。

ウ 本校における自立活動の評価システムの現状は次の通りである。

- ① 評価は、自立活動担当者が作成する（個別の指導計画の評価、指導経過の評価）
- ② 自立活動担当者が作成した評価資料をもとに、各学年会で学期末評価会議を設定し、学期中の様子の報告、意見や情報交換、次学期の方針の確認を行う。
- ③ 保護者への評価提出は、自立活動担当者が作成した評価そのもの（高等部）、または要約を各学部の評価様式に転記して行っている。
- ④ 指導要録へは、全学部とも学級担任が規定の様式に転記している。

(7) 次学期の個別の指導計画の作成（再計画）

学期末の評価に基づいて修正・継続を検討し、次学期の自立活動の個別の指導計画を作成する。学期毎に指導計画を作成し、学年末には、総括の評価と反省を行う。

(8) 学級担任及び保護者との連携

ア 自立活動連絡帳を活用する。

自立活動担当者からは、毎回の学習の様子、習得した内容を生活の中で生かしていく視点や内容等について報告する。学級担任や保護者からは、学習内容や生活場面で生かすための質問、行動の変化等の情報が返信される。連絡帳を通して、相互の情報交換と密接な連携を図る。

イ 授業参観と情報交換会の場を設定する。

希望に応じて授業参観の機会をつくり、その際に、学習内容や経過の説明、実技指導、教材提供等を行う。

ウ 連携の実際例及び評価の例

事例 A（動作指導）においては、保護者に家庭でできる動作学習プログラムの提供（実技指導、図説資料）と、家庭動作学習ノート（連絡帳）を通して、相互の情報交換や共通理解を図った。

事例 B（言語指導）においては、生活の中で活用できる身振りサインを学級担任や保護者に伝達し、音声＋身振りの同時表出の活用を提案した。その手続きや様子等の情報交換は自立活動連絡帳を通して行った。また、長期休業前には、家庭でできる学習内容や教材を提供した。

事例A 自立活動の『個別の指導計画』

自立活動部

小学部	○年○組	氏名	○・○		
作成日	;	指導担当	○・○		
指導形態	;	個別指導	指導時間	水曜日2限目 週1時間	
指導の区分 (主に取り組む 分野・内容)	健康の保持	心理的な安定	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
			○	◎	
実態及び課題	<p>あぐら坐位では、股、腰がかたいため（特に左側が顕著）、背から首にかけて前屈し、極端な猫背姿勢になっている（重心は右側）。そのため、あぐら坐位姿勢をとるまでに時間がかかる状態である。立位では、重心が極端に右脚に偏り、片脚に重心を移して止めることが難しい。また、上体を真っ直ぐにして膝を曲げ伸ばしすることができない（姿勢が崩れる）等、姿勢や動作の偏りや歪みが多くみられている。</p> <p>これらのことから、援助に合わせて肩や躯幹部（胸・背・腰）、股関節や腰の緊張（力）をリラクゼーションできるようになること及びあぐら坐位や立位における課題動作の学習（主に腰に適切な力を入れる学習）を通して、姿勢や動作のコントロール力を高めていくことが今後の課題である。</p>				
検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢写真の測定（坐位、立位の前・後・側面）</li> <li>・重心の左右差の測定（左13kg&gt;右23kg, 10kgの左右差→右重心）</li> </ul>				
指導目標	長期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人でする動作課題の中で、肩や躯幹部のリラクゼーションができる。</li> <li>・楽で安定したあぐら坐位姿勢をとることができる（正しい姿勢づくり）。</li> <li>・左右差のない膝の曲げ伸ばしや片脚への重心移動等の立位動作ができる。</li> </ul>			
	短期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助に合わせて肩や躯幹部の力を抜いていくことができる（左側重点）。</li> <li>・スムーズにあぐら坐位姿勢をとることができる（股の弛みと背の伸ばし動作）。</li> <li>・上体を真っ直ぐにして、ゆっくりと膝の曲げ伸ばし動作ができる。</li> </ul>			
指導内容・方法	<p>(1) リラクゼーション学習</p> <p>①側臥位での躯幹にひねりによるリラクゼーション</p> <p>②肩の緊張-弛緩のコントロール動作学習</p> <p>③あぐら坐位での股、腰のリラクゼーション</p> <p>(2) 動きのコントロール学習</p> <p>①坐位での支柱づくり（腰から首にかけての直姿勢づくり）</p> <p>②立位での膝の曲げ伸ばし（上体を真っ直ぐにしてゆっくり膝曲げをコントロールする）</p> <p>③立位での左右重心移動（特に、右脚への重心移動と踏みしめ立ち）</p> <p>(3) 一人でする動作学習（家庭との連携）</p> <p>①家庭で一人でする動作学習プログラム（2つの動作課題）の設定</p>				
保護者のニーズ	<p>日常的に、猫背や肩が下がった坐位姿勢になっていることが多く、また、歩行の際の左右への揺れも気になっている。姿勢を自分で修正する力を身に付けてほしい。家庭で取り組める内容があれば教えてほしい。</p>				
評価（○学期）	<p>肩や躯幹部のリラクゼーション学習では、躯幹部については援助に合わせてスムーズに力を抜いていくことができているが、肩の力の抜き方はまだぎこちない状態である。また、坐位の姿勢づくりでは、腰・股の弛みが進んできて、腰にタテ方向の力を入れて（背を伸ばして）保持できるようになってきている。立位での膝の曲げ伸ばし課題では、足首のかたさが左右不均等なため、膝の曲げ方も不均等になり、曲げ伸ばし動作全体が不安定な状態である。これらのことから次学期は、坐位で肩に「力を入れる→抜く」動作のコントロールができるようになること、安定したあぐら坐位姿勢がとれるようになること（猫背の自己修正）及び立位で左右均等な膝の曲げ伸ばし動作がスムーズにできるようになることを短期目標とする。</p>				

◆指導の経過（〇学期評価） ○ ・ ○

\* 児童生徒の学習の様子、態度、変化、日常生活への拡がり等を、項目・内容別に分けて具体的に記述する。  
\* 学習の中で、できるようになってきた経過や、今後の課題となること等を中心に記述する（ネガティブな表現が多くならないように留意する）。  
\* 学習の様子が分かりやすいように、また、読み手が関心をもちやすいように図や写真等を多く用いて表現する。

<リラクゼーション学習>

軀幹部（胸・背・腰）のリラクゼーション学習では、4月当初、力を抜いていくことが難しかった左側も、援助に合わせて力を抜いていくことができるようになり、緊張の左右差が随分少なくなっている。また、あぐら坐位での股・腰のリラクゼーション学習では、股を閉じる方向に力を入れる→抜くことを繰り返していく中で、徐々に股・腰の弛みが早くなり、学期後半には自分でスムーズにあぐら坐位姿勢をとれるようになってきている。

<動きのコントロール学習>

坐位での支柱づくり学習では、あぐら坐位で腰にタテ方向への力を入れることができるようになり、背を伸ばして楽に姿勢をとれるようになってきている。立位での膝の曲げ伸ばし課題では、浅く曲げて伸ばす動きはスムーズにできるようになってきているが、深く曲げていくと足首に負担がかかって姿勢が前傾して崩れてしまう状態である。また、左右片脚への重心移動課題では、苦手な左脚にも上体を傾けずに重心を移して止めることができるようになってきている。

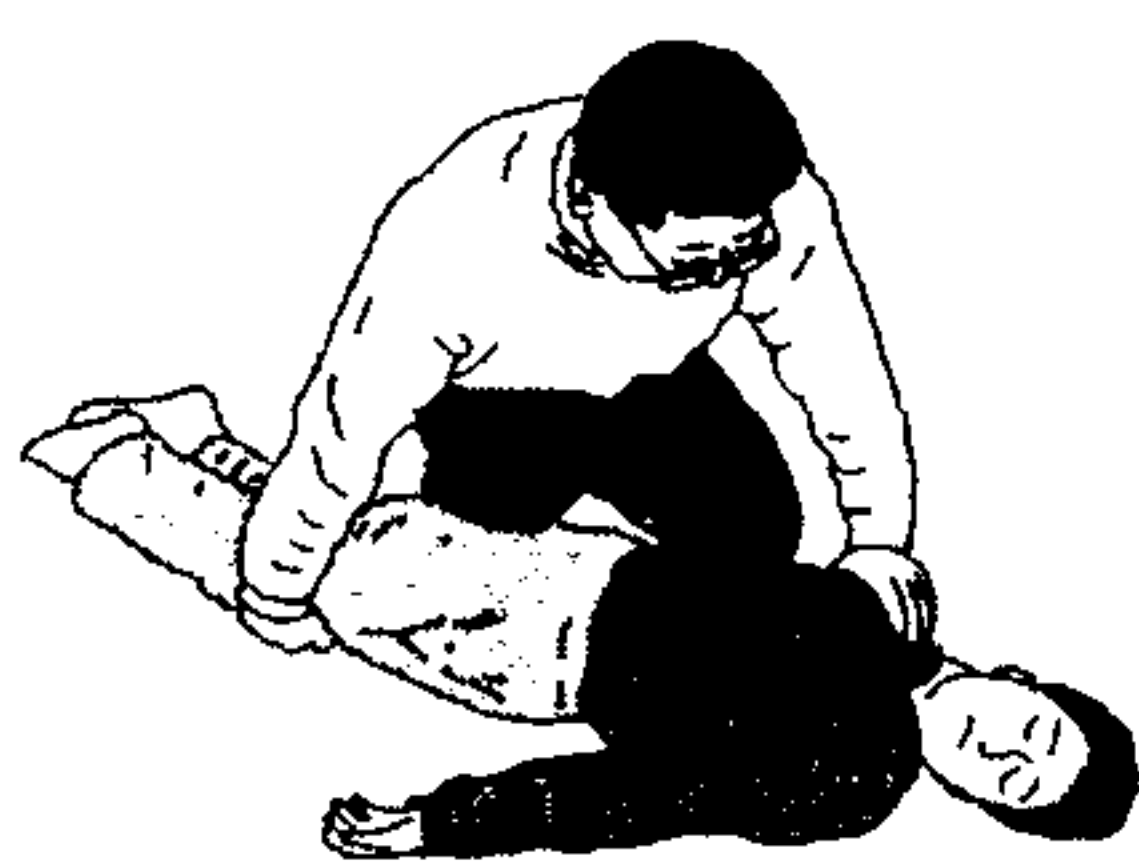
<全体を通して>

援助に合わせて力を入れたり、抜いたりすることがスムーズにできるようになってきている。特に、あぐら坐位で腰に力を入れる動作が安定してできるようになり、悪い姿勢（猫背）と良い姿勢の両方を体現できるようになってきている。

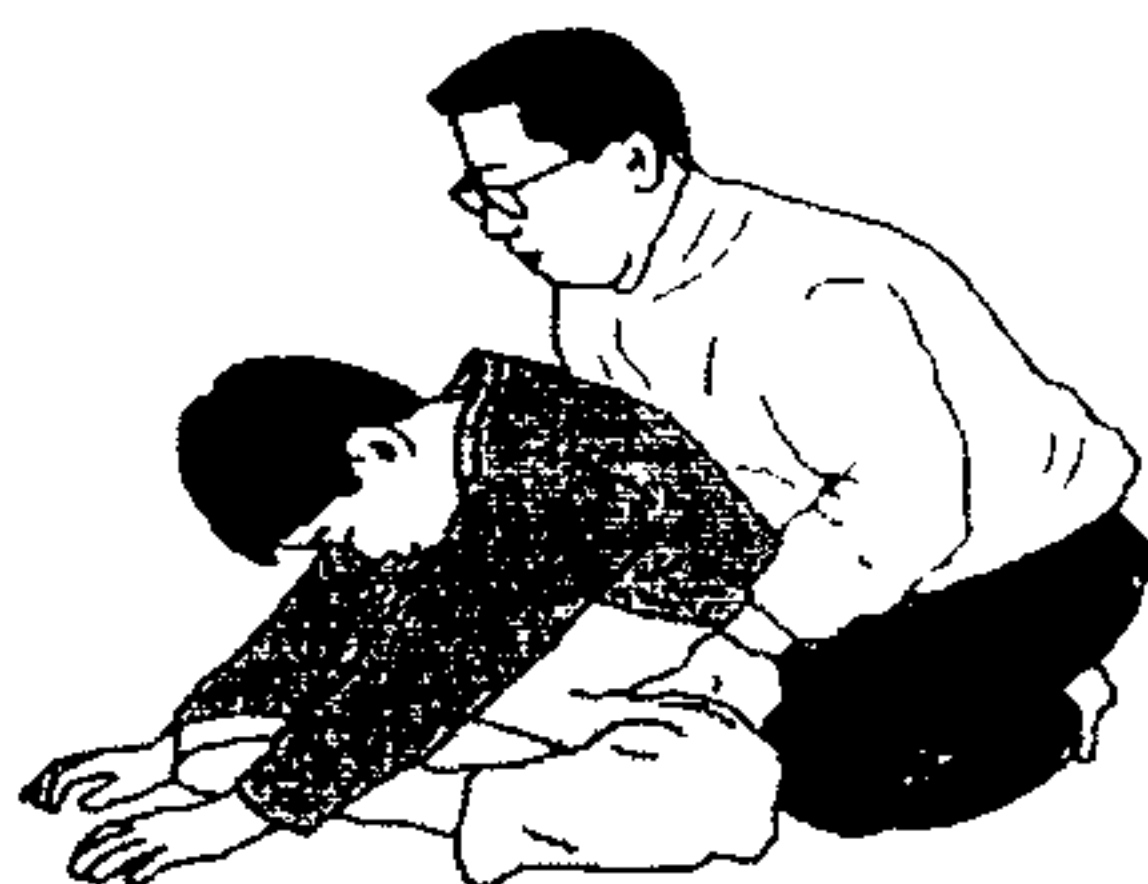
家庭や学級の日常場面（学習・食事）においても、姿勢（からだ）への気付きが早くなり、極端な猫背姿勢が少なくなっている。また、声かけの援助でスムーズに姿勢を正すコントロールができるようになってきている。

次学期も、肩や軀幹部を中心としたリラクゼーション課題と、坐位や立位での姿勢・動作のコントロール課題（腰の動きの調整、重心移動等）の習熟が課題である。

<動作学習の内容>



（軀幹のリラクゼーション）



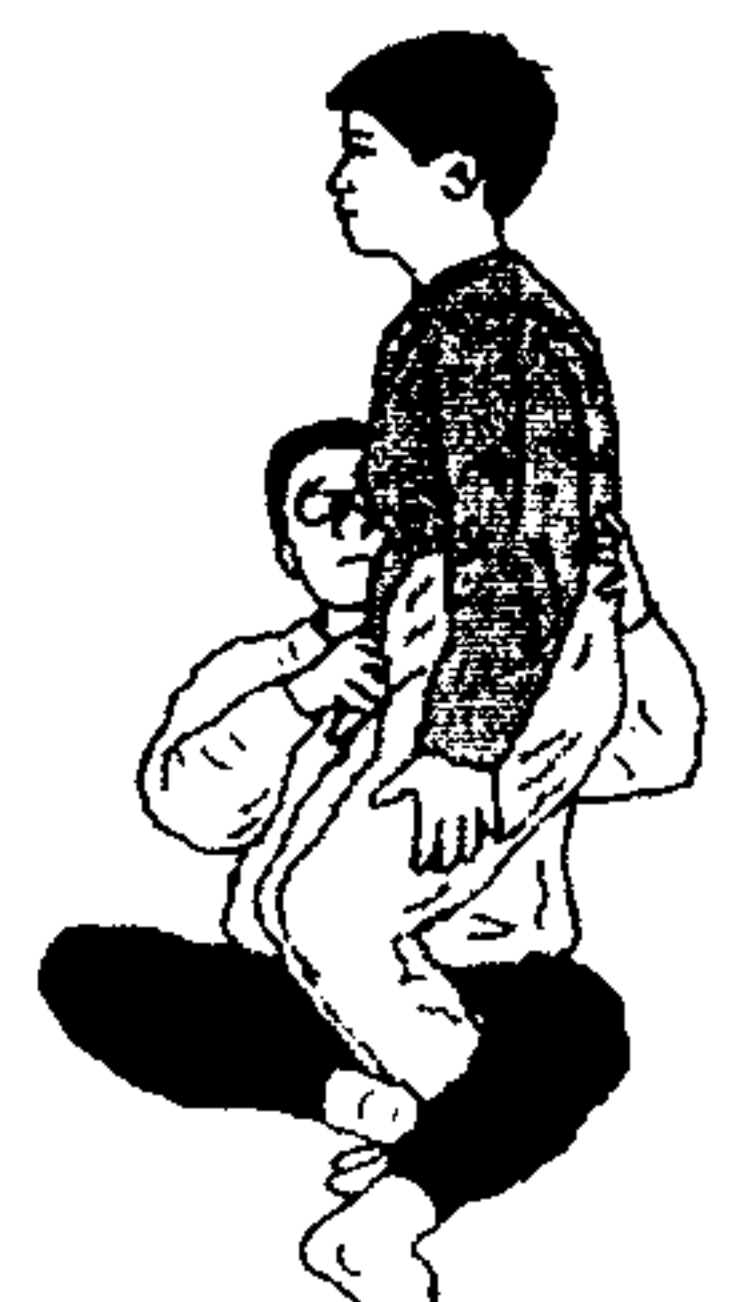
（股・腰のリラクゼーション）



（支柱づくり）



（重心移動）



（膝の曲げ伸ばし）

事例B 自立活動の『個別の指導計画』

自立活動部

小学部	○年○組	氏名	○・○			
作成日	;	指導担当	○・○			
指導形態	;	個別指導	指導時間	月曜日4限目, 水曜日4限目, 週2時間		
指導の区分 (主に取り組む 分野・内容)	健康の保持	心理的な安定	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション	
					◎	
実態及び課題	<p>理解言語, 表出言語ともに豊富であるが, ハ行音, ラ行音が母音化したり, サ行音がタ行音になる等, 発音の省略や置換が多くみられている。特に, 摩擦音 (sa,so,φω,ha,fa等), 破擦音 (tʃo,tsω,dza,dʒa等), 弾音 (ra,ro,re,) の発音が不明瞭で, 呼吸動作や口唇・舌の動きのコントロール面に課題がみられている。本児の伸ばしたい点は, 身振りの表出が得意で (行動観察及び言語学習検査から), 習得も早いことから, 発話補助として身振りを積極的に活用していきたい。これらのことから, 呼吸や口唇・舌のコントロール学習, 発音の強弱やリズムの調整学習及び音声に身振りを加えた同時表出学習 (音声+身振り) を系統的に進めていくことが今後の課題である。</p>					
検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ITPA言語学習能力診断検査 (言語学習年齢=○歳○ヶ月)</li> <li>・構音検査 (単語検査, 文章検査, 構音類似運動検査)</li> </ul>					
指導目標	長期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発音の大小 (強弱), 速度, リズム等を調整して発話できる。</li> <li>・サ行, ハ行, ラ行音を含む単語を一音一音丁寧に発音できる。</li> <li>・滑らかな口唇と舌の動きができる。</li> <li>・音声に身振りを併用した発話ができる。</li> </ul>				
	短期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口周辺に付けたミルク煎餅を舌尖で舐め取ることができる (舌の動きの活性化)。</li> <li>・「小さな声」と「大きな声」の音量調節ができる。</li> <li>・「～をしています」の動詞構文を身振りをつけて発話することができる。</li> </ul>				
指導内容・方法	<p>(1) 基本準備指導……①口周辺のリラクゼーション ②口形・舌の動きの模倣  (2) 発声準備指導 ①呼吸動作……吹く (紙吹雪等を吹く) ・吸う (ストローで紙片を吸い付けて移動させる等)  ②腔内動作……口唇・舌・頬の動き学習 (口形模倣・ミルク煎餅の舐め取り等)  (3) 発声・発話指導  ①単語発音: 質問⇄応答者を役割交替する (サ, ハ, ラ行音等を含む単語を中心に)。  ②発話調整学習: 「大きな声」⇄「小さな声」, 「早口」⇄「ゆっくり」の調節学習  ③2~3枚の絵カードを見て, 簡単なお話をつくる。  ④音声+身振りの同時表出学習: 10秒程度のビデオ動画や絵・文字カードを見て, その状況や行為を音声+身振りで表出・報告する (20種類程度の会話構文)。  (4) 学級・家庭との連携: 本児が習得した身振りの伝達と活用の仕方を提案する。</p>					
保護者のニーズ	<p>積極的に発話できるようになってきたが, 発音の聞き取りにくいことが多いので, もう少し丁寧に発音できるようになってほしい。また自信をもって相手に自分の意思を伝えるようになってほしい (身振りも併用して)。</p>					
評価 (○学期)	<p>口唇上に付けたミルク煎餅の舐め取り課題では, 苦手であった舌先を上方向に動かすことが安定してできるようになり, 舌の動きが滑らかになってきている。「小さな声」⇄「大きな声」の音量調節課題では, 口形と呼吸の調節がスムーズになり, 特に「小さい声 (ささやくような声)」の発音が聞き取りやすくなってきている。「～をしています」の動詞構文を音声+身振りで表出する課題では, 20種類程度の会話構文を身振りとともに発話できるようになってきている。その際, 身振りを大きく表現することで, 発話のリズムがゆっくりになり, 聞き取りやすい発音になっている。これらのことから次学期は, 発話の早さ (早口で⇄ゆっくりと) を調整できるようになること及び音声+身振りによる同時表出のレパトリーを拡大していくことが課題である。</p>					

◆指導の経過 (〇学期評価) ○ ・ ○

<発声準備指導>

呼吸動作の学習では、吹く動作について、勢いよく、長く、断続的に吹くことがスムーズにできるようになってきている。また、吸う動作については、ストローで小玉を吸い付けて移動させたり、吸い笛を鳴らすことが安定してできるようになってきている。口唇や舌の動きの学習では、口唇周辺に付けたミルク煎餅の舐め取りがスムーズにできるようになり、特に苦手であった上方向の動きも、滑らかになってきている。舌を上下・左右に素早く、自在に動かせるようになることが今後の課題である。

<発声・発語指導>

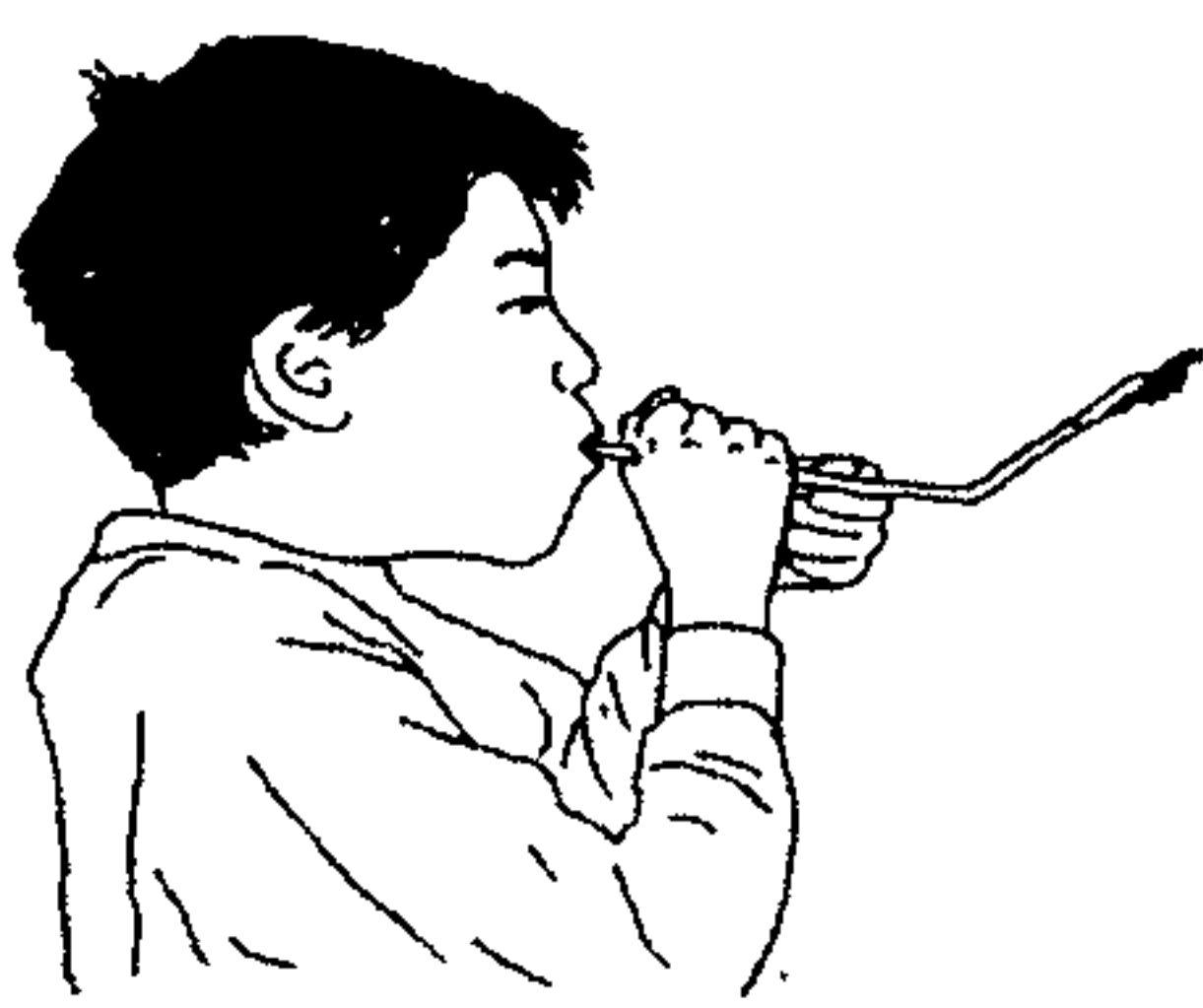
「小さな声」と「大きな声」の音量調節学習では、口形の強調と、呼吸の調整が意図的にできるようになり、「小さい声 (ささやくような声)」の発声が、4月当初に比べると随分聞き取りやすくなってきている。指導者の発音の間違い指摘学習では、発音の間違いを素早く指摘し、修正することができるようになってきている。同時に、自分の発音の誤りへの気づきも早くなり、素早く修正できるようになってきている。

「～をしています」の動詞構文を音声+身振りで表出する学習では、20種類程度の会話構文を身振りを併用してスムーズに発話できるようになってきている (例：猫が鳥を 見ている。ここに 座って テレビを 見る。等)。身振りを用いると、リズムよくゆっくりと発話できることから、発話全体が聞き取りやすくなってきている。今後も発音の補助手段として積極的に身振り活用を促していきたい。

<全体を通して>

呼吸や舌の動き、発話における音量調節がスムーズにできるようになる等、発声の基礎学習が進んできていることから、今後は、積極的に「音声+身振り」の発話・伝達学習を取り入れていきたい。家庭・学級との連携としては、自立活動連絡帳を通して、本児が習得した身振りを担任や保護者に伝達し、その活用方法を提案していった。その中で、日常場面においても「始めます」「終わります」「一緒に遊ぶ」「待つ」等の身振りサインを自発できるようになってきている。次学期は、さらに口唇や舌の動きの活性化及び音声+身振りによる同時表出のレパートリーを拡大していくことが課題である。

<動作学習の内容>



(吹く学習：ロケット発射)



(ストローでの吸い付け運び)



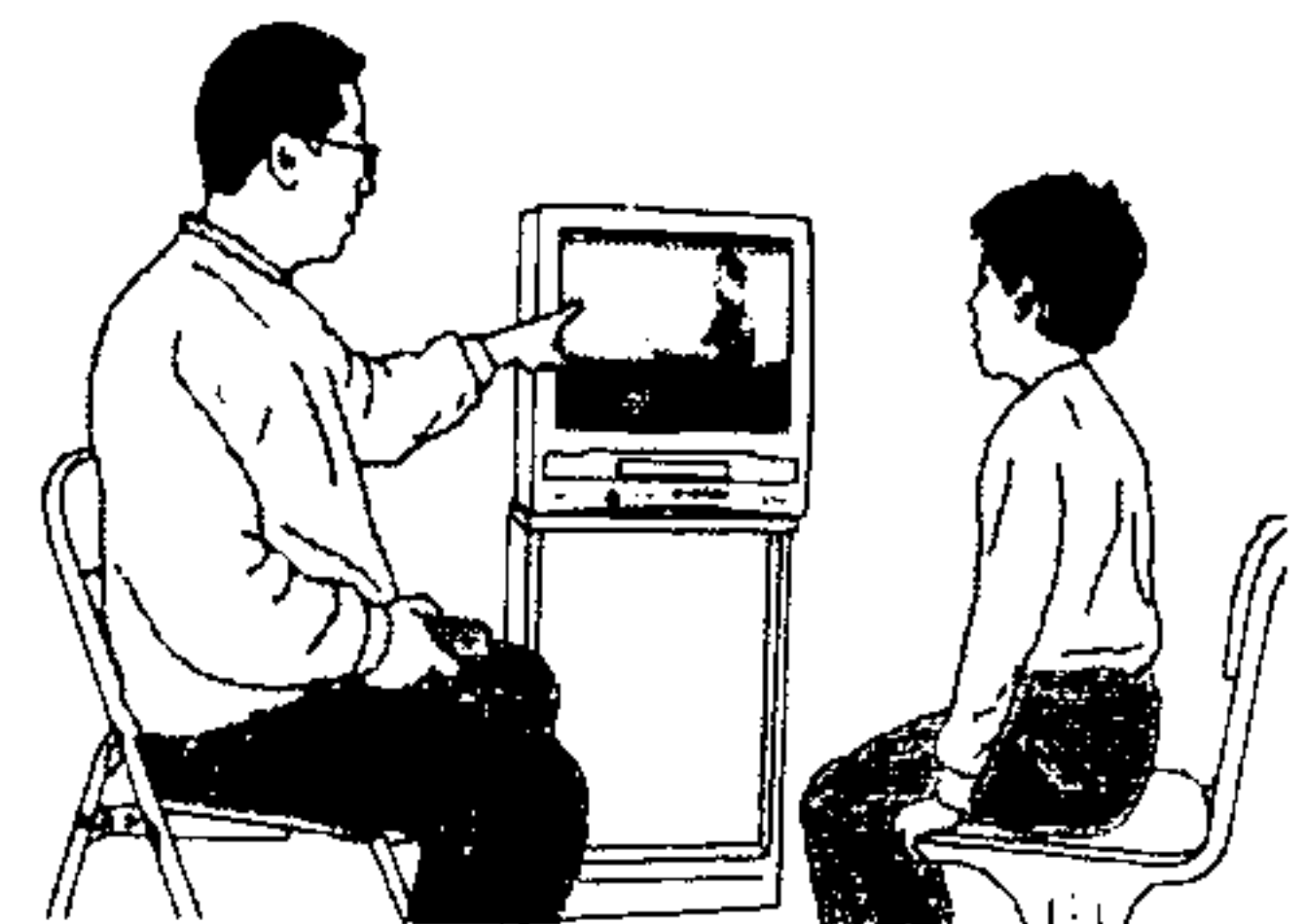
(ミルク煎餅の舐め取り)



(発音学習)



(音声+身振りの同時表出学習)



(質問 ⇄ 応答学習)

## (5) 事例5 (肢体不自由養護学校)

### 1 はじめに

本校は、平成12年に新設開校した、まだ新しい肢体不自由養護学校である。学校経営の基本理念に「共有」「共感」「教育」を掲げ、「一人一人を大切に作る学校」づくりをその具体的な方向性の一つとしている。そして、個別の指導計画に基づいた指導を進めていくことがその中心となっている。

本校では教育課程を編成するに当たり、新学習指導要領に基づき既存の概念を改めて問い直すことから始め、その結果を現実の形(システム)として表すとともに、それに則り実際の教育実践を斬新な発想で行っている。例えば、その大きな特徴の一つとして、指導内容・方法や学習集団が規定されるおそれのある類型化からの脱却を目指し、あらかじめ児童生徒個々のニーズから様々な工夫された授業を児童生徒が主体的に選択できるという方式(バイキング方式)が試みられている。

本稿では、個別の指導計画や指導記録の様式を具体例として取り上げ、その実践を紹介する。

### 2 個別の指導計画について

本校の個別の指導計画作成の骨子にかかわる大きな特徴は、「子どもからの発想」という視点を徹底するとともに、学校全体が協働し、実際に機能するようなシステム作りや、取り組みの土台に地域(あるいは保護者)を据えていることである。

上記1に述べたように、この骨子の作成に至るまで、改めて以下の課題について議論が行われた。

- (1) 類型化によるグルーピングは児童生徒の「個」に焦点が当たっているといえるか。
- (2) 学校全体の教育目標、部の教育目標、学年目標、・・・長期目標・・・、の意義は実際の「個」の教育目標に先行して意味が濃いものなのか。
- (3) 実際には誰のための指導内容なのか、内容や方法に子どもを合わせてはいないか。
- (4) 集団の個別化は実際に「個」の課題に迫ることができてきたか。
- (5) インフォームドコンセントやアカウンタビリティの理念にこたえ、保護者との真の連携を図るべく指導計画を保護者に公開できないものか。
- (6) 計画倒れにならず、現実に機能する学校全体でのシステムをどのようにして整備していくのか。
- (7) 子どもの生活の場は広い。時間、空間的に学校内で完結してしまう取り組みをしていたのではないか。

その結果、個別の指導計画を実際に機能させるための取り組みの要点は、以下に示す5点が挙げられた。

- (1) 指導に直接かかわる個別の指導計画の内容を充実させること。
- (2) 個別の指導計画はシンプルであること。
- (3) 個々の子どもたちが必要とする授業内容や学習集団を提供するために、学校全体が協働するシステムを整備すること。
- (4) 子どもたちは、地域に帰り地域で生きていくことから、取り組みの土台に地域を据えること。
- (5) 子どもたちにかかわる人々の心をつなぐこと、学校の基本理念や学校の教育目標を個々の子どもたちに徹底すること。

### 3 個別の指導計画、評価の実際

本校においては、「現在の学習状況」について把握し(様式1)、さらに「その他の情報」として、子どもの興味・関心や家庭・地域での生活等について保護者や関係者等からの情報もできるだけ収集するように努めている(様式2)。

#### 様式1

個別の指導計画(情報1)

小学部 中学部 高等部	年	氏名	記入者
		作成者	
各教科	国語 算数 体育 身体の動き	* 記入上の留意事項 ・対象児童生徒によって、記載する項目(教科)は異なる。 ・前年度の指導要録と関連付けて記入する。 ・「自立活動」は、全員記載する。 ・「身体の動き」は、全員1項目以上記載する。	
自立活動			
特別活動			
道徳			
総合的な学習の時間			
省略			

#### 様式2

個別の指導計画(情報2)

その他の情報	
興味・関心	
寄宿舎での生活	
家庭・地域での生活	* 記入上の留意事項 放課後の過ごし方、休日の過ごし方、家族とのかかわり、社会資源の利用(ボランティアなど)、公共施設や公共交通機関の利用などについて記載する。
配慮事項	
関係機関との連携	医療機関(配慮事項) 療育機関(配慮事項)

#### 保護者の願い

--



さらに、本人の希望や保護者の願い等も踏まえながら、担当者間で検討し、現実に直結する具体的な指導目標を設定する（様式3）。

収集した情報や設定した重点目標と関連させながら、その子が「何を」「だれと」「いつ」学習するのかを個々に明らかにし、教育内容・方法を組織する（様式4）。

### 様式3 個別の指導計画（計画1）

#### 今年度の重点目標

重点目標設定の理由 * 記入上の留意事項 将来像も含めて、その子をどうとらえ、どうしようと計画しているのかを明らかにする。 家庭 保護者との役割分担（意識付け）をするために記載する。
---

#### 重点目標達成のための考え方

* 記入の仕方 「～ということから、～することにより、～となると考える。」
--

### 様式4 個別の指導計画（計画2）

マイタイムのめあてと内容	学習状況との関連
* 記入上の留意事項 計画の見直しについては、その都度加筆する。	

時間割の名称	グループ学習のめあて（集団）	学習状況との関連
音楽		
体育		
〇〇タイム		

#### 時間割

	月	火	水	木	金	土
1	(省略)					
2	(省略)					
3	(省略)					

児童生徒個々に設定した重点目標について、指導中の様子や指導者が講じた手だてや所感など、指導の経過を「指導記録」として記述し（様式5）、形成的な評価として指導への活用を図る。また、指導を行っている担当者間で定期的にミーティングを行い、前期終了時には、「子どもの評価」と「教師側の評価」を行い、指導目標の修正や指導内容・方法の改善を図る。後期終了時には総括的評価を行う。

### 様式5

#### 指導記録

重点目標・学習のめあて	時間	指導経過（児童生徒の様子、指導の手だてや教師の所感など）
		* 記入上の留意事項 ・枠組みは各担当者が工夫する。 ・必要に応じて写真などを添付する。 ・2～3枚程度にまとめる。

#### 寄宿舎生活の様子

平成	年度	期	室	舎生名	室担
生活の様子					

\* 通知表と一緒に保護者に提示する。

個別の指導計画（P）、指導実践（D）、評価（S）のサイクルは図5-1のようになっている。

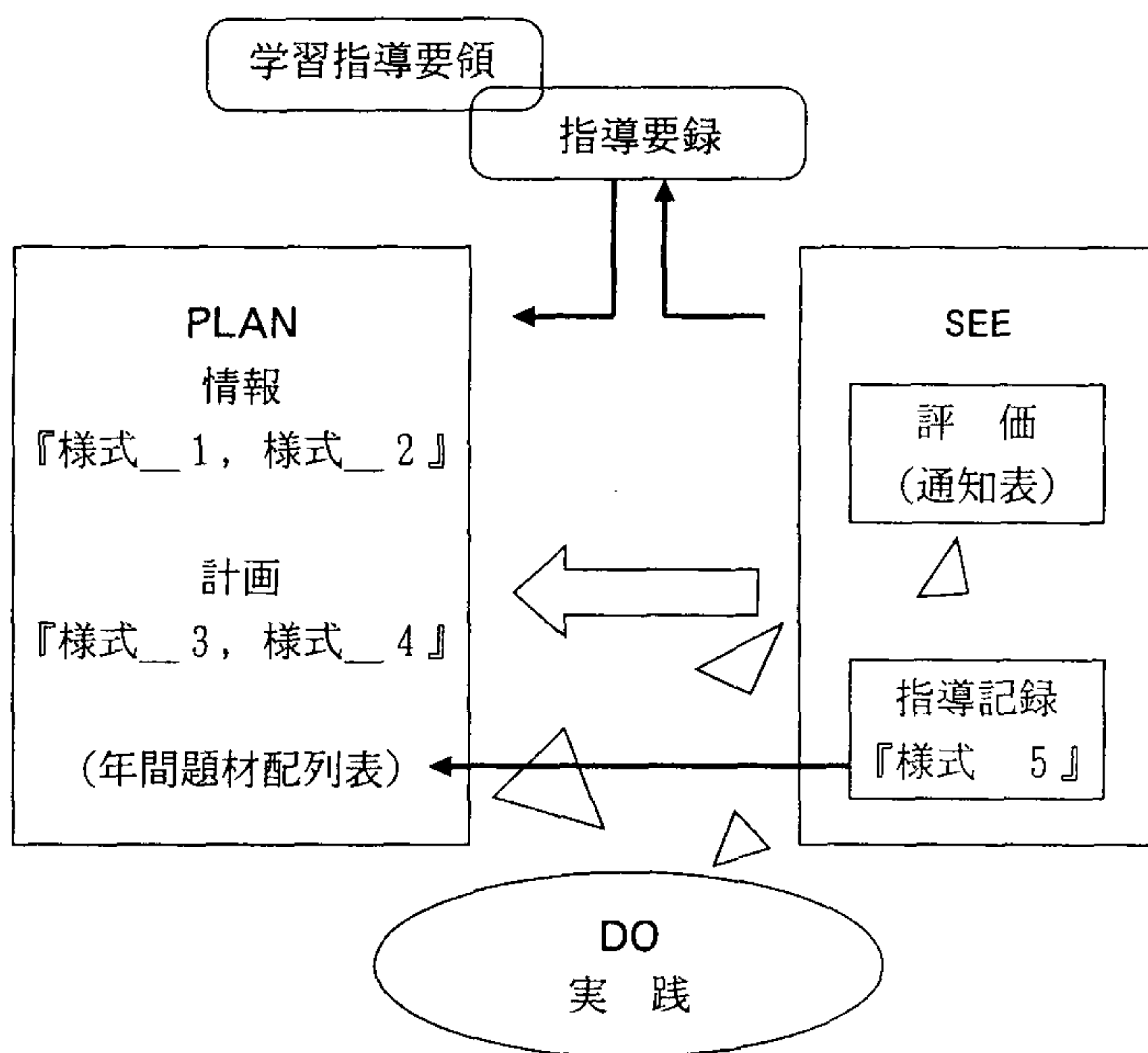


図5-1 個別の指導計画P・D・Sサイクル

これらの教育活動を円滑に行う工夫（全校協働体制、人的システムの工夫）として、

- ① 各部主事、主任等による助っ人集団によるサポート
- ② 子どもの課題をサポートする授業への飛び入り参加
- ③ 指導者の指導上の相談や助言を行ったり、グループミーティングや他学年との調整等を行ったりする指導グループチーフを置いている。

#### 4 おわりに

今回、本校における実際の教育活動を見学する機会を得た。まずはじめに驚かされたのは、子どもたち、先生方が生き生きと活動していること、そして子どもたちの集団構成が授業時間ごとにめまぐるしく変わっていくことであった。したがって、他の多くの養護学校のように一カ所にいれば、ほぼその学校の流れが把握できるということではなく、見学者にとって大変見づらいという初めての体験をした。

本校における教育活動は、全般にわたり、この例のように私たちにとって初めての体験であることに間違いはない。したがって、その実践で生じる様々な課題についても、従前の価値観によってとらえることは困難であることを感じた。

とにかく、何か新しいことが起こりつつある実感を本校の実践から感じることができた。今後の成果を大いに期待したい。

(6) 事例 6 (病弱養護学校：腎臓疾患児の指導)

とが必要である。また教材の選定を始めとして、学習形態や指導方法を多様な形で工夫、改善していくことが求められる。

1 はじめに

腎臓疾患児の自立活動では、腎炎やネフローゼなどの病種の違いのほか、入院して間もない者、長期入院や入院を繰り返す者、退院を間近に控えた者など、その経過、課題は多様であり、個に応じた指導がきわめて重要である。そのためには、一人一人の病状や経過、能力や適性を的確に把握して、個の実態に即した指導をしていくこ

こでは、腎臓疾患児の自立活動の評価について A 児の個別の指導計画をもとに述べる。

2 生徒の実態把握

実態把握の観点として、①腎臓疾患の状態をどの程度理解しているか、②腎臓疾患の改善に必要な生活様式を

表 6-1 腎臓疾患用実態把握及び評価表

生徒名 ( )

区分	内容	指導目標	指導事項	具体的な指導事項	評価 入院時	必要な指導事項	評価		
							一学期	二学期	三学期
健康の保持	腎臓疾患の状態の理解	自己の腎臓疾患状態を理解する	病名、病状	自分の病名、病状、					
			腎臓病の概要	腎炎、ネフローゼなど					
			人体各部名称	自分の身体、心臓、肺、その他の内臓器官					
			腎臓の形態	腎臓の形、大きさ、個数、位置など					
			腎臓のしくみ	糸球体、尿細管など					
			腎臓の働き	尿、老廃物、血液ろ過、尿のできる過程					
			安静について	運動時と安静時、安静が必要な理由、安静度に応じた生活					
			食事について	栄養素の役割、食事の摂取の仕方、栄養のバランス、残さず食べる必要、食べてはいけない食品、カロリー計算					
	薬について	自分が服用している薬、服用上の注意、副作用							
	腎臓疾患の	腎臓疾患の改善に必要な生活様式を理解する	病棟生活・日課	病棟日課、起床時間、消灯時間、整理整頓					
			外泊・睡眠	外泊時の日課、起床時間、就寝時間、安静時間、生活リズム					
			感染予防	手洗い、うがい、清潔、風邪と腎臓病					
			保温	気温に応じた暖房、衣類の調節					
			検査	蓄尿や血液検査、検査の大切さ、検査を受ける態度、検査					

表 6-2 評価基準表

	指導目標	指導事項	具体的な指導事項	評価
健康の保持	自分の病気について	病名、病状	自分の病名が分かり、病状がおおよそつかめる。	自分の病気の状況、治療の基本方針が
		腎臓病の概要	腎臓病には腎炎、ネフローゼがあることが分かる。	3つの治療法が分かる(安静、食事、
		自分の身体	身体各部、心臓、肺等主な内臓器官の名称が分かる。	心臓、肺、胃など主な内臓器官の名称
	腎臓について	腎臓の形態	腎臓の形、大きさ、個数、位置が言える。	腎臓の形、大きさ、個数、位置が図示
		腎臓のしくみ	糸球体、尿細管の名称と位置が言える。	糸球体、尿細管の名称と位置が分かり、
		腎臓の働き	体内の老廃物が尿であることが分かる。	腎臓も含めた血液の流れが分かり、尿
病弱の状態の理解	治療について	安静	運動時と安静時の身体の状態が分かり、安静にすると腎臓の負担が減り、身体が休まることが分かる。	安静の必要性(なぜ安静が腎臓の負担自分の安静度に応じた生活規制が分か
		食事	病院食は栄養のバランスが考えられており、残さず食べることが大切であることが分かる。	病院食はカロリー計算や栄養のバランス食事療法の目的と主な制限、適量摂取
		薬(副作用、感染予防)	自分の飲んでいる薬の名称が分かる。服用方法が分かる。骨折や虫さされ、切り傷に注意しなければならないことが分かる。	プレドニン、メドロールは病気を治しプレドニン、メドロールの服用により風邪をひいたりすると病状悪化につな
生活様式の	基本的な生活習慣	病棟生活・病棟日課	病棟日課を守って生活しようとする。起床時間と消灯時間を守ることができる。	なぜ病棟日課が決めているか考えるこ病棟日課に沿って生活することができ
		外泊・睡眠	外泊時も起床時間、就寝時間、安静時間が守れる。	外泊時も起床時間、就寝時間、安静時
		感染予防	手洗い、うがいがきちんとできる。	身の回りの清潔に注意して生活するこ
		保温	寒いときには上着を着る。	寒暖に合わせた衣服を自分で調節して

どの程度理解しているか（知識・理解面）、③腎臓疾患の改善に必要な生活習慣がどの程度確立しているか（技能面）等の把握が必要である。これらの点について、病院や家庭、前籍校等からの資料を始め、本人との面談や観察、テスト等から情報を収集する。腎臓疾患に関するアンケート84項目を実施し、面談や観察、アンケート等で得られた情報をもとにして、指導が必要な事項を指導内容把握表に整理する（表6-1）。おおよその評価の基準は表6-2に示した通りであり、腎臓疾患にかかわる健康の保持に関する指導内容、活動例は表6-3に示した通りである。

以上のような実態把握に必要な情報を得、評価基準表や指導内容と活動例を参考に個別の指導計画を作成した。

### 3 個別の指導計画

A児の指導目標、指導内容等を記した個別の指導計画は表6-4に示した通りである。

### 4 指導と評価

自立活動の指導に当たっては、指導と評価の一体化という観点から、事前、事中、事後の評価を大切にし、特に、指導の過程における評価（形成的評価）を重視した。A児に応じたきめ細かな指導・支援をするために、個別の指導計画により指導の個別化を図り、指導目標が達成できるように様々な学習内容（表6-4）を組んだ。

病気の理解に関すること、食事に関することなど様々な学習内容に対して興味・関心・知識、技能などの実態把握を行い、それによってA児の活動における指導目標を具体的に設定した。前時の様子などをもとに形成的

表6-3 「健康の保持」の指導内容と活動例

	項目	指導内容（目標）	活動例（題材等）
病気の状態の理解と生活管理	自分の病気 腎臓疾患の概要 身体各部の関連	自分の病名、病気の状況、基本方針が分かる。 病気の種類、原因、病理、治療法等が分かる。 主な内臓器官の名称と働き、関連が分かる。	自己ファイル作成 「私の腎臓カルテ」 内蔵の絵カードづくり、人体模型作成
	腎臓の形態 腎臓の構造 腎臓の働き	腎臓の形、大きさ、重さ、個数等が分かる。 糸球体、尿細管等腎臓の仕組みが分かる。 ネフロン働きと腎臓の調節機能が分かる。	腎臓カルタ作成 学習ソフトづくり ろ過実験、絵図作成
	安静の実践 食事療法の実践 服薬の実践 運動の実践	安静が必要な時は進んで休むことができる。 病状に応じた献立を立て調理方法を工夫して作ることができる。 主な薬の種類と働きが分かり、服薬の管理ができる。 病状に合った運動量や運動の仕方が分かり実践できる。	「疲労と安静」 「私のクッキングメモ」、成分表の見方 じんぞう君ソフト 「私たちのスポーツ」「スポーツメモ」
生活のリズムや生活習慣の形成	病棟生活・日課 外泊（家庭生活） 睡眠について 感染予防 保温・衣服調節 検査について	病棟日課を守り規則正しい生活ができる。 外泊時に生活リズムを考え生活できる。 睡眠の意義や睡眠の方法と効果が分かる。 感染予防の意義が分かり衛生に注意して生活できる。 保温の意義が分かり、衣服の調節ができる。 検査の意義と方法が分かり、検査に協力することができる。	養訓すごろく 「外泊時の生活」 体験的調査活動 「風邪の予防と腎臓病」「冷えと腎臓病」 「いろいろな検査」 「蓄尿の習慣」
	安静について 食事について 服薬について 運動について	安静の意義と安静度に応じた生活が分かり、安静時には安静をとることができる。 食事の意義と摂取の方法が分かり、食事に気をつけて生活できる。 服薬の意義と注意事項等が分かり定時に服用できる 運動の必要性や運動制限に留意して生活できる。	運動と脈拍数の実験、「安静の意味」 「体にやさしい食品」、栄養素調べ 医師への質問 「運動と体」
健康状態の維持改善	運動と健康 各種身体活動 食生活と健康 日常生活と健康管理	運動の大切さを知り、運動が自己の健康管理に関係が深いことを知る。 軽運動等により血液循環を促したり筋力の低下を防ぐ。 運動の楽しさを知る。 日々の食事が自己の健康管理と密接な関係にあることを知る。 健康状態の維持改善のために日常的に健康管理に気をつけていくことができる。	「運動の大切さ」 「ウォーキング」 「卓球」「バドミントン」 「校内オリエンテーリング」 「食事と健康」

表 6-4 自立活動 個別の指導計画

氏名	A	高等部 2 年	生年月日 ○年○月○日 (16) 歳	転入月日 ○年○月○日
病名 (発症の状況)	慢性腎炎 Iga 腎症 高等部 1 年の 9 月に転学する。現在、高等部 2 年生			
専門医の 助言等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・症状が重く、登校までは時間がかかる。学習の補充をしながら心理的な安定を図る必要がある。</li> <li>・免疫抑制剤を使用しているので感染には充分注意をする必要がある。</li> <li>・病状は安定してきているが、4 A の安静度で動き過ぎないようにする必要がある。</li> </ul>			
指導目標	<p>&lt;長期目標&gt; 退院後の生活を見通して、自分の病気の状態を理解し、その改善を図ることができる。 病状の進行防止に必要な生活習慣の理解を深め、生活の自己管理ができるようにする。</p> <p>&lt;短期目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腎臓のしくみと働きについて理解し、病状に合わせた生活を実践できる。</li> <li>・病状に応じた食事や運動について実際に体験しながら理解することができる。</li> <li>・退院後の生活に向けて具体的な場面を考え、意欲をもって前向きに生活できる。</li> </ul>			
具体的指導内容	学習内容・目標		題材(活動)	指導記録と評価
健康 の 保 持	自己の病弱 状態の理解	自立活動の学習について再認識し病状に合わせた個人目標を設定して意欲を高める。 腎臓のしくみと働きについて調べ自分の腎臓との関係を説明できるようにする。  食事療法の目的と自分の適正摂取量について理解する。  運動時と安静時の身体への負担の違いを調べ、安静度に応じた生活の必要性が分かる。	自立活動の目標 を作ろう 腎臓のしくみと 働きを調べよう  病状に応じた食 事を考えよう  安静について調 べよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩分、タパキ、カリ-と腎臓の関係を調べ、レポート形式にまとめて発表することができた。その過程で生活規制の意味を認識することができた。</li> <li>・塩分を控えた様々な調理法について知り、外泊時や夏休みに実践しようとしている。</li> <li>・心拍数や血圧の違いなどを実際に調べてグラフにすることにより、身体の負担を数値で知ることができた。</li> </ul>
	健康状態の 維持改善に 必要な生活 習慣の確立	起床時間、就寝時間、食事時間等生活リズムを考え、実践できる。  感染予防の大切さを知り、身の回りの清潔や四季に合った保温方法を考える。	自分の生活リズ ムを作り出そう  感染を予防しよ う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠の大切さや腎臓との関係を知ることにより、規則正しい生活の必要性を知った。</li> <li>・腎臓病とかぜの関係や免疫抑制剤の意味を知り感染予防の大切さを感じることができた。</li> </ul>
	諸活動によ る健康状態 の維持	種々の運動を体験し、運動前、運動直後 5 分後の脈拍、血圧を測定し、身体の変化を理解し、体調に合った軽運動を考える。  調理活動を通して、病状に合わせた食事を実践し、自己管理能力を養う。	運動と身体の変 化  楽しんで取り組 む調理活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に運動して自分の身体の変化を知ることにより、体調に合わせて運動していく大切さを知った。</li> <li>・病状にあった食事を作ることができ、工夫した献立をおいしく試食したことも成就感につながった。</li> </ul>
心 理 的 な 安 定	情緒の安定	先輩の話聞くことを通して、社会に出てからの病状に応じた自己管理の仕方を学ぶ。  学校や病棟生活での不安や悩みを話し、今後の生活のあり方を考える。  <u>*教師は、再発時や病状が悪化した時、不安を軽減するかかわりを重視</u>	将来の設計先輩 に学ぶ  気持ちを語ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と同じ悩みや不安をもつ先輩の話を実際に聞くことができ、将来について現実的に考えることができた。</li> <li>・病気に対するいらだちや友人関係、進学についての不安を話し、前向きな生活のあり方について真剣に考え、話した。</li> <li>・体調が悪化し、不安感が強くなった時、林の中を散歩したいと希望した。散歩をしながらいろいろな話をしていくうちに、自分の病気や将来についての不安な気持ちを聞いてもらった。話を聞いてもらうことにより、気持ちが少し楽になったという。</li> </ul>
	意欲の向上 及び積極的 な態度の育 成	自己の病気を取り巻く状況を知り、それに応じた進む道を探し出すことができる。	ロールプレイで 疑似体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイリスク状況を設定し、ロールプレイを行うことにより、自分の病気ことや生活規制について説明できるようになった。</li> </ul>

評価を行い、A児が自分の目標を立てて実践し、評価した。こうした実態把握→目標設定→実践→評価を繰り返すことにより、自己管理能力を高めようとした。

この際に行われる評価の多くは、注(31ページ)で示した評価の4つのモデルのうち、指導内容が構造化され、外的基準で評価されるBタイプが多い。しかし、自分の病気に合った生活のリズムや生活習慣を形成していく上では、単に知識が増えていくことだけでは自己管理能力は育成されない。様々な活動を通して自己管理していかうとする意欲を高めたり、自己管理しにくい場面(ハイリスク状態)を設定し、ロールプレイ等で自己管理していく上での困難さを疑似体験したりする内的基準による評価、すなわち、Aタイプの評価が大切であった。また、再発したり、病状が悪化したりして不安が強い時には、評価の観点からするとCタイプが重要であった(表6-5)。

また、生徒同士による相互評価を取り入れることや同じ病気の先輩の話聞き、先輩から評価してもらうことも大切であった。同じ病気をもつ者同士、同じ病気を抱えながらも社会参加している先輩による評価は、大いに意欲を高め、効果的であった。

これら様々な活動に対して、教師や生徒同士又は先輩からの評価や内的基準による評価、いわゆる自己評価を行うことにより自己管理能力の育成に寄与するものと考えられる。

表6-5 A児のタイプ別評価の例示

	内的基準	外的基準
構造化	Aタイプ ・ハイリスク状況を設定し、ロールプレイを行うことにより、自分の病気や生活規制について説明する際の不安感、緊張感、困難な気持ちを体験した。そして、その対処法を自らの気持ちを理解、整理することで学んだ。	Bタイプ ・塩分、タンパク、カロリーと腎臓の関係を調べ、レポート形式にまとめて発表することができた。その過程で生活規制の意味を認識することができた。
非構造化	Cタイプ ・体調が悪化し、不安感が強くなった時、林の中を散歩したいと希望した。散歩をしながらいろいろな話をしているうちに、自分の病気や将来についての不安な気持ちを聴いてもらった。話を聴いてもらうことにより、気持ちが少し楽になった。	Dタイプ ・服薬、安静、食事等の実際場面で生活規制が守られているかどうかを確認した。特に、食事の塩分については意識できるようになり、塩分を摂り過ぎる場合にはお汁などを残すなどの対処ができるようになった。

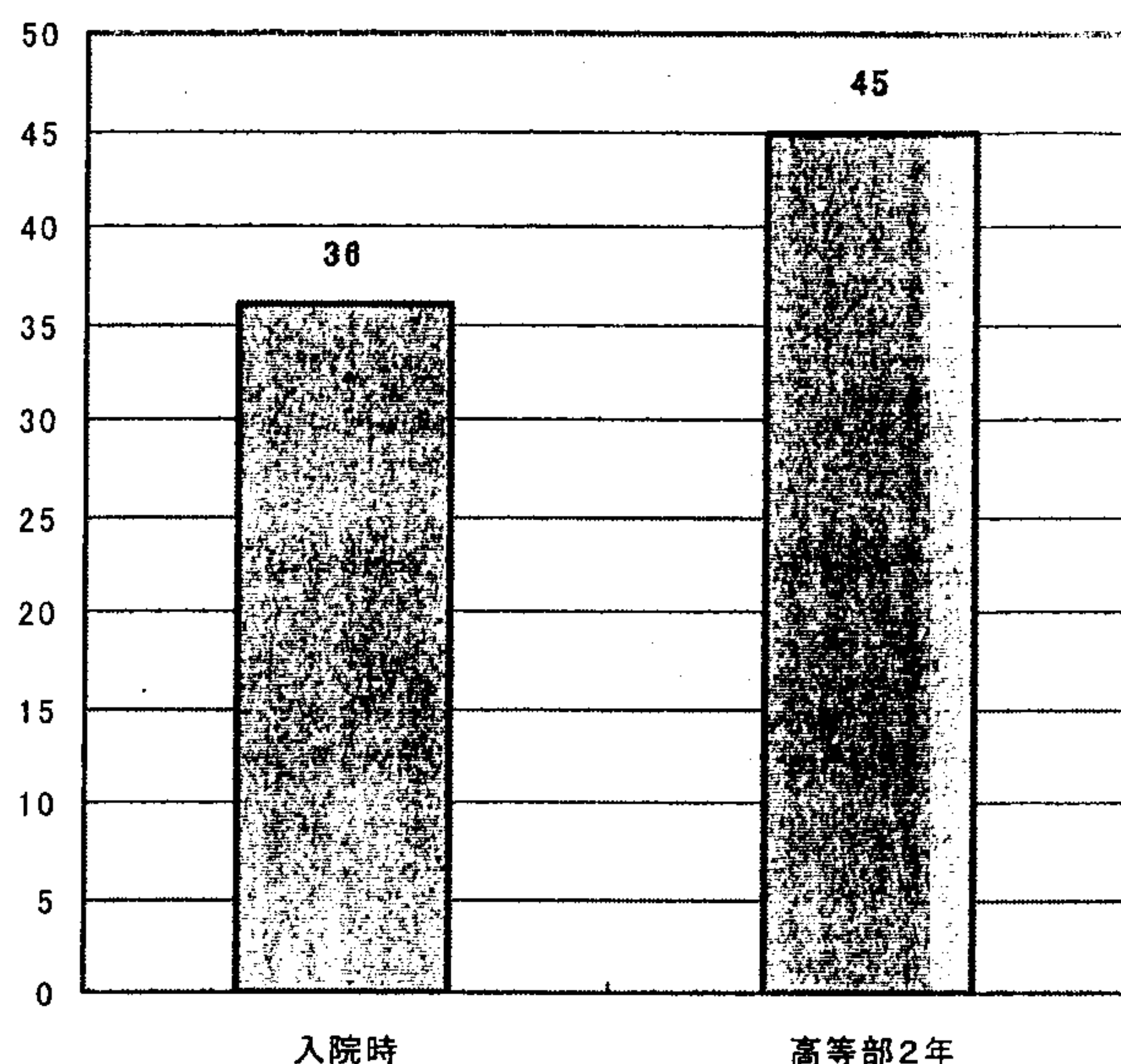


図6-1 主観的健康統制感

内的基準による評価の一つである主観的健康統制感においては、入院時(36点)よりも内的統制傾向が強くなり、高等部2年生1月現在45点であり、自ら主体的に自分の努力で健康の維持・増進に務めようとするような認知に変化がみられた(図6-1)。主観的健康統制感が内的統制傾向に向くことは、病気を自らの努力で管理していかうとする意欲が高まったことを意味するものであり、自らの病気の状態に対して主体的に対処しようとするものである(武田・原, 1997)。

本児の評価のタイプとその例示は、表6-5の通りである。

この事例は、A養護学校の実践事例を参考にして武田が記述したものである。

#### 文 献

- 水越敏行・奥田眞丈：「教育指導の評価」ぎょうせい、1995。
- 武田鉄郎：「病弱・身体虚弱児に対する指導(2)指導計画の作成と展開例」香川邦生・藤田和弘編『自立活動の指導』教育出版、2000。
- 武田鉄郎：「健康障害児の自立活動—多様化への対応—」養護学校の教育と展望 116, 20-25,
- 武田鉄郎：「腎疾患児の自己効力感と対処行動、主観的健康統制感との関連—入院している中学部生徒を対象に—」国立特殊教育総合研究所研究紀要第27巻, 1-9, 2000。
- 武田鉄郎・原 仁：「慢性疾患で入院している子どものセルフ・エフィカシーに関する研究」小児の精神と神経 37 (1), 71-78, 1997。

(7) 事例7(病弱養護学校：

表 7-1 障害ステージ分類 (上田)

進行性筋ジストロフィー児の指導)

1 はじめに

進行性筋ジストロフィーの発症は、3～4歳頃とされるが、もっと早い場合もある。小学校入学の頃から動揺性歩行が目立ち、転びやすくなる。その後、筋力の低下が進むと、床より立ち上がる、階段を昇降する、いすから立ち上がるなどの動作ができなくなる。8～12歳頃には歩行も困難で車いすに頼る生活となり、14～15歳頃になると移動は困難になり、自力での座位保持だけではどうにかできる状態になる。この頃になると寝返りも困難になる。16～18歳頃には自立での座位保持は困難になるが、車いす等に乗る、ベルトでサポートすれば座位を保つことができる。手指の筋萎縮は進行が遅いので、ベットで寝たままでワープロやパソコンのキーの操作などは行うことができる。表7-1は、上田の障害のステージである。

ここでは、進行性筋ジストロフィー児の実態と個別の指導計画を例示し、指導の評価について4つのタイプに分けて評価の観点を概説する。

2 生徒の実態

本児は、中学3年生で進行性筋ジストロフィー(デュシャン型)の生徒である。障害のステージはVIであり、

ステージ
I 歩行可能：介助なく階段昇降可能(手すりも用いない)
II 階段昇降に介助(手すりなど)を必要とする
III 階段昇降不能：平地歩行可能：通常の高さのいすからの立ち上がり可能
IV 平地歩行可能：いすからの立ちあがり不能
V 歩行不能、四つ這い可能
VI 四つ這い不能だが、それ以外の這い方(いざり這い)可能
VII 言うことはできないが、自立で座位保持可能
VIII 自立で座位保持不能、全介助

四つ這い移動は不能であるが、いざり移動は可能である。中学3年生の1学期時に、心筋梗塞を併発したが、現在は安定していて、経過観察中である。食後30分は安静を必要とする。学校と病院との合同のケース会議において、自立活動の時間や教科の時間に、手指機能、上肢機能、呼吸機能、関節の拘縮、変形予防、筋力の維持に配慮してほしいことを医療者側から要望として出された。

校内での移動は、自力で車いすをこぐように励ましているが、徐々に自力での車いす移動は困難になってきている。電動車いすへの移行期であり、体育や遠出をする時には電動車いすで移動している。車いすに乗る際に、姿勢を保持するために体幹をベルトで固定している。腕や指先の筋力が落ちてきているため、机の引き出しの開

表 7-2 B児の「健康の保持」「身体の動き」の指導内容と活動例

項目	指導内容・目標*	指導時間	活動例又は教材等
健康の保持	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	◎ △	「健康な生活」「排泄の意味」「食品と栄養素」「健康な生活と疾病」「食事の役割」「ストレス対処」など
	病気の状態の理解と生活管理に関する事	◎ △	
	健康状態の維持・改善に関する事	◎ △ ◎ △ ◎ △	
身体の動き	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	◎ △	「体操(筋ジス用)」 「安静」  「あっち向いてはい」「輪ゴム渡し」  「的あてゲーム」「風船バレー」「車いすホッケー」「車いす卓球」など
	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用**に関する事		「読み書き支援補助具：電動車いす用の机、離被架型書写台、電動消しゴムなど」
	日常生活に必要な基本動作に関する事		「移動用：電動車いす」 「コンピュータ入力用：トラックボールやペン入力のタブレットなど」

以下省略

◎ ……主に自立活動の時間で指導する内容      △ ……各教科・領域で指導する内容  
\* 児童生徒の興味・関心に基づき、医師や理学療法士等医療者との連携を図りながら指導内容を設定していく。  
\*\* 児童生徒にあった補助具を開発し、活動の制限(activity limitation)を改善していく。

表 7-3 B 児の個別の指導計画（3 学期）

氏名	B	学部・学年	中学部 3 年生	病名	進行性筋ジストロフィー
日常生活や学習上の困難な状態	<p>専門医等からの助言</p> <p>障害のステージは VI であり、四つ這い移動はできないが、いざり移動は可能である。中学 3 年生の 1 学期時に、心筋梗塞を併発したが、現在は安定していて、経過観察中である。食後 30 分は安静を必要とする。</p> <p>手指機能、上肢機能、呼吸機能、関節の拘縮、変形予防、筋力の維持について、自立活動の時間や教科の時間に配慮してほしい。</p>				
長期目標	<p>補助的手段の活用を積極的に行い運動・動作の活動の制限を改善することや諸活動を通して心理的な安定を図ること、病気の状態を克服する意欲の向上を図る。</p>				
区分	具体的指導（支援）目標	指導時間 △各教科等 ◎時間の指導	指導内容・方法 時間における指導	各教科等に 関連する指導	指導記録と評価
心理的な安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>病気の進行や体調の変動による心理的不適応の改善を図る。</li> <li>諸活動による情緒の安定を図る。</li> <li>病気の状態を克服する意欲の向上を図る。</li> </ul>	◎ △ ◎ △ ◎ △	<ul style="list-style-type: none"> <li>カウセンシング的活動を通して心理的不適応の改善を図る。また、造形的活動を通して心理的な安定、意欲の向上を図る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>心筋梗塞を併発していた時は、気分が落ち込み、不安感が強かった。T 児の好きなマンガの世界に入り込んで自分以外の人間との接触を極力避けていた時期があった。担任との関係性の中で、マンガのキャラクターと自分を同一視し、キャラクターを通して不安、怒り、無力感など様々な内面を語った。その後に気持ちを取り戻している。</li> <li>客観的にも落ち着きを取り戻している。</li> <li>様々な補助具を工夫・活用してきた結果、これらの活用については積極的である。特に、電動車いすに移行する時、内外的基準評価として、自分の病気が電動車いすに乗らなければならぬほど進行してしまったのかと落胆するという評価と、電動車いすは、自分の行きたい所へ行きたい時に行くことができるようになり、とても便利であるという 2 つの評価をした。時間の経過の中で、行動範囲も広がり、自分の世界も拡大した。それに同級生の D 君も使用している。別に特別なことではない、と言っていた。</li> <li>教師自身の評価としては、本児の身体を固定する位置やスティックの重さ、握りやすさについて本児と話し合ってきたつもりでいたが、身体の状態が時間経過とともに違ってくるのでリアルタイムで本児やリハビリから情報をもらいながら早めに本児に負担をかけないよう補助具や教材の工夫・改善を行う必要があった。</li> <li>ゲーム性を高めると、頸部、上肢、手指、呼吸機能を高める活動に積極的に取り組んでいた。</li> <li>感染症の話や排泄、栄養に関する知識は、ビデオ等を視聴したり、インターネットで検索したりして興味をもって聞いたり、取り組んだりしていた。しかし、生活リズムの話については、トイレや睡眠について自分一人の力では移動することができないなど看護師に依存することのジレンマを話していた。</li> </ul>
身体の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助的手段の活用を図り、日常生活動作の制限の改善を図る。</li> <li>移動、食事、書字、コンピュータ入力等</li> </ul>	◎ △	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み書きに対しては、学習動作を支援するための机、離被架型書写台、電動消しゴムを活用する。体育的活動を支援するために軽量のホッケー用のスティック、電動車いす等を工夫・活用する。</li> <li>息を吐き、ろうそく消し等を行うことで呼吸機能の維持を図る。</li> <li>マットの上で仰向けに寝る、ストレッチなどを行う。</li> </ul>	<p>各教科の学習場面</p> <p>体育の時間</p>	
健康の保持	<ul style="list-style-type: none"> <li>関節の拘縮、変形予防、筋力の維持を図る。</li> <li>頸部機能の維持・改善を図る。</li> <li>上肢機能の維持・改善を図る。</li> <li>手指動作の維持・改善を図る。</li> <li>健康状態の維持・改善に必要な知識、生活のリズム及び生活習慣の形成を図る。</li> </ul>	◎ △ ◎ △ ◎ △ ◎ △ ◎ △	<ul style="list-style-type: none"> <li>顔を上下、左右に動かす、首を回す等の動きが入っているゲームや活動を行う。</li> <li>投げ、振る、腕を上げる、持ち上げる等の動きの入っているゲームや活動を行う。</li> <li>握る、開く、ねじる、つまむ等の動きの入った活動を行う。</li> <li>感染症の予防や栄養、食事、睡眠、排泄等の生活のリズムに関する授業を行う。</li> </ul>	<p>体育</p> <p>健康な生活と疾病予防</p> <p>家庭科</p> <p>食事の役割と健康</p> <p>食品に含まれる栄養素</p>	



け閉めやビンのふたの開け閉め等が困難になってきている。上肢を振り上げて耳の当たりまで腕を上げることができる。

病気の進行や体調による心理的不適応に陥ることがたびたびあり、その時には癩癩を起こしたり、物事に対してこだわりを強くもったりすることがある。周囲から孤立しがちである。

### 3 個別の指導計画

個別の指導計画を作成する時又は指導を行う際には、医療者と連携を密にし、実施する必要がある。B児の「健康の保持」「身体の動き」に関する指導内容と活動例は、表7-2の通りである。また、個別の指導計画は、表7-3の通りである。長期目標は、「補助的手段の活用を積極的に行い運動・動作の活動の制限を改善することや諸活動を通して心理的な安定を図ることで、病気の状態を克服する意欲の向上を図る。」を設定した。本児は、心筋梗塞を併発した時期があり、現在は安定しているが、自分の病状に対しては不安感が強い。ともすると不安感が強まることで無力感に陥ったり自暴自棄になることもしばしばみられた。本児にとって、「心理的な安定」は最も重要な課題として挙げられる。それと同時に、進行性の病気のために、身体機能は衰え、以前にはできていた様々な動作ができなくなっていく。補助的手段を積極的に活用して「できなくなった様々な動作をできる状態」にしていくことが重要課題である。

### 4 指導と評価

自立活動の時間における指導は、週3時間行っている。指導の概要は、表7-3のB児の個別の指導計画を参照していただきたい。

評価の観点としては、機能面でできなくなっていくことを評価することよりも、補助的手段を工夫し、活用していくことで「できる」状態を保持し、内的基準の評価を重視していくことが重要であると考えられる。例えば、B児の場合、電動車いすに移行する時、内的基準評価として、「自分の病気が電動車いすに乗らなければならないほど進行してしまったのかと落胆する」という評価と、「電動車いすは、自分の行きたい所へ行きたい時に行くことができ、とても便利だ」という2つの評価である。B児は、電動車いすに乗ると、行動範囲も広がり、自分の世界も拡大し、同級生のD君やその他の友達も使用していて、別に特別なことではない、というような評価を同時に行った。時間の経過の中で、行きたい所へ行きたい時に行けるという「便利」だという思いが強くなり、この状態を受け入れる方の気持ちに傾いていった。

B児の事例の場合、B児への評価だけではなく、教師が自分の取組を評価することが求められる。進行性の病気の場合、補助的手段を随時準備していく必要があり、生徒の「できる状態」を維持することは教師の力量にかかっているからである。教師は補助的手段を工夫し、児童生徒の補助的手段の活用環境をいかに準備することができたかという教師支援に対する評価も同時に行われな

表7-4 B児のタイプ別評価の例示

	内的基準	外的基準
構造化	Aタイプ ・電動車いすに移行する時、内的基準評価として、自分の病気が電動車いすに乗らなければならないほど進行してしまったのかと落胆するという評価と、電動車いすは、自分の行きたい所へ行きたい時に行くことができるようになり、とても便利であるという2つの評価をした。電動車いすを使用して、行動範囲も広がり、自分の世界も拡大した。それに同級生のD君も使用していて、別に特別なことではない、と言っていた。時間の経過の中で、電動車いすは、便利であり、この状態を受け入れたいという気持ちの方が強くなったという。	Bタイプ ・感染症の話や排泄、栄養に関する知識は、ビデオ等を視聴したり、インターネットで検索したりして情報を収集し、指導計画の目標を達成できた。
非構造化	Cタイプ ・心筋梗塞を併発していた時は、気分が落ち込み、不安感が強かった。T児は、好きなマンガの世界に入り込んで自分以外の人間との接触を極力避けていた時期があった。この時期に、教師と一対一で過ごすことが多かった。担任との関係性の中で、マンガのキャラクターと自分を同一視し、キャラクターを通して不安、怒り、無力感など様々な内面を語った。T児は、このかわりが好きだとい、気持ちがすっとして、とても落ち着くと言っていた。	Dタイプ ・T児が病棟の食事を残していたところに教師が訪問した。偏食がちであることから、好き嫌いなく食べることが身体には大切であることを告げたが、結局残してしまった。食事や栄養については、知識だけではなく、工夫して美味しく食べるような指導内容を組む必要がある。

ければならない。単に、機能面で衰え、できなくなったことを評価することは教育的評価を行う観点からは決して好ましいことではない。評価上の配慮で示している4つの評価のタイプでB児の評価を例示したものが表7-4である。

この事例は、二つの養護学校の事例を参考にして武田が記述したものである。

文 献

上田 敏：進行性筋ジストロフィー症のリハビリテーション。理・作・療法2(1), 14~23. 1968.

注) 評価上の配慮

病弱・身体虚弱児は、日々、病状が変化するなど体調に変動がある。病状が進行したり、悪化したりすると心理的にも不安定になりやすい。特に、進行性の病気の場合、身体機能が衰え、行動面でできていたことができなくなることがある。病気の進行に伴い不安感が強くなり、自暴自棄になったり、無力感に陥ったりすることもある。

評価に関しては、病気の知識、理解、技能の習得のように予め児童生徒の学習内容を構造化でき、客観的に評価できると、不安感を軽減したり、意欲の向上を図っていくような学習内容を予め構造化できないことがある。当然、評価の観点も違ってくる。

<自立活動の評価の構造化>

自立活動の評価に関しては、表7-5に示したように4つのタイプに分けて説明する。Aタイプは、学習内容が予め構造化されているが、評価は児童生徒自身が行う、いわゆる内的基準で評価される。例えば、腎臓疾患児に対して、退院後、中学校での給食場面を想定し、給食を残さなければならない状況を設定する。その状況下で、他の生徒から給食を残すことについて指摘されたとする。その指摘に対して自分の病気について説明しなければならない事態に、自分の病気を他者に伝えることの不安感、緊張感、困難さを疑似体験する。その時に、生徒が自分自身の疑似体験した様々な感情や達成感などを評価するものである。Bタイプは、学習内容が予め構造化されており、教師などによる外的基準で評価される。例えば、病気の知識がどの程度理解されているかどうかを評価するものであり、学習内容を教師が構造化し、学習した成果を教師が評価する。Cタイプは、学習内容が予め構造化されておらず、評価は児童生徒自身が行う、いわゆる内的基準で評価される。例えば、病気の進行が進み、不安感の強い児童生徒の心理的な支援を行う場合、予め学習内容を教師が決定しない。教師とその子どもの関係の中で安心感を得られるようなかかわりをしていくことが大切である。その結果、児童生徒が内的基準として安心感や信頼感を得ることができたり、又は自尊心が高まるなどの評価を児童生徒自身が行う。これらは児童生徒の言動や作文等から評価に関する情報を入手する。Dタイプは、学習内容が予め構造化されておらず、教師などによる外的基準で評価される。例えば、たまたま廊下で会った児童生徒に対して、薬を飲み忘れていないかなど生活規制を守ることを指導するというような偶然的教示学習である。児童生徒の主体性を重視し、自己管理能力を高めていく評価としては、Aタイプが最も有効であると考えられる。指導と評価の一体化が問われている現在、個別の指導計画から授業を創造し、実践していく上で従来各教科等で行われてきたBタイプの評価や授業から内的基準を重視したものに移行することが求められている。

表7-5 評価のタイプとその例示

	内的基準	外的基準
構造化	Aタイプ ・ロールプレイなど疑似体験 ・諸活動による心理的な安定	Bタイプ ・病気の理解
非構造化	Cタイプ ・カウンセリング等による心理的な安定	Dタイプ 偶然的教示学習

<健康を維持・改善しようとする意欲の評価>

評価を行う際に内的基準を重視することは、自己管理能力を育成していく上で重要である。例えば、主観的健康統制感という認知の変容を評価する方法がある。

主観的健康統制感 (Health Locus of Control) とは、健康を維持しようとするとき、自己の努力のあるなしによることが大きいと考える傾向が強いか、「運」や「親や医療関係者など」の自己に外在するものから得られると考える傾向が強いかというような健康に対する統制の位置を評価するものである。例えば、「あなたは健康のためにとる行動が実際に効果があると思いますか」や「あなたは努力によって健康を維持できると思いますか」という質問に対して、「効果がある」、「維持できる」という意識が高い場合、内的統制傾向が高いという。内的統制傾向の高い者は、健康を自己の努力によって得られると認知していると評価される。反対に、外的統制傾向の高い者は、医療関係者や薬又は運などの自己に外在するものによって健康が維持できると認知する傾向がある。内的統制傾向の高い者ほど自己管理しやすいタイプであると言われている。成功感、成就感を累積し、児童生徒の自己効力感を高めることで内的統制傾向が高まると言われている。

児童生徒が成功感、成就感を自覚でき、それらを累積していけるような評価であることが重要である。そのためには児童が自分自身に対して行う自己評価や他の児童生徒に対して行う相互評価を取り入れことも効果的である。評価する主体が児童生徒自身にあるからである。

- ・構造化とは、学習内容が子どもの学習の前に構造化されている。非構造化とは、学習の終了後にはじめて何を学習したかその内容が分かる。
- ・外的基準とは、外部の規範や権威に基づく評価で学習の開始、進行、評価などを教師がコントロールする。内的基準とは、学習者の内部の基準に基づく評価で学習の開始、進行、評価が学習者に任される。

## 2. 重複障害児の指導の評価

### (1) 事例8 (養護学校)

#### 1 書式・形式

##### (1) 基本情報のまとめ (Aシート; 図8-2参照)

ここでは、健康面や身体面、ADL、認知、コミュニケーション、社会性、本人・保護者の要望、専門家(医師、ケースワーカー、療法士、進路関係者など)の所見、担任や学部チームの考え方をまとめる。詳細については、別紙に記して添付してもよい。

##### (2) 教育課題表 (Bシート; 図8-3参照)

ここでは、基本情報を基に検討し、教育目標や教育内容を決める根拠などを記す。また、ここでは、教育目標に基づいた教育課題・内容・方法をまとめる。指導場面も記す。

##### (3) 評価 (Cシート; 図8-4参照)

Bシートに基づく実践を評価して記入する。新たにBシートを書き直したり、加筆・修正することの根拠とする。また、Bシートの作成(再作成)とCシートでの評価(再評価)とが、連続するように更新していく。

##### (4) 通知票

個別教育計画とリンクさせる必要性と、計画上には直接関係のない子どもの変容とを同時に表せるようにした。

図8-1に、個別教育計画にかかる1年間の流れを示した。上記ア～ウの各表とも、A4版1枚程度にまとめ、重い(詳し過ぎる)書類にしないようにした。詳細については、別紙を添付する。

## 2 保管方法・修正方法

### (1) 保管方法

上記の文書は、教務に1部提出する他に、学部での閲覧用ファイル(学部ファイル)と個人ファイルに各1部保管する。

### (2) 修正方法

計画の修正は適宜行うが、学期末にクラス毎にケース会議の時間を確保する(図8-1参照)。

修正は、赤ペンで上書きする。A、B、Cの各シート毎に改訂版として改めて書き直すことも可能である。その際、前の資料は指導歴として保存しておく。

個人ファイルのものを基本としてこれを修正の対象とするが、学部ファイルも同様の加筆や修正をし、計画の変容を公開する。

### (3) ケース研究

ケース研究は、個々のケースを話題にしながら、個別教育計画のありようについても話し合っていく。

## 3 その他

個別教育計画(A、Bシート)作成後、評価(Cシート)をもとに課題の検討項目の修正・加筆を行ってきた。しかし、実際に授業を組み立てていく中で、個別教育計画をみても教科毎のねらいが読み取りにくいといった問題が出てきた。項目を課題中心に立てていて、特に教科毎に立てていないため、指導場面をできるだけ明確にしたが、なかなか分かりにくかった。そこで、実態によって必要な項目を立てていき、教科についても必要に応じて記入することとした。

なお、表8-1は、小学部1年の児童の2学期終了時点での評価表の実際例であるが、2学期に書き加えた部分については、下線で示してある。

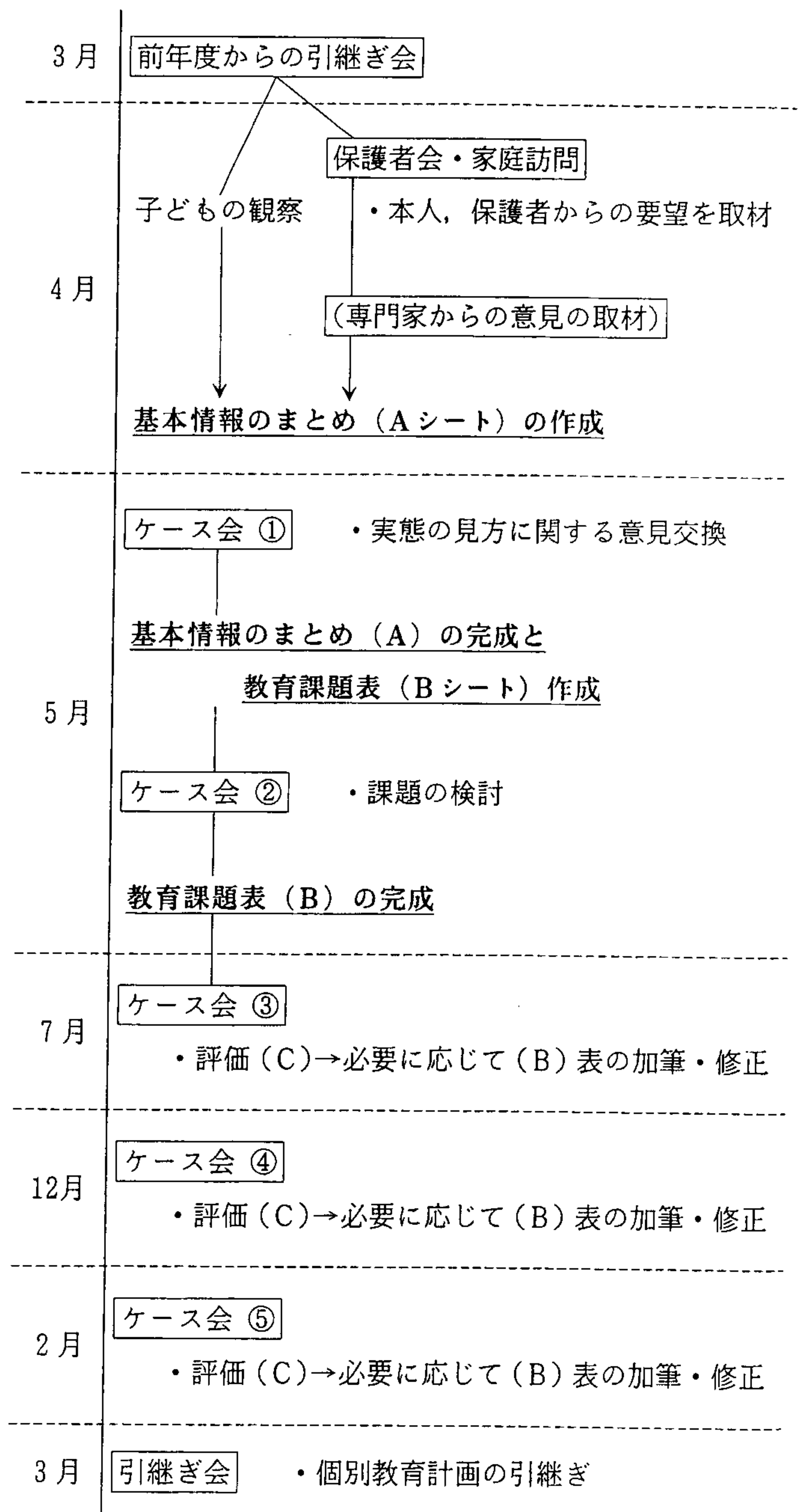


図8-1 個別教育計画にかかる年間の流れ

個別教育計画 A 基本情報のまとめ (新規・改訂)

記入日	年月日	修正日	①年月 ②年月	記入者
氏名	(学部 年)	男・女	年 月 日	生まれ

1. 本人の状況

\* (1)健康、(2)粗大運動、(3)微細運動、(4)ADL、(5)認知・学習、  
 (6)コミュニケーション・言語・意思表示、(7)社会性・行動面、  
 (8)安全配慮等

2. 本人・かかわる人の想いや意見

本人と保護者の要望・想い (月 日)

専門家 ( ) の所見 (月 日)

学校生活についての担任チームの考え

図 8-2 個別教育計画 A 表のサンプル

個別教育計画 C 評価 (新規・改訂)

氏名	(学部 年)
----	--------

教育課題の評価

教育課題	評価

\* 記入 (評価) の頻度・量は個々によって異なるので、適当に横罫線を引いて記入日を記す。

図 8-4 個別教育計画 C 表のサンプル

個別教育計画 B 教育課題表 (新規・改訂)

記入日	年月日	修正日	①年月 ②年月	記入者
-----	-----	-----	---------	-----

氏名 (学部 年)

教育目標 (教育内容についての考え方)

教育課題	指導内容・方法	指導場面

図 8-3 個別教育計画 B のサンプル

表 8-1 個別教育計画 C「評価」の実際例

個別教育計画 C

評価

(新規・改訂)

氏名	(小学 部 1年)
----	-----------

教育課題の評価

教育課題	評価
<p>(1) 健康・身体</p> <p>・健康の増進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調を崩しての欠席はなし。 4月=0 5月=2(訓練, 家事都合) 6月=1(家事都合) 7月=0</li> <li>・水分(冷たい緑茶)は苦手ということであったが, コップで飲んでいる。</li> <li>・<u>2学期欠席: 9月=1(発作) 10月=4(通院, 都合2, 風邪2) 11月=2(通院, 都合) 12月=9/25 帰宅後発作。すぐに市立病院に通院し処置をしてもらい, 1泊入院して翌日から登校した。</u></li> <li>・<u>体調を崩すこともあったが, 長引くことはなく回復が早かった。</u></li> <li>・<u>体重増加が少し気になる。4月=14.8kg, 107cm 7月=15.8kg, 9月=15.6kg, 109cm 11月=16.4kg</u></li> </ul>
<p>(2) 感覚・運動</p> <p>・緊張を和らげる &lt;ストレッチ&gt;</p> <p>・身体意識の向上を図り, 筋力をつけていく &lt;いろいろな姿勢や動き&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校後, 全身のストレッチを行った。はじめのうちは, 特に下肢を動かされることを嫌がっていたが, 慣れてきて嫌な表情を見せることが少なくなってきた。足装具を毎日つけていることも一つの要因。</li> <li>・<u>ストレッチ中, 数をかぞえると一緒になってリズム打ちをするほどの余裕が出てきた。</u></li> <li>・バルーンでも全身をリラックスして乗り, 動きを楽しむことができてきた。</li> <li>・上肢の方も動きが硬いところがあるので, プラスして行っていけると良い。</li> <li>・遊具遊び(トランポリン, ハンモックなど): 慣れてくると大きな動きに対して笑顔が見られ, 楽しめた。</li> <li>・SRCウォーカー: 友達がやっているのを見て, 自分もやりたいと意欲的である。回を重ねていくうちに, 自分で身体を動かすと進むことができる感覚が分かってきて, 自力で数メートル進むこともある。<u>足を左右交互に出して進むなど, 歩き方が上達している。自力で歩く距離も伸びている。歌などに気を取られると集中できない。(11月 SRC 作製, 1月完成予定)</u></li> <li>・キャスターボード: 仰向けに乗り両足をかけて進んだり, うつ伏せで手, 腕を使って進んだりなど, 意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・座位(あぐら, 椅子): 身体の前方に両手を付いて(結んだ状態), 自分で支えて座っていられる時間が長くなってきている。安定性が増している。左右前後に身体が傾いても自力で立て直すことができる。</li> <li>・プール: 大好きな活動の一つで, 大喜びで取り組んでいる。上肢の力が上手く抜けないが浮き輪を使って時々足を動かしながら水の中の感覚を楽しんでいる。プールの水を飲みたがっていたが, 何回か入るうちに減ってきた。</li> <li>・移動: 自分の行きたいところ(CD デッキやビデオのある場所, 食堂, プール, 水遊び場など)に腹ばいでどンドンと移動していくことが多々見られた。<u>動きが軽く, 興味がある物や所にさっさと移動している。</u></li> <li>・膝立ち: クッションチェアを利用しての膝立ちを行った。しっかりと姿勢をとっていられることが多い。</li> <li>・<u>体育: 「前に進もう」では, 腹ばいや SRC で自力での移動を意欲的にしていた。また, パラシュートでも布の動きをよく見ており, 近寄ってくる布に手を伸ばしたりしていた。</u></li> </ul>
<p>・手指動作の向上 &lt;遊びの中で&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本をめくったり, 机からスライムやタオルを落としたり, コップをひっくり返したりして遊ぶ様子が見られる。人差し指を使うこともある。</li> <li>・水筒の中栓を開けるのにボタンを押したり(自力ではまだ難しい), 出っ張りを引っ込めて閉める(自力でできる)操作を好んでしていた。</li> <li>・<u>手を洗う時などに手が水に触れることが大好きで, 腕もきれいに伸び, 指もよく動く。</u></li> <li>・<u>手つなぎ: 車椅子で移動する時, 手をつなぎたいと意思表示するので, 「握る・離す」の意図的な声かけをした。右手の方が動きがスムーズである。</u></li> <li>・<u>フォークやスプーンを持ちたがり, 机に落として遊んでいる(?), 持とうとしている(?)。</u></li> <li>・パネルシアターなどで, 歌に合わせてパネルなどを持ったり放したりの操作が意欲的にできた。</li> </ul>
<p>(3) ADL</p> <p>・トイレに慣れる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場慣れは比較的早くでき, 便座に座ることについてもクリアできている。数回, トイレでの排尿に成功した。引き続き, おむつに出ていない時や少量の時に声かけをし, トイレに座ってみることを促していきたい。</li> <li>・<u>トイレに行くことが大好きになった。2学期後半は1日の中で1回は成功する日が増えてきた。「出る・出ている・出た」の感覚が分かっているようである。出ると顔を上げてニッコリする。</u></li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べる機能の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声かけや歌などを駆使することでいろいろなメニューを少しずつでも食べられるようになってきている。その反面、一度口に入れたものでも気に入らないものは出してしまうこともある。</li> <li>・野菜や牛乳などいろいろなものを食べるようになった。完食した日も数回あった。</li> <li>・自分でフォークやスプーンを持って食べたがるようになっており、時々取り組んでいる。</li> <li>・取込み時の唇の動きは上手ではない。お茶をコップで飲む時に、上唇を下ろして吸うような動きが見られるので、食事の時にも上唇の動きを促すようなかかわりを続けていきたい。</li> </ul>
<p>(4) 認知・興味・関心</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心，経験の拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お話し遊び（音楽遊び）：大好きな歌とともに行われる活動なので、良い表情が絶えず、またとても積極的である。小人数ということもあり、自分を表現しやすいようである。これからもいろいろな題材を取り入れて継続していきたい課題である。</li> <li>・パネルシアターやブラックシアター，紙芝居など集中して見入っている。また、近くにいる大人に笑顔を向け、「楽しいね」というような共感を求める様子も見られた。</li> <li>・感触遊び（粉，土，スライム）：粉や土（乾いた状態）遊びでは、楽しみながら素材に触れることができたが、粉粘土やスライム遊びでは感触が苦手らしく、手を引っ込めたり机の上から排除しようとする動きが見られた。</li> <li>・粉，パン生地，芋，和紙，色水，粘土などの感触遊びを行ったが、やはり積極的な様子は見られなかった。</li> <li>・散歩：公園や公民館，ビデオショップなどに出かけた。どこに行くにも関心を示し、それぞれの場所で楽しむことができていた。</li> <li>・遠足：ローラーすべり台や小さいすべり台を何回もすべって楽しみ、さらにポニーに乗ったり、小動物を膝に乗せて見たり触れたりして楽しむことができた。</li> <li>・〇〇ランドへ行き、5つのアトラクションに乗った。どの乗り物でも笑顔が見られ、それぞれの刺激を受け止め楽しむことができた。</li> <li>・校外学習：水の広場での水遊びでは、水の流れを良く見ており水を飲もうとしていた。</li> <li>・スーパーマーケットへ2回出かけた。売り場の品物や様子を真剣に見ており、とても楽しかったようである。</li> </ul>
<p>(5) コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語理解，意思表出の促進</li> <li>・発語の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオやパネルシアター，絵本，CD，プールなど大好きな活動をしている時には、たくさんの発語が聞かれる。</li> <li>・楽しい場面をたくさん作ることに加え、どうしたいのかを問いかけたり、声かけをたくさんして本人からの意思表出を促していきたい。</li> <li>・朝の会，帰りの会，給食の時間などにおしゃべりをする事が多く、話したいこと，気持ちがたくさんあるようである。また、友達の名前を呼ぶような発語をする時があり、これらも意識して、声かけなどを行っていきたい。</li> <li>・ままごとごっこ：ままごとセットを使ってやりとりを楽しんでいる。発語はあまり聞かないが、話しかけに対する反応は良い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌を通して表現力を伸ばす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽：楽器演奏（特に校歌）や身体表現（こげこげポート，あの空に）は好きで、喜んで参加できた。リズム感が良い。鑑賞の時でも、部屋の暗さとかに慣れてきて、曲を聴くことができるようになってきた。</li> <li>・集団授業でも余裕が出てきており、曲を聞きながら声を出したりリズム打ちをしたり（山彦ごっこ，なんぼマンボなど），周囲を良く見たりしている。また、舞台の裏側など興味のあるものに対して関心を示し、積極的に動く様子も見られた。</li> <li>・歌いかける曲に対する要求が出てきて、何でも良いという状況ではなくなっている。</li> </ul>
<p>(6) 社会性・行動面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団での活動を通して人とのやりとりを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部での学習場面では、はじめは圧倒されているようであったが、次第に慣れてきて楽しめる場面も増えてきた。しかし、広い空間で行う他学部との大きな集団での活動では、まだ圧倒されてしまう様子も見られた。</li> <li>・学部体育・音楽などでは余裕が出てきており、周囲の様子を見たり、呼名に応答することができている。</li> <li>・クラス内ではかなり打ち解けてきているので、友達とかかわる様子があったり動きも活発であったりする。友達と教師のやりとりを良く見ており、「わたしも」と訴えてくるなど、要求の出し方がはっきりしてきている。</li> <li>・時々、他クラスに出かけていき、友達や大人との触れ合いをもつようにした。はじめは、うつむいてばかりいたが少しずつ慣れてきており、頭が上がり、友達の方に目を向けるようになってきた。</li> <li>・学校祭：ステージでの発表では臆することなく笑顔で参加できた。また、他学部の発表も暗い体育館の中で見ることができた。</li> <li>・△△小学校との交流：初めての場で、しかもたくさんの人がいる中での活動であったが、楽しむことができた。</li> </ul>

(2) 事例9 (盲学校)

本校では、重複障害児の各学習において個別の指導計画を作成している。本校の個別の指導計画の教育課程における基本的な考え方は、

- 一人一人の幼児児童生徒の具体的指導目標や指導内容、方法などを明らかにし、障害の状況や発達段階に応じ、学校として取り組む全体像を明らかにした指導の充実を図り、適切な評価を行い、一人一人の幼児児童生徒に対し、一貫した継続的な指導を行う。
- ・子どもをより深く理解するための的確な実態把握を行う。
  - ・一人一人の指導目標、方法を具体化し、きめ細かい評価に基づいて指導の充実を図る。
  - ・子ども、保護者、関係者のニーズを十分把握し、連携を深め一貫した指導に心がける。

である。この考えの基、個別の指導計画を作成し、指導に当たっている。

1 実態把握について

実態把握は、「①日常生活、②コミュニケーション、③社会性、④運動・動作、⑤認知・概念形成、⑥その他(余暇、興味・関心)の6項目と、総合所見を設けている。

項目の設定に当たっては、各指導計画作成の有効な資料となることや記入の容易さなどを配慮し設定した。

2 実態把握の実際(個別指導計画 様式I 実態把握表)

以下の「表9-1 実態把握表」は、小学部重複学級の全盲の児童のものである。

表9-1 実態把握表

個別指導計画 様式I 実態把握表

組(学年) 類型	名 前	作 成 者
年 組IV類型		

	日常生活	コミュニケーション	社会性
現在の様子	簡単な衣服や靴の着脱動作は、指示により行うことができる。学校にいる時は布パンツを使用。尿意を感じた時にズボンを下げて知らせることがある。偏食が多い。	簡単な言葉は理解しており指示に合わせた動作をすることができる。遊んでいる時などに様々な声を出す。サインは近くに人がいる場合は手を取って要求することが多い。時々声を出して要求することがある。	集団の場にいることで不機嫌になることは少ない。集団の中の音を聞いて楽しくなることもある。近くに他の子どもの所に寄って行って体に触ったりすることがある。挨拶の時に頭を下げる時がある。

本人・保護者の願い	(保護者) ・もっといろいろなものを食べられるようになってほしい。 ・一緒にトイレへ行って用を足せるようになってほしい。	(保護者) ・自分の気持ちをもっと出せる(伝えられる)ようになってほしい。	(保護者) ・周りの人の声かけに応じられる(反応できる)ようになってほしい。
課題	日常生活動作の拡大・習慣化。尿意を感じた時のサインの習慣化。食べられる物を増やす。	要求やサインに合わせて声を出すことの習慣化。	挨拶や返事などの基本的な生活習慣を身に付ける。
	運動・動作	認知・概念形成	その他(余暇、興味・関心)
現在の様子	主に手引き歩行。足先が開き歩行時の姿勢・バランスが不安定である。言葉かけにより手引き時に壁を触りながら歩くことが多くなった。手を持たれて物を触る・動作をすることにも徐々に慣れてきている。	簡単な言葉と動作は身に付いている。新しい物や動作には抵抗感があるが、繰り返しによる学習で身に付くことが多い。基礎的なボディイメージ・空間概念は定着していない。	音楽を聴く、水遊び、トランポリン、ブランコ、教師と体を大きく動かす遊びを好む。教師の手を引いて、してもらいたいことの要求を出す。
本人・保護者の願い	(保護者) ・もっと体を動かせる(歩ける)ようになってほしい。 ・車の助手席に一人で座れるようになってほしい。	(保護者) ・身の回りの物にたくさん触わって、たくさん物を知ってほしい。 ・おもちゃなどで遊べるようになってほしい。	(保護者) ・好きな物、興味・関心のある物を増やしたい。 ・いろいろな物に興味をもって、一人遊びができるようになってほしい。
課題	歩行時の足の向き・バランスの不安定の改善。学校生活範囲内でのランドマークの意識付け。既知環境の拡大。継続的な歩行距離の伸長。教師の介助による運動・動作の学習に慣れる。	言葉と関連した物・動作の拡大。基本的なボディイメージ・空間概念の習得。生活の流れの理解と対応の習慣化。	自らの欲求に応じて遊ぶ場所に移動する範囲の拡大。家庭や将来の余暇の過ごし方につながる操作・準備・後片付けの習慣化。
総合所見	睡眠リズムがくずれることがある。不機嫌な時でも定着した動作であれば指示により行うことができる。繰り返しによる定着が可能のため、将来の生活を意識した学習(特に日常生活動作・コミュニケーション)の積み重ねが必要である。遊び・歩行の時、重心の不安定さを楽しむ面があるので周りに危険な物がないか注意が必要である。		

この実態把握表を基に、「自立活動」「日常生活の指導」「音楽」「体育」「生活単元学習」の個別指導計画が作成される。

### 3 指導の実際（日常生活の指導から）

日常生活の指導のねらいは、①身辺処理能力の向上、②コミュニケーション能力の向上、③自分で考え、主体的に活動しようとする意欲や態度の育成、④環境を把握する力の育成である。

表 9-1 の実態把握表を基に作成した日常生活の指導計画（一部）が、「表 9-2 個別指導計画 様式Ⅱ」である。

この指導計画では、1年間の目標としての長期目標を設定し、各題材ごとに個別の目標を設定している。また、評価は、学期ごとに実施する。

表 9-2 個別指導計画 様式Ⅱ 年間指導計画

組 類	学年 型	名 前	教 科 領 域	週 時 数	指 導 者 名
年 組 Ⅳ 類 型			日常生活の 指 導	16	

長期目標	○1日の流れ・場面ごとの動作・言葉かけを意識し、衣服の着脱や排泄、コミュニケーションなど日常生活で自分でできる動作を増やす。
配慮事項	○言葉の発達のために、児童の動作や介助には言葉かけを心掛ける。 ○児童の自発的な行動を大切に、指導に当たる。

単元名 題材名	個別目標	修正・変更点
4月 登下校	○靴を脱いで教師に渡すことができる。 ○教師とともに「おはようございます」「さようなら」の挨拶を礼をしたり声を出したりしながらできる。 ○事務室前～○組教室まで手引き介助+壁触りで歩くことができる。	
5月 朝の会・帰りの会	<del>○名前を呼ばれたら手を上げたり声を出したりして返事をすることができ</del> ○1日の流れを知ることができる。	○名前を呼ばれて介助で手を上げたり声を出したりして返事をすることで周りの人が反応することを知らる。(7/31修正)
3月 排泄	<del>○尿意、便意を知らせることができ</del> ○教師とともにトイレまで歩いて行くことに慣れる。 ○洋式便器で衣服を汚さずに排尿することができる。	○声や好ましいサインで尿意・便意を知らせることができる。(7/31修正)
	衣服：省略	
	食事：省略	
	衛生：省略	
	遊び：省略	

以下が指導計画に対する実施した1学期の評価である。

表 9-3 個別指導計画 様式Ⅲ 評価表（1学期の評価）  
：抜粋

月	単元名 題材名 指導内容	実施 時数	指導記録 結果	評価の観点 留意点
4月	(単元名) (題材名) 登下校 (内容)		①ひも等がない靴では、言葉かけで座り靴を脱ぐことができる。靴の場所を手で触らせたり音を出して知らせると自分から履くことができる。 ②教師が背面にまわり「おはようございます」「さようなら」の言葉とともに一緒に礼をする。時々言葉かけだけで自分から礼をすることもあった。	①靴を自分で着脱することができたか ②教師と一緒に挨拶をすることができたか
7月	①靴の着脱 ②挨拶 ③歩 行 (壁伝い)		③事務室前～○組教室まで手引き介助+壁触りで歩いた。「壁があるよ」と壁を叩いて音を出すと手が伸びるようになった。	③教師とともに壁伝いで歩くことができたか
評価・課題 ①ほぼ定着している。→(課題)靴を靴箱から出し入れすることを知らる。 ②教師の動作に合わせて頭を下げることはできている。→(課題)人に対して挨拶していることを意識付ける。 ③教師とともに壁伝いで歩くことには慣れてきた。→(課題)歩行時にふらつかないで歩く。				

### 4 ま と め

実態把握から指導計画を作成し、実施した評価は、「児童生徒の次の課題」を明らかにすることができている。また、各学習場面ごとに評価を行うことで、目標の適切な修正や指導内容の工夫が可能となった。

現在行っている評価は、指導者のみで行っているものであり、今後は保護者も評価に参加してもらえるような工夫が必要である。

また、「個別指導計画」の現在の様式では、全体として作業量が多いという難点がある。より充実した「個別指導計画」とするためには、評価に重点を置きながらも、より効率的な様式の改訂も必要である。



(3) 事例 10 (聾学校)

表 10-1 児童の実態

1 重複障害児の指導の評価に関する基本的な考え方

A聾学校では、次のような考え方の下、指導の評価を行っている。

- 個々の児童の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成して指導するとともに、それに基づいて評価する。
- 具体的な指導目標を設定するとともに、個人内評価を重視して目標の実現状況などを適切に評価し、記録するように努める。

ここで紹介する重複障害児は、小学部3年で聴覚障害に知的障害を併せている児童である。「児童の実態」でも述べているが、基本的な生活習慣等はそれなりに身に付いていることから、教育課程としては、知的障害養護学校の教科を用いるとともに、実技系の教科については一般のクラスの児童と一緒に指導を受けている。

したがって、各教科及び自立活動等の指導の記録(評価)については、以下のような考え方の下に実施している。

- <各教科>
  - ・教科の観点に基づいて個別の指導計画を立て、それに対して、到達の程度、習得の状況などを具体的に表記する。
- <自立活動>
  - ・個別の指導計画を踏まえ、指導の目標、指導内容、指導の結果、障害の状態等の変化、検査結果に関することなどを記入する。
- <行動の記録>
  - ・学校生活全般にわたって認められる児童の行動について、各項目ごとにねらいを立て十分に満足できる状況にあると判断される場合には、○印を記入する。
  - ・行動の状況について総合的に見た場合の児童の特徴及び指導上留意すべき事項を記入する。
  - ・児童の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることが基本となるよう留意する。
- <特別活動の記録>
  - ・特別活動における児童の活動について、各内容ごとにその趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合には○印を記入する。
  - ・主な事実や所見を記入する。

2 児童の実態把握

児童の実態把握に当たっては、様々な検査等を用いて状況を客観的に把握することも必要だが、重複障害児の場合には、特に日常の細かな観察が重要である。

事例の児童の実態は、表 10-1 の通りである。

項目	実態
平均聴力レベル	左 109dB 右 104dB
I Q	(知能検査) 測定不能
基本的な生活習慣(食事、排泄、手洗い、衣服の着脱等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りのことはほとんど一人でできるが、作業は雑である。</li> <li>・ボタンをはめる、給食のジャムの封を切る等の細かな作業時に手伝いを求めることがある。</li> </ul>
集団参加(朝の会、帰りの会、持ち物、清掃、係活動等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に遊ぶことは好きだが、細かなルールを理解して活動することは難しい。</li> <li>・持ち物や提出物を決められた場所に置くことができる。</li> </ul>
学習の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の簡単な手話(始まり、終わり、トイレ等)を理解し、使用することができる。</li> <li>・自分の名前を平仮名で書いたり指文字で表現したりできる。物と文字カードのマッチングは難しい。</li> <li>・5までの数量概念が形成されつつある。</li> </ul>
性格・行動の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の伝えたいことや要求は身振りや指差しで知らせる。</li> <li>・几帳面な性格で物事の順番や場所にこだわることもある。順番を待てないことがある。</li> </ul>
聴覚学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小2の3学期に毎日補聴器をつけて登校するようになった。まだ自分では装着できないが、はめてくれるよう要求する。聞こえると身振りで知らせる。</li> </ul>
発音・発語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・のどに手を当てると響きを感じて発声する。母音の口形模倣をする。</li> <li>・唇を少し閉じて息を出せるようになった。</li> </ul>
コミュニケーション・言語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常のやりとりで、身振りや簡単な手話等のサインが増えてきた。</li> <li>・経験したことを単語レベルで絵と文字、身振りを結び付けることができる。</li> </ul>
指導方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近のことを、丁寧に自分でできるようにする。</li> <li>・身近な事柄や経験したことを絵カードや写真と身振りや手話に結び付けて伝えようとする意欲を育てる。</li> </ul>
その他	(家族の状況、教育歴、持病、障害者手帳等に関して記述する。) <p style="text-align: center;">*省略</p>

次に、本児に対して作成した個別の指導計画は、表 10-2 の通りである。

表 10-2 個別の年間学習指導計画表

部	小学部	学年・氏名	3年	教科科目名	生活
教科書・教材名		(自作ビデオ・写真等)		指導者名	〇 〇 〇 〇 印
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な社会や自然とのかかわりについて関心を深め、自立的な生活をするための基礎的能力と態度を育てる。</li> <li>いろいろな体験を積み重ねて興味・関心の幅を広げるとともに、場面に応じて自分で考えて行動する力を育てる。</li> </ul>				
指導方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常学級の理科、社会と学習の場を共有する機会を設け、友達と一緒に活動する中でよい刺激が受けられるよう配慮して指導する。</li> <li>VTRや写真、模型等を活用し、本児にとって分かりやすい教材の工夫、提示に心がける。</li> <li>実体験や疑似体験の機会を多く設定する。さらに、復習する機会を多く設け、学習事項の定着を図る。</li> </ul>				
月	単元・題材	観点・目標	時	指導内容・指導項目	備考
1 学期 13 週	4 ○ひまわりを育てよう (9月まで随時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>動植物を育て自然や生き物への興味・関心を深める。</li> <li>教師の援助を受けながら簡単な仕事をする。</li> </ul>	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>種を植え水をやることを学習する。</li> <li>定期的に水やりする仕事を覚え、ひまわりの生長を観察する。</li> </ul>	国語 ・花の名前
	5 ○学校及び学校周囲の探検 ○交通安全1	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内や学校周辺の様子に興味・関心をもつ。</li> <li>教師と一緒に健康で安全な活動をする。</li> </ul>	35	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校及び学校周辺にどんな物や施設があるのか、花や植物も含めて探索に出かける。気付いたことをノートに絵を描いたり、写真を貼ったりしてまとめる。</li> <li>道路や歩道、信号を渡る際の決まりを意識して行動する。</li> </ul>	国語 ・物の名前 ・挨拶 (校外学習)
	6 ○田植え	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師と一緒に集団活動に参加する。</li> <li>自然や生き物への興味・関心を深める。</li> </ul>	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>田おこしを見学したり、昨年度の田植えVTRを視聴したりして、関心を深めた上で田植を体験する。</li> <li>砂場で田植の疑似体験をする。</li> </ul>	(学部行事・田植え)
	7 ○公園へ行ってみよう1	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な公共施設や公共物を教師と一緒に利用する。</li> <li>学校周辺の様子に興味・関心をもつ。</li> </ul>	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園にはどんな遊具や施設があるのかに気付き、楽しく遊ぶ。</li> <li>ゴミはゴミ箱に捨てる。立ち入り禁止区域に入らないなど公共のモラルを守ることに気付くようにする。</li> </ul>	国語 ・遊具の名前 ・挨拶 ・マナー 道徳
	○買い物1 ・缶ジュースを買おう	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師と一緒に簡単な買い物をする。</li> <li>金銭が必要なが分かる。</li> </ul>	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>缶ジュースは買うにはどうしたらよいかを考える。</li> <li>自動販売機での買い物ごっこをする。</li> <li>実際に缶ジュースを自動販売機やコンビニで買う体験をする。</li> </ul>	算数 ・お金 (校外学習)
2 学期 14 週	9 ○たねとり	<ul style="list-style-type: none"> <li>動植物を育て、自然や生き物への興味・関心を深める。</li> <li>教師の援助を受けながら簡単な仕事をする。</li> </ul>	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひまわりの種ができていることを観察し、種取りをする。</li> <li>VTRや写真を通して、ひまわりの生長、種収穫までを振り返る。</li> </ul>	国語 ・物の名前 算数 ・15までの数
	10 ○買い物2	<ul style="list-style-type: none"> <li>決まった額の買い物をして、金銭の必要なことが分かる。</li> <li>教師と一緒に身近な人に簡単な挨拶をする。</li> </ul>	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>スーパーマーケットに興味をもち、VTRで学習する。</li> <li>買い物ごっこをする。</li> <li>エスカレーター、エレベーター、トイレ等の施設を利用する。</li> </ul>	国語 ・挨拶等 算数 ・15までの数 (校外学習)
	11 ○公園へ行ってみよう2 ○バスの利用 ○交通安全2	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の援助を受けながら身近な公共施設や公共物を利用する。</li> <li>教師の援助を受けながら健康で安全な生活をする。</li> </ul>	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きな公園に出かけ、安全に正しく遊具等を使って遊ぶ。</li> <li>バスを利用する体験をし、乗り方やマナーを学習する。</li> <li>横断歩道の渡り方を学習する。</li> <li>道路標識に興味をもつ。</li> </ul>	国語 ・物や施設の名前 算数 ・色 (校外学習)
	12 ○工場見学	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な地域の様子に関心をもち、自分と家庭や社会とのかかわりに気付く。</li> <li>教師と一緒に身近な人に簡単な挨拶をする。</li> </ul>	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>味噌工場を見学する。</li> <li>工場で働く人たちや器具の様子を見る。</li> <li>見てきたものの写真を貼ったり、書いたりしてまとめる。</li> <li>味噌を使って調理をする。</li> </ul>	国語 ・物の名前 ・お礼の手紙 (校外学習)
	○落ち葉遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な自然の中で遊び自然や生き物への興味・関心を深める。</li> </ul>	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校内や学校周囲へ出かけ、落ち葉収集をしたり、落ち葉で遊んだりする。</li> <li>集めた落ち葉を画用紙に貼り、作品を作る。</li> </ul>	算数 ・15までの数 ・色・形
3 学期 8 週	1 ○お正月の遊び (たこあげ・こま・すごろく・かるた)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師や友達と同じ場所で遊ぶ。</li> <li>教師や友達と簡単な決まりのある遊びをする。</li> </ul>	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオ等で遊び方や目的を知る。</li> <li>たこやこま、かるたを教師と一緒に作る。</li> <li>作った物を使って遊ぶ。</li> </ul>	国語 ・平仮名 ・動作語 算数 ・20までの数
	2 ○ぼく・私の1年間	(省略)		35	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年を振り返り、前に行った所へ再度行ってみる。</li> <li>1年間の写真やビデオを見て、活動や場面を思い出す。</li> <li>思い出カレンダーを作る。</li> <li>お楽しみ会をする。</li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>*自然</li> <li>自然の事象・現象に関心を深める。</li> </ul>			

### 3 具体的な評価の例

前述の児童の具体的な評価については、次のようにまとめている。これは、保護者等に伝える際の表記であるが、指導実践に基づき、できるだけ具体的に記述するとともに、家庭でのやりとり等の参考となるよう配慮している。懇談会の折りなどには、より具体的に説明するとともに、家庭での状況なども的確に把握するようにしている。

#### (1) 各教科の学習記録

教科	1 学 期
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>植物の世話がしっかりできた。</li> <li>ひまわり等の種まき、植え替えをした。</li> <li>毎朝の水やりもでき、友達の鉢にもかけてくれた。</li> </ul>
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの平仮名が書ける。</li> <li>学習に落ち着いて取り組み、日にちや曜日、天気、名前は意味を理解して自分で書けるようになった。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>1から10までの数字を順番に並べたり、書いたりできた。</li> <li>指で一つずつ対応させながら物の数を数えることができた。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>鈴やタンブリン、カスタネット、鍵盤ハーモニカなどの楽器に親しんだ。</li> <li>友達と一緒に遊戯をしたり、歌を歌ったりして、落ち着いて学習できた。</li> </ul>
図画 工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の顔や先生の顔など、人物を描くことが得意で、表情豊かにかけた。</li> <li>粘土や花紙を使った工作を行い、おもしろい作品ができあがった。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>転がしドッチボール、マット運動、フープ、リレーなど友達や教師の様子を見て、同じように活動することができた。50m走では一人で完走できた。</li> </ul>

#### (2) 学習上の所見

1 学 期
<ul style="list-style-type: none"> <li>まじめに授業に取り組んでいる。</li> <li>自分が納得するまでには時間がかかるけれど、理解できることが増えてきた。</li> </ul>

#### (3) 自立活動の記録

1 学 期
<ul style="list-style-type: none"> <li>好きなこと、分かることは表情豊かに行うが、いやなことに対しては、首を振ったり、頬を膨らませたりして表現する。</li> <li>指文字を少しずつ覚え、曜日、天気、名前などを表現できるようになった。</li> </ul>

#### (4) 行動の記録

1 学 期
<ul style="list-style-type: none"> <li>ブランコが好きで、放課後はいつもブランコに乗っていた。</li> <li>順番も守れ、20数えて交代することができた。</li> </ul>

#### (5) 特別活動の記録

1 学 期
<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会では、友達や先生のすることを見て、頑張ってきた。</li> <li>日直や給食当番の仕事を頑張っていた。</li> </ul>

以上がA聾学校における実践例であるが、個別の年間学習指導計画表と日々の指導の記録のあり方などに今後の工夫が期待される。

### 3. 知的障害児の指導と評価

#### (1) 事例 11 (教科別の指導)

##### 1 本校高等部における指導計画と評価

	個別の指導計画	指導記録	通知票	指導要領
1 学 期	4～5月 個別の指導計画作成 6月 個人・進路面談 今年度の目標等の確認 7月 短期目標を受けての評価記入	適宜 指導記録 記入 指導記録 のまとめ	補助簿作成  通知票作成	
2 学 期	9月 短期目標の修正  12月 短期目標を受けての評価記入	適宜 指導記録 記入 指導記録 のまとめ	補助簿作成  通知票作成	
3 学 期	1月 短期目標の修正 2月 短期目標を受けての評価記入  3月 長期目標の反省、来年度へ向けての課題記入	適宜 指導記録 記入  指導記録 のまとめ	補助簿作成  通知票作成	要録作成

##### 2 個別の指導計画作成

個別の指導計画の書式を表 11-1 に示す。自立活動についてはチェックリストに基づいた課題分析、指導計画の作成、指導を実施するようにしている。その他の内容については、「専門実習」の指導体制に担任を組み込むことで指導の連続性を図っている。その他の指導については、学科会議等で生徒の様子、配慮すべき事項、課題等を確認するようにしている。

##### 3 指導記録の記入

日々の実践の記録の蓄積のため、表 11-2-1 と表 11-2-2 の書式で「時数記録表」と一体になった「指導記録」を作成している。各教科担当者がその週の学習活動における取り組みの様子を中心に表記するようにしている。

##### 4 評価の作成、評価会議、補助簿の作成

評価の時期を前に、「指導記録・評価」の分掌から「評価を行うに当たって」のポイントを提示し、共通確認している。「指導記録」の蓄積結果をもとに、各教科担当が学期のまとめとしての資料 11-1 や資料 11-2 のような「補助簿」(個票)を作成し、「評価会議」を行っている。

「評価会議」では評価の観点を、各教科毎に再度確認し、個々の評価の内容が適切であることを協議する。評価会議では、「職業実習」についてはコース担当で、「各教科」については各教科担当で、「特別活動、等」については学級担任で協議している。評価会議により評価内容の微調整を行い、資料 11-3 の「補助簿」を作成している。

##### 5 補助簿、通知票、個別指導計画

「補助簿」の評価内容は、学年主任、学科主任、教務主任、教頭、校長の順で確認を行う。確認を受けた文書を担任が手直しし、資料 11-4 の通知票を作成する。通知票は再度、学年主任、学科主任、教務主任、教頭、校長の順で、評価内容の確認が行われる。

通知票の作成と並行して、個別の指導計画の各学期における生徒の取り組みの様子も記述する。

##### 6 指導要録の作成

各学期の「通知票」の表記内容から、特に顕著な変化が見られた内容を「指導要録」に記述する内容として3学期の補助簿作成時に記述する。記述内容については、下書きの段階で、学年主任他の確認を行う。

##### 7 今後の課題

(1) 個別指導計画、指導記録、補助簿・通知票、指導要録の書式を揃える

現段階では、「個別指導計画」の「書式」及び「内容」が概要を記す程度にとどまっているので、「補助簿」や「通知票」等との関連性を図るに至っていない。

そこで「個別指導計画」、「指導記録」、「補助簿・通知票」、「指導要録」の書式を揃え、相互に関連性を図ったものとしていくことが、適切な評価を行い、実用的な資料としての蓄積を行えるものとする。

また、連携を図ろうとする目的の一つには、通知票における評価の意味を保護者に適切に伝えられる内容となるようにその質を高めることがある。

一方、「個別指導計画」、「通知票」、「指導要録」の書式を統一することで、教師の作業を少なくできる。また、情報機器の活用により、作業の効率化を図ることが可能になると思われる。

(2) 評価の観点について

今年度は、「評価」に関する研究も重点の一つであった。研修の講師より次の指摘を受けた。

ア 目標(ねがい)を立てる視点をしっかりもつことが評価のスタートラインであり、ゴールライン

イ 生徒の評価だけではなく、教師の手だても評価する

本校では今後、「目標(ねがい)」を立てる視点、評価を行う観点の整理を進めたい。現在校内で活用している各教科の評価の観点を表 11-3 に示す。

教師の手だてを評価する姿勢を忘れないようにしていきたいと考える。

表 11-1 平成 13 年度 個別指導計画

氏 名	○○○○		技術科 3 年 組 コース	生年月日	
生徒の様子	<p>※生徒の「職業自立・社会自立」に向けての意識、「職業実習」の様子、「教科別の指導」の様子など、学校生活全般の様子、日常生活での様子など端的にまとめ記入する。</p> <p>例：充実した学校生活を送れるようになってきた。職業実習では、コース長としての任務を自覚しており、コースの運営にも見通しをもって最後まで責任をもって活動できる。後輩達へのことばかけも適切に行い、周囲の信頼が厚い。学級でのリーダーシップを発揮し、話し合いでは的を得た発言ができる。</p>				
行動の特徴	<p>※生徒指導上の資料となる内容を記入。</p> <p>例：実力と比較して、自信をもてない面があり、行動を起こす際に躊躇することがある。</p>				
配慮事項	<p>※特に、健康面、安全面に対する関する内容を中心に記入。</p> <p>例：肥満傾向にあり、体重の現状維持に努める必要がある。</p>				
保護者のねがい	<p>※4月18日（水）～20日（金）の家庭訪問、個人面談を受けて、「職業自立・社会自立」に向けてねがうこと、できるだけ具体的な内容を記入。（「企業就労」だけではなく、「企業就労」を目指すために、学校生活で、あるいは家庭生活でどのようなことを頑張ってもらいたいのか、力を育てたいか、という視点で記入）</p> <p>例：仕事として本人がやりたいと思っている仕事に就いて、精一杯取り組み、将来的には親元を離れた生活をしてほしいと考えている。</p>				
年間の目標	<p>※「職業自立・社会自立」を目指し、1年間で到達してほしいとねがう、あるいは到達できよう目標を記入する。（この目標を手がかりに、「専門実習」「教科別の指導」の一人ひとりの目標が立てられる）</p> <p>例：自分自身の実力を確認しながら、自信をもった活動への取り組みが増えるようにする。</p>				
1学期の様子	<p>※年間の目標を受けて、生徒の様子を記入。目標の修正が必要になった場合には、朱書きで「年間の目標」を修正する。 &lt;1学期末に記入&gt;</p> <p>例：コース長としての役割を把握し、コース全体の動きに目を配り、場面に合った声かけを行えるようになってきている。</p>				
2学期の様子	<p>※年間の目標を受けて、生徒の様子を記入。目標の修正が必要になった場合には、上に用紙を添付し「年間の目標」を修正する。 &lt;2学期末に記入&gt;</p> <p>例：現場実習で任された仕事を責任をもって取り組むことができ、高い評価を得ることができ、大きな自信につながっている。その後の学校生活でも積極的に取り組む姿が確実に増えてきている。</p>				
3学期の様子	<p>※年間の目標を受けて、生徒の様子を記入。 &lt;3学期末に記入&gt;</p>				
来年度へ	<p>※来年度への引継事項を記入。（3年生の場合には記入しない） &lt;3学期末に記入&gt;</p>				
自 立 活 動					
長期目標	<p>※「職業自立・社会自立」を目指す上で、克服する必要があると思われる内容で、一年間の中で自ら課題として意識し、主体的に取り組むことができようになるであろう内容を「長期目標」として記入。</p> <p>例：体重の維持を含め、健康管理に努める。</p>				
短期目標	1 学 期	2 学 期	3 学 期		
	※「長期目標」を受けて、1学期間で到達可能な段階の目標を記入。	※1学期の様子を受けて「短期目標」を記入。	※2学期の様子を受けて「短期目標」を記入。		
様子	<p>※年間の目標を受けて、生徒の様子を記入。目標の修正が必要になった場合には、朱書きで「年間の目標」を修正する。 &lt;1学期末に記入&gt;</p>	<p>※年間の目標を受けて、生徒の様子を記入。目標の修正が必要になった場合には、上に用紙を添付し「年間の目標」を修正する。 &lt;2学期末に記入&gt;</p>	<p>※年間の目標を受けて、生徒の様子を記入。 &lt;3学期末に記入&gt;</p>		
来年度へ	<p>※来年度への引継事項を記入。（3年生の場合には記入しない） &lt;3学期末に記入&gt;</p>				

表 11-2-1 指導時数記録

第2学期 第25週 10月25日(月)～10月27日(土)							
		22日(月)	23日(火)	24日(水)	25日(木)	26日(金)	27日(土)
指導記録	行事						第四土曜日
	1校時	専門実習(園芸)	専門実習(園芸)	専門実習(園芸)		専門実習(園芸)	
		水やり・施肥	椎茸原木運び	水やり・施肥		水やり・施肥	
	2校時	専門実習(園芸)	専門実習(園芸)	専門実習(園芸)	社会 ○年B組	専門実習(園芸)	
		水やり・施肥	椎茸原木運び	水やり・施肥	HRと入れ替え	水やり・施肥	
	3校時	専門実習(園芸)	専門実習(園芸)	社会 ○年B組	社会 ○年A組	専門実習(園芸)	
		除草	椎茸原木運び	生産と流通	被服:裾の補修	除草	
	4校時	専門実習(園芸)	専門実習(園芸)	社会 ○年A組	社会 ○年A組	専門実習(園芸)	
除草		椎茸原木運び	生産と流通	被服:裾の補修	除草		
諸記録	備忘	c 母より電話有り PM5:30				a 進路面談 15:30～	
	メモ						

表 11-2-2 指導記録

教科・実習名(社会)10/24 題材名「生産と流通」○年A組

a	実習した「○○産業」での仕事は、市場から運ばれてきたレストランにおろす流過程の一部の仕事であることに気づいた。
b	生産と流通の説明を聞いて、流通の行き先が消費者であることを理解できた。
c	おおまかに「生産」がどういうものかをとらえ、流通の仕組みの終点が消費者、スーパーか小売商であることを理解していた。
d	生産と流通の仕組みを理解でき、デパートやマーケットが小売商であることに気づいた。
e	生産と流通の違いに気づき、流通の行き先が消費者であることを教師と確認できた。
f	欠席
g	生産と流通の話から以前実習したガソリンスタンドは外国で生産された石油が船で運ばれ、お客様に供給する流通の一部であることに気づいた。
h	農業が「生産」であることを理解できた。その野菜を調理してお客様に出す実習先の仕事が生産経路にあることが理解できた。
i	生産と流通の意味理解が難しかった。「○○産業」の仕事を生産と間違えていた。

教科・実習名(社会)10/24 題材名「生産と流通」○年B組

j	イラストから生産部分を抜き出し、お母さんが流通の仕事に携わっていることを理解することができた。
k	「○○農園」が生産の仕事を行っていることを理解することができた。
l	イラストから生産部分を抜き出し、「○○運輸」が流通の仕事を行っていることを理解することができた。
m	現場実習に行った「○○運送」は生産されたものを運ぶ仕事で、流通の仕事であることが理解できた。
n	イラストの中から生産している物を取り出し、「○○園芸」が生産の仕事であることを理解することができた。
o	説明が分かったのか「○○工業」を流通なのか、生産なのか迷っていた。
p	「レストラン○○」が消費者に直接食事を出すことから、生産ではなく流通であるという理解することができた。
q	イラストの中から生産している物を取り出し、「○○興業」が流通の仕事と理解し、「流通」ということばを自分のことばでまとめることができた。
r	生産と流通の違いを理解し、内容を文章でまとめることができた。

資料 11-1 補助簿：職業実習

職業実習評価

平成 13 年度 成型コース ○年○組 j  
1 学期

製造 3 班に所属し、「エコ平板」の製造に取り組みました。常に良いデザインを心掛け、石材選びや配置を慎重に行うことができました。始めは色とりどりのモザイク模様でしたが、次第に時計や太陽など自分のイメージを表現するようになりました。さらに委嘱講師の助言をもとに、細かな石を器用に並べ、凝ったデザインに発展させています。このような意欲的な姿勢が、班内の仲間にはいい刺激となっています。

資料 11-2 補助簿：教科「理科」

教科「理科」評価

平成 13 年度 2 学期

氏名	評価	備考
h	地球環境の調べ学習では、生活の豊かさや便利さと引き替えに、地球上から緑が減少し、地球の寿命を縮めていることが分かりました。	書籍「森は生きている」で調べる。
s	地球環境の調べ学習では、大気汚染の原因が車にありそうだ、ということに気づくことができました。	「新図詳エリア教科事典地球・宇宙」で調べる。

資料 11-3 補助簿：総合所見

平成 13 年度 1 学期 総合所見 ○年○組 i

後輩とのかかわり合いが増えて、先輩としての自覚が出てきました。職業実習ではラティスの組み立て方を友達にアドバイスしたり、後輩に優しく教えている姿が見られました。クラスではどんな友達とも仲良くすることができ、人が困っていると必ずといっていいほど助けてあげています。クラスだけではなく学年でも信頼されています。

生徒会選挙でも立候補した友達のために、ポスターを家で描いてくるなど率先して頑張りました。

資料 11-4 通知票

第 2 学期

氏名	t
----	---

○ ○ 実 習	「吉野織り」にも大分慣れて、テーブルセンターやバックの生地をていねいに織っています。新しく織りを担当した 1 年生が困っている時に、助けてあげる余裕も出てきました。また、「KOYO 祭」に向けて、織り体験のお客様に、自分で紫のコースターのデザインを考え、整経から、機付けまで体験しました。「KOYO 祭」当日は、お客様に織り方の説明を実際にやって見せながら、ていねいに教えて喜ばれていました。またステージ発表では、寸劇に取り組むなど、コースの仕事に自信をもって積極的に取り組んでいる様子が見られました。		
国 語	電話のかけ方の学習に真剣に参加し、相手に用件を正しく伝えられるよう頑張っていました。辞書を使っての調べ学習が得意でした。	美 術	秋の絵手紙では、枝や実をよく見て描き、表していました。焼き物の粘土では、楽しんで丸めたり伸ばしたりできました。

表 11-3 平成13年度

教科別の指導年間指導計画と評価の観点

教科	目 標	学年	時数	1 学 期				2 学 期				3 学 期			評 価 の 観 点	
				4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3		
国語	生活に必要な国語について理解を深め適切に活用できるようにする。 ①日常生活に必要な読み書きができるようになる。(小学校中学年程度の教育漢字の読み書き) ②話の内容の大切なところを落とさずに聞き取ることができるようにする。 ③目的や場に応じて適切な話し方ができ、自分の意志を相手に伝えることができるようにする。 ④相手や目的に応じて手紙や文章を書くことができるようにする。 ※上記の目標に沿って、学習活動に意欲的に取り組み、内容を理解し、実生活に活用できるまでに至っているのか、という観点で評価を行っている。	1年	週2	スピーチ 漢字練習	図書室利用 校内電話 電話のマネー	住所録・ 俳句作り 絵手紙	暑中見舞い 読書	敬語 連絡伝達 公共の図書館	ローマ字 外来語 俳句	案内状 接客練習	新聞 俳句 年賀状	書き初め 百人一首	日記 作文	俳句 漢字	①日常生活に必要な読み書きができるようになる。(小学校中学年程度の教育漢字の読み書き) ②話の内容の大切なところを落とさずに聞き取ることができるようにする。 ③目的や場に応じて適切な話し方ができ、自分の意志を相手に伝えることができるようにする。 ④相手や目的に応じて手紙や文章を書くことができるようにする。 ※上記の目標に沿って、学習活動に意欲的に取り組み、内容を理解し、実生活に活用できるまでに至っているのか、という観点で評価を行っている。 なお、文化的素養を生活の中に取り込むきっかけとなるように、絵手紙、俳句づくり、などに興味・関心をもち取り組むことができたか、という観点での評価を行っている。	
		2年	週2	スピーチ 漢字練習	住所録 敬語・面 電話のマネー	硬筆	暑中見舞い 市立図書館 俳句	敬語 面接 連絡伝達 新聞	ローマ字 英会話 新聞	案内状 接客練習	毛筆 俳句 年賀状	書き初め 旅行案内	作文 新聞	作文 漢字		
		3年	週2	スピーチ 漢字練習	住所録 敬語・面 電話の取り 方	硬筆	暑中見舞い 図書館 俳句	旅行案内 書 作文 新聞 敬語・面 接	ローマ字 英会話 説明書	案内状 接客練習	毛筆 俳句 身近な文 章 年賀状	書き初め	漢字 卒業文集			
数 学	生活に必要な数量や図形についての理解を深め、適切に活用できるようにする。 ①5桁までの加減ができる(電卓も可)。おおよその計算ができる。 ②お金の計算をして、買い物ができる。 ③時計の計算をして、時計を見て行動ができる。 ④長さ、かさ、重さを理解できる。 ⑤簡単な表やグラフが読み取れる。 ⑥簡単な図形が分類できる。	1年	週2	レクリエーション 一日の生活	一日の生活	小遣い帳 の付け方	夏休みの 小遣い帳	買い物 消費税	販売練習	長さ、かさ、重さ	冬休みの 小遣い帳	表・グラフ		まとめ	①5桁までの加減ができる(電卓も可)。おおよその計算ができる。 ②お金の計算をして、買い物ができる。 ③時計の計算をして、時計を見て行動ができる。 ④長さ、かさ、重さを理解できる。 ⑤簡単な表やグラフが読み取れる。 ⑥簡単な図形が分類できる。 ※上記の目標に沿って、学習活動に意欲的に取り組み、内容を理解し、実生活に活用できるまでに至っているのか、という観点で評価を行っている。	
		2年	週2	自分の身長・体重	時刻表、交通費	交通費	製品の値 段 生活時間	金銭の計算 消費税計算	金銭の計算 消費税計算	小遣いの 使い方、 記入			金銭の計 算 売り上げ まとめ			まとめ
		3年	週2	レクリエーション	通勤時間計算 交通費計算	販売会 金 銭計算 消費税	地球と宇 宙	小遣いの 使い方 記入	税金、給 料、生活 費	地球と宇 宙	身近な 自然	物体の 様子	物体の様子 重さ、面積、体積、長さ、 時間・速さ、導体と絶縁体、 液体・固体・気体	金銭の計 算 売り上げ のまとめ		
理 科	自然の事物・現象に興味・関心をもち、自ら生活の中の不思議について探究するようになり、自然や生命を大切にすることを育てる。 ①「人体」：健康管理、病気、ケガへの対応(服薬・手当・通院)ができる。 ②「生物」：生命を大切にすることを育てる。 ③「事物や機械」：薬品、身近な機械を安全に配慮しながら取り扱う。 ④「自然」：自然と生活を大切にすることを育てる。	1年	週2	身近な自然 ゴミの処理	身体へのしくみと生活習慣病	地球と宇宙	地球と宇宙	地球と宇宙	温度と湿度	身近な 自然	物体の 様子	物体の様子 重さ、面積、体積、長さ、 時間・速さ、導体と絶縁体、 液体・固体・気体	地球と宇 宙	気象の 変化	①「人体」：健康管理、病気、ケガへの対応(服薬・手当・通院)ができる。 ②「生物」：生命を大切にすることを育てる。 ③「事物や機械」：薬品、身近な機械を安全に配慮しながら取り扱う。 ④「自然」：自然と生活を大切にすることを育てる。 ※上記の目標に沿って、特に自らの生活の中での不思議について探究する姿、自然や生命を大切にすることを育てる心、つまり、興味・関心・態度の側面に特に配慮しながら、実際の取り組みの姿を評価する。	
		2年	週2	学校の周辺の自然	身近な動植物	薬品等の取り 扱い	地球の環境	地球の環境	気象の 変化	気象の 変化	気象の 変化	気象の 変化	気象の 変化	気象の 変化		
		3年	週2	電気機器と身近な機械	電気機器と身近な機械	電気機器と身近な機械	健全な生活 食事と健康、生活リズム、健康管理、つきあいと自分の生活	健全な生活 食事と健康、生活リズム、健康管理、つきあいと自分の生活	健全な生活 食事と健康、生活リズム、健康管理、つきあいと自分の生活	健全な生活 食事と健康、生活リズム、健康管理、つきあいと自分の生活	健全な生活 食事と健康、生活リズム、健康管理、つきあいと自分の生活	健全な生活 食事と健康、生活リズム、健康管理、つきあいと自分の生活	健全な生活 食事と健康、生活リズム、健康管理、つきあいと自分の生活	健全な生活 食事と健康、生活リズム、健康管理、つきあいと自分の生活		健全な生活 食事と健康、生活リズム、健康管理、つきあいと自分の生活



学年	週	学校	働く生活	栃木県の自然・地理・産業	流通	いろいろな仕事と社会人のマナー	金融機関の利用	きまりと制度	公共機関の利用	ニューコース	ニューコースの活用	公共機関の利用	指導
1年	週2	学校の周りに自分の家・友達の家	勤く生活	栃木県の自然・地理・産業	流通	いろいろな仕事と社会人のマナー	金融機関の利用	きまりと制度	公共機関の利用	ニューコース	ニューコースの活用	公共機関の利用	①必要に応じて地図や路線図等を活用できるようになる。 ②公共機関や金融機関の利用の仕方を知る。 ③卒業後の社会生活に必要なまじりや制度の理解を深める。 ④いろいろな地域(林間, スキー, 修学旅行)の様子について関心をもち、理解を深める。
2年	週2	自分の街	路線図や時刻表の利用	社会人のマナー		金融機関の利用	現場実習に向けて	きまりと制度		県の自然・地理・産業	ニューコースの活用	ニューコースの活用	
3年	週2	地図帳の見方		流通	北海道の自然・地理・産業	旅行でのマナー	公共機関の利用	きまりと制度	冠婚葬祭について	経済生活	ニューコースの活用	ニューコースの活用	※上記の目標に沿って、自分の生活する生活圏を広げていこうとする姿勢が培われたか、また、理解が広がってきたかを中心に評価する。
1年	週1	流山学園について	自分、障害者、人とのつきあい	校内実習事後	仕事・手伝える生活スキル健康管理	仕事・職場見学	校内実習事後	金銭管理	人とのつきあい	相談したとき	生活の場	生活の場	①必要に応じて地図や路線図等を活用できるようになる。 ②公共機関や金融機関の利用の仕方を知る。 ③卒業後の社会生活に必要なまじりや制度の理解を深める。 ④いろいろな地域(林間, スキー, 修学旅行)の様子について関心をもち、理解を深める。
2年	週1	自分について	進路先を決める	生活を整える現場実習事前	現場実習事後	私たちの権利・進路を決める準備	現場実習事後	給料と生活貯金	人とのつきあひ	手帳をうまく利用できる	生活の場	生活の場	※上記の目標に沿って、現在自分の置かれている状況を再確認し、自分の進路を考え、将来の自分の生活を自ら力で作っていくこととする姿勢、態度を中心に評価し、実際に各内容についての理解を中心に評価する。
3年	週1	自分について	求人登録の記入	マナー現場実習事後履歴書き方	住まい生活の場	相談できる所法律	現場実習事後	経済生活	困ったときには	援助者のつきあひ友達まじり	生活の場	生活の場	
1年	調理週1,7	ごはん、卵料理	みそ汁	カレーライス	調理室の基本	加工食品を使った献立	加工食品を使った献立	カレージュー	カレージュー	お弁当作り	お弁当作り	お弁当作り	①食：卒業時までには、一人で簡単な食事を作って食べることができる。 ②衣：自分で身なりを整える。(簡単な日常着の洗濯、アイロンかけ、衣服の簡単な補修) ③住：健康で気持ちの良い生活ができるようになる。(ゴミの分別、整理整頓、清掃、掃除機・洗濯機の使い方)
2年	調理週1,7	調理室の使用	洗濯の基本	手縫いの基本	生活習慣	衣服の補修・ボタン付け	衣服の補修・ボタン付け	住居の大掃除	住居の大掃除	バランスのとれた献立作り	バランスのとれた献立作り	バランスのとれた献立作り	※上記の目標に沿って、現在の生活の中で、実際に自分から取り組みようとする意欲・姿勢、実用的な理解・技能が身に付いているのか、定着の度合いまで含めて評価を行う。
3年	調理週1,7	おにぎり、卵料理	みそ汁、茶葉	食品保存	ゴミ分別	簡単な昼食作り	簡単な昼食作り	冬調理	冬調理	魚料理	魚料理	魚料理	
1年	週1	リズムにのって	全校合唱	歌声を合	歌声を合	歌声を合	アンサンブルを奏しもう	アンサンブルを奏しもう	アンサンブルを奏しもう	卒業式に心を込めて歌おう	卒業式に心を込めて歌おう	卒業式に心を込めて歌おう	①関心・意欲・態度：音楽に親しみ、音楽を進んで表現し鑑賞しようとする態度を培う。 ②鑑賞の能力：音楽を楽しみ、その美しさを味わえるようにする。 ③表現の工夫：音楽の良さを美しさを感じ取り、創意工夫を生かした表現をする。 ④表現の技能：音楽を表現するための基礎的な技能を身に付けられるようにする。
2年	週1	リズムにのって	全校合唱	歌声を合	歌声を合	歌声を合	アンサンブルを奏しもう	アンサンブルを奏しもう	アンサンブルを奏しもう	卒業式に心を込めて歌おう	卒業式に心を込めて歌おう	卒業式に心を込めて歌おう	※上記の目標に沿って、音楽そのものを楽しむ姿勢(集団の取り組みの中)を大切にしながら、楽しむに当たっての能力・工夫・技能面について評価を行う。
3年	週1	リズムにのって	全校合唱	歌声を合	歌声を合	歌声を合	ゆたかな合唱表現	ゆたかな合唱表現	ゆたかな合唱表現	卒業式に心を込めて歌おう	卒業式に心を込めて歌おう	卒業式に心を込めて歌おう	

体育	1年	週2	体力テスト 体育祭取り組み	体育祭の 取り組み	水泳	水泳 着衣水泳 保健：水 難事故	水泳	球技	球技	マラソン 試走 保健「男 女交際」	選択球技	選択球技	男女の尊 重	①仲間と協力して勝敗を競ったり、課題に取り組み たり、課題に取り組む楽しさや喜びが実感できる。 ②授業を受ける態度やゲームにおけるルールを守 る態度を身に付ける。 ③運動そのものも楽しさや喜びに触れることによ り卒業後も進んで運動を実践できるようにする。 ④意欲的に運動に取り組む体力の向上を図ると ともに、保健の知識を日常生活を通して実践でき る力を養う。 ※上記の目標に沿って、運動そのものを楽しむ姿 (集団の取り組みの中)を大切にしながら、そ の上で生活の中で体力の維持・向上を図ろうと する姿勢が培われているのか、その評価を中心 に行う。	
	2年	週2	体力テスト 体育祭の 取り組み	体育祭の 取り組み	水泳	水泳 着衣水泳 保健：水 難事故	水泳	球技	球技	マラソン 試走 保健「ガ クの楽し さ役割」	選択球技	選択球技	男女の尊 重	①仲間と協力して勝敗を競ったり、課題に取り組み たり、課題に取り組む楽しさや喜びが実感できる。 ②授業を受ける態度やゲームにおけるルールを守 る態度を身に付ける。 ③運動そのものも楽しさや喜びに触れることによ り卒業後も進んで運動を実践できるようにする。 ④意欲的に運動に取り組む体力の向上を図ると ともに、保健の知識を日常生活を通して実践でき る力を養う。 ※上記の目標に沿って、運動そのものを楽しむ姿 (集団の取り組みの中)を大切にしながら、そ の上で生活の中で体力の維持・向上を図ろうと する姿勢が培われているのか、その評価を中心 に行う。	
	3年	週2	体力テスト 体育祭の 取り組み	体育祭の 取り組み	水泳	水泳 着衣水泳 保健：水 難事故	水泳	球技	球技	マラソン 試走 保健「ガ クの楽し さ役割」	選択球技	選択球技	卒業後の 生活・健 康管理	①仲間と協力して勝敗を競ったり、課題に取り組み たり、課題に取り組む楽しさや喜びが実感できる。 ②授業を受ける態度やゲームにおけるルールを守 る態度を身に付ける。 ③運動そのものも楽しさや喜びに触れることによ り卒業後も進んで運動を実践できるようにする。 ④意欲的に運動に取り組む体力の向上を図ると ともに、保健の知識を日常生活を通して実践でき る力を養う。 ※上記の目標に沿って、運動そのものを楽しむ姿 (集団の取り組みの中)を大切にしながら、そ の上で生活の中で体力の維持・向上を図ろうと する姿勢が培われているのか、その評価を中心 に行う。	
	1年	週2	エアロビクス 体育祭練習	サーキット 水中心ア ロビク ス	サーキット 水中心ア ロビク ス	水泳 着衣水泳 保健：水 難事故	エアロビクス 水中エア ロビク ス	マラソン	ゲーム	ゲーム	エアロビクス	時間走 ゲーム	エアロビクス	男女の尊 重	①就労に向けて必要な基礎体力 を養う。 ②自分の体力に関心をもち、体 力づくり(トレーニング)の 意義を理解して、自ら運動に 取り組む。
美術	1年	週1	プラ板で キーホル ダー作り	革のコー スター	絵手紙	描画	植木鉢 トール ペイ ント	KOYO 祭ラジ ン・ ポスター	粘土 年賀状	粘土 年賀状	粘土で器作り	粘土で器作り	①興味をもって造形活動に取り組み、工夫する 楽しさを感じ取ることができる。 ②根気強く造形活動に取り組み、作品を完成させ ることができる。 ③丁寧に造形活動に取り組み、完成した自分の作 品を大切にできるようにする。 ④参考作品や友達の良い面を感じ 取り、自分の造形活動に生か していきることができる。		
	2年	週1	ハンカチ染色	革の小銭 入れ	革の小銭 入れ	革の小銭 入れ	革の小銭 入れ	KOYO祭の ポスター	たたら 花瓶	たたら 花瓶	切り絵 を作ろう	切り絵 を作ろう	①興味をもって造形活動に取り組み、工夫する 楽しさを感じ取ることができる。 ②根気強く造形活動に取り組み、作品を完成させ ることができる。 ③丁寧に造形活動に取り組み、完成した自分の作 品を大切にできるようにする。 ④参考作品や友達の良い面を感じ 取り、自分の造形活動に生か していきることができる。		
	3年	週1	革のペンケース	革のペン ケース	革のペン ケース	藍染めの タペス トリー	藍染めの タペス トリー	KOYO 祭ラジ ン・ ポスター	絵手紙	粘土 で記念品	粘土 で記念品	粘土で記念品	粘土で記念品	※上記の目標に沿って、造形活動への取り組みの 興味・関心・態度、実際に喜びを感じながら 造形活動を行う姿勢が育っているのかを中 心に評価する。	
情報	1年	週1	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	
	2年	週1	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など
	3年	週1	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など	①コンピュータ機器の利用 ・マウス、FDD、キーボードなど ②ソフトの利用 ・ワードプロセッサ ③情報機器の利用 ・ファクシミリ、電話、複写機など

## (2) 事例 12 (領域・教科を合わせた指導)

### 1 本校の評価の流れ

#### (1) 本校の個別の指導計画について

自立に向け、学校生活を通して育てたい力を、本校では「自立につながる力」と呼び、その内容を八つの観点からとらえている。本校では、「自立につながる力」の育成を目指し、児童生徒一人一人に個別の指導計画を作成している(本校では、「一人一人の学校生活計画」と呼んでいる)。

個別の指導計画の記載内容は、次の通りであるが、様式等は各学部で使用しやすいように作成している。

- ①実態 ②本人、保護者の願い ③指導の目標(発展目標、長期目標、短期目標) ④支援の基本方針
- ⑤記録・評価・反省 ⑥次年度の申し送り事項

#### (2) 指導の目標について

本校では、指導の目標を次の三つからとらえている。

##### ア 発展目標

各学部卒業時に期待する姿を設定する。ただし小学部は、2・4・6年生終了時に期待する姿を設定する。

##### イ 長期目標(各指導の形態の年間個人目標)

1年後に期待する姿を指導の形態ごとに設定する。

##### ウ 短期目標(単元・題材個人目標)

指導の形態の単元・題材ごとに期待する姿を設定する。

#### (3) 基本的な評価の流れについて

本校の1年間の評価の流れは、以下の通りである。

##### ア 短期目標の評価

授業の姿をエピソードとして記録したり、ビデオに撮ったりしておき、単元・題材終了時に評価をする。また、短期目標の評価を学習の記録(通知表)として、保護者に通知する。

##### イ 長期目標の評価

短期目標の評価の蓄積により、年度末に長期目標を評価する。長期目標の評価は、個別の指導計画に記載するとともに、個人懇談会等で保護者に提示し、意見交換を行う。さらに、長期目標の評価を踏まえ、指導要録を記入する。

##### ウ 発展目標の評価

長期目標の評価を基に、年度末に修正が必要な場合は見直しを図る。

### 2 短期目標の評価の計画

前述のように、当校では短期目標を単元・題材個人目標ととらえ、「単元・題材個人目標の設定→実践→評価」という一連の流れで、評価を行っている。また、短期目

標や支援方法、児童生徒の様子等を保護者と共有するために、学習の記録(通知票)を作成し、保護者に通知している。その際に、各学部で学習の記録(通知票)作成計画を立案し、組織的、計画的に学習の記録(通知票)を作成している。

#### (1) 学習の記録(通知票)作成計画について

各学部で以下の5点について共通理解を図り、作成計画を立案している。

ア 一つの単元・題材の評価は、A4版1枚の評価シートにまとめる。

イ 保護者には、A4版のクリアファイルに入れ、学期末に限らず随時渡す。

ウ 評価シートの様式は、各学部で決める。ただし、レイアウトは、写真やイラストを加え、保護者が理解しやすいように工夫する。

エ 保護者に渡す時期は、各指導の形態ごとに決める。

オ 年度末に学習の記録(通知票)作成計画を見直す。

#### (2) 学習の記録(通知票)作成計画の実際

13年度の高等部の例(一部抜粋)を以下に示す。

- ① 保護者に渡す時期  
指導の形態の週時数により、以下のようにする。
  - a 単元・題材ごとに2回渡す指導の形態
    - ・「生活単元」「社会生活学習」「総合的な学習の時間」「作業学習」「体育」
    - ・1回目は全体の学習計画を紹介する内容(全体紹介シート)とし、単元・題材開始時に渡す。
    - ・2回目は評価を内容(評価シート)とし、単元・題材終了時に渡す。
  - b 学期末に1回渡す指導の形態
    - ・「日常生活の指導」「音楽」「特別活動」
    - ・学習活動の紹介と個人の評価を内容とし、学期末に渡す。
- ② 全体紹介シートの記載内容 →資料 12-1 参照
  - ・授業担当者名
  - ・単元・題材名
  - ・単元・題材で育てたい自立につながる力
  - ・単元・題材の目標
  - ・単元・題材の主な活動、主な支援
- ③ 評価シートの記載内容 →資料 12-2 参照
  - ・授業担当者名
  - ・単元・題材名
  - ・単元・題材個人目標
  - ・生徒への具体的な支援方法
  - ・単元・題材個人目標に迫る生徒の姿

### 3 児童生徒の評価の実際

高等部2年生Aさんの「社会生活学習」を例に、評価の実際を述べる。

#### (1) 「社会生活学習」のねらい

高等部「社会生活学習」のねらいは、次の通りである。

適切に意思のやり取りをする活動、家事や余暇にかかわる活動、公共施設や商店など地域資源を利用する活動等を通して、卒業後の社会生活に必要な力を身に付け、家族や社会の一員として進んで生活する力を育てる。

#### (2) Aさんの指導の目標の設定

Aさんの長期目標(社会生活学習の年間個人目標)を次のように設定した(具体的な支援については、資料12-3参照)。

- ① 知りたいことを質問したり、伝えたいことを発言したりして、自分の意思を相手に伝えることができる。
- ② 小遣い帳を付けながら、計画的にお金を使うことができる。

Aさんの長期目標の達成に向けて、題材「いろいろなお店マップを作ろう」(題材の概要については資料12-1参照)では、次の短期目標(題材個人目標)を設定した。

いろいろなお店マップ作りを通して、店員や友達に分かるように、知りたいことを質問したり、分かったことを発表したりすることができる。

#### (3) 短期目標の評価

短期目標の達成に向けて、Aさんに以下の支援を構想した。

- Aさんの関心が高い、流行品を扱っている店やおしゃれに関連した店を取材先として選定する。
- 店員とのやり取りに、徐々に慣れていくことができるよう、デジタルカメラ係など取り組みやすい役割分担に配慮する。
- 取材の手順や内容が書かれた「取材カード」を用意する。
- 発表会では、発表の順番や雰囲気作りに配慮したり、取材でAさんの関心が高かった内容について、教師が質問したりする。
- 発表に活用できるよう、取材時に撮影した写真やビデオを用意する。

Aさんの短期目標の評価は次の通りである。

- 自分が取材してみたい店を積極的に挙げ、友達と協力しながら取材することができた。1回目の取材活動では、デジタルカメラ係になって商品を意欲的に撮影することができた。2回目の取材活動ではインタビュー係に挑戦し、必要なことを聞き取ってくることができ、苦手なことにも取り組んだ。発表では、分かりやすく発表することができた。
- 時折、教師の助言やアドバイスに頼る姿も見られたが、店員に自分から質問したり、必要なことを書き取ったりしてることができた。発表では、自分の担当した店の商品を友達に紹介することができた。取材の感想や友達の発表についての質問、感想を述べることができた。

題材終了時に、Aさんの短期目標、支援の構想、短期目標の評価等をA4版1枚の学習の記録(通知票)にコンパクトにまとめ、保護者に通知した(資料12-2参照)。

また、保護者からは、休日にAさんが取材で行った店に連れて行ってくれたこと、取材で行った店の近隣の店に自分から積極的に入り、店員とやり取りしながら買い物を楽しんだことが報告された。

#### (4) 長期目標の評価

年間を通して、Aさんには5つの短期目標が設定された。それぞれの短期目標の評価を基に、長期目標の評価を以下のように行った。

##### 【長期目標の①について】

Aさんがリラックスできる雰囲気を作ることにより、友達や教師に自分から質問したり、自分の気持ちや感想をはっきりとした言葉で伝えることができた。

##### 【長期目標の②について】

消費税や残金が自動的に計算される表計算ソフトを活用することにより、買いたい物が自分の小遣いの残金で買えるかどうか理解し、お金を貯めたり、使ったりすることができた。

上記の評価を個別の指導計画の評価欄に記載するとともに、指導要録にも記載した。また、個別懇談会の際に、保護者に説明し、意見交換を行った。

# 社会生活学習 ○○グループ

# 学習の記録

平成13年6月15日  
授業担当 ○○○○

## 「いろいろなお店マップを作ろう」に取り組んでいます。

(今回は、他グループの生徒と一緒にマップ作りをします)

今までは、「おいしいお店マップを作ろう」ということで、ケーキ屋さんや和菓子屋さん、ファーストフード店を中心に取材し、マップ作りをしてきました。生徒からは「もっといろいろなお店を取材してみたい」という要望があったので、今回の学習ではさらにバージョンアップして『本屋さん』『洋服屋さん』『雑貨屋さん』などにも取材を広げ、「いろいろなお店マップを作ろう」という題材名で学習を展開していきたいと思えます。

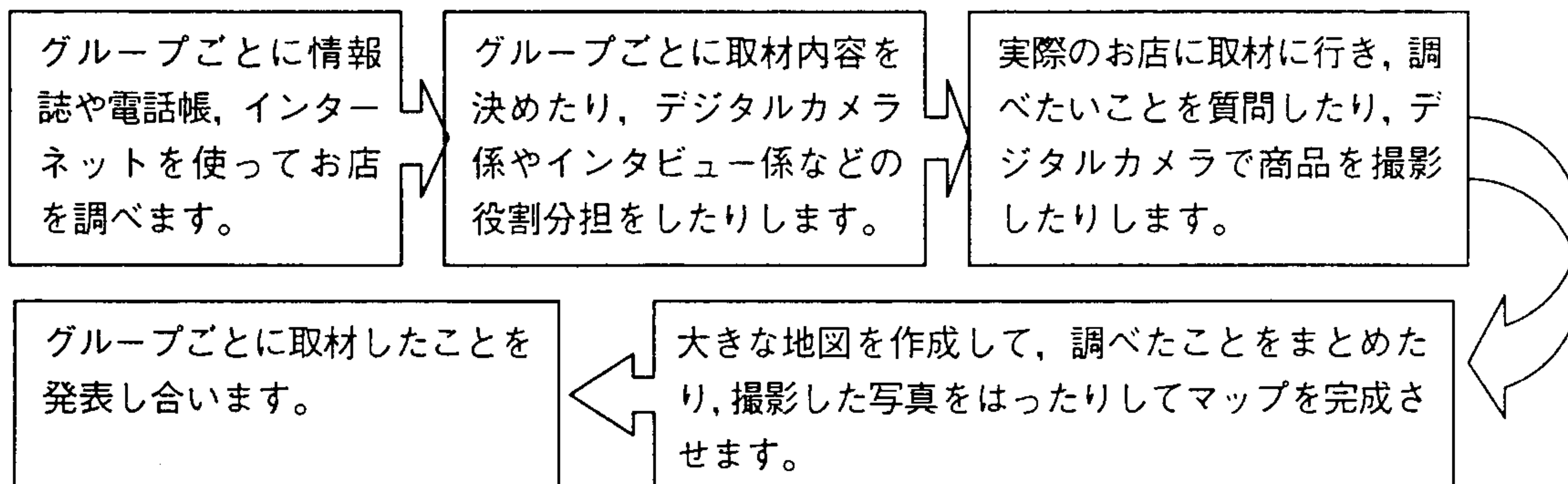
### ☆育てたい自立につながる力

- 【豊かな心】 地域のお店に関心を持ち、取材活動に進んで取り組む。
- 【コミュニケーション】 店員に知りたいことを質問し、必要なことを聞き取る。  
友達とお互いの意見を交換する。  
コンピュータを操作して、必要とする資料や情報を得る。
- 【集団生活】 友達と役割を分担し、協力して取材や発表に取り組む。  
店員に、適切な言葉や態度で接する。
- 【地域資源の利用】 いろいろな情報誌を見て店を調べ、実際に利用する。
- 【余暇】 コンピュータやデジタルカメラを使用して楽しむ。  
友達と一緒に外出し、買い物や食事を楽しむ。

### ☆題材の目標

○学校周辺の店を訪問し、知りたいことを質問したり、分かったことを友達に伝えたりすることができる。

### ☆こんな学習をします。



生徒が目標を達成できるように、次のような支援を行っていきます。

- 生徒の興味・関心の高いお店を自由に選択できるようにする。
- 取材する内容や必要なあいさつが書かれた「取材カード」を持って取材に行くようにする。
- 個々の役割分担を明確にし、目的意識を持って取材に行くことができるようにする。
- 安心して活動することができるように、小グループを編制する。

# 社会生活学習 ○○グループ 学習の記録

平成13年7月24日  
授業担当 ○○○○

## グループごとに二つのお店に取材に行き、マップ作りに取り組みました。

○○グループの生徒は、昨年もお店マップ作りを経験しているので、他のグループの生徒にお店調べや取材活動について、アドバイスしたり、教えたりしながら取り組む姿が見られました。さすが○○グループの生徒！取材では街に出掛けてお店の人と会話し、必要なことを聞き取ってくる自信と力が着実についてきたようです。取材したことをまとめる活動でも、コンピュータをスムーズに操作して写真をプリントアウトしたり、画用紙に分かったことや写真を丁寧に貼り付けたりし、積極的に取り組んでいました。取材した内容をまとめ、作成した大きなマップを基に、取材したグループ同士お互いに発表し合いました。発表は、1回目の取材後と2回目の取材後に行いました。1回目より2回目の発表の方が、友達に分かりやすく伝えようと、より工夫して発表する姿が見られ、CD店やカラオケ店に行ったグループからは「ベストランキングの実際の曲をかけたい」「歌って発表してみたい」などの意見が聞かれました。

## Aさんの題材個人目標

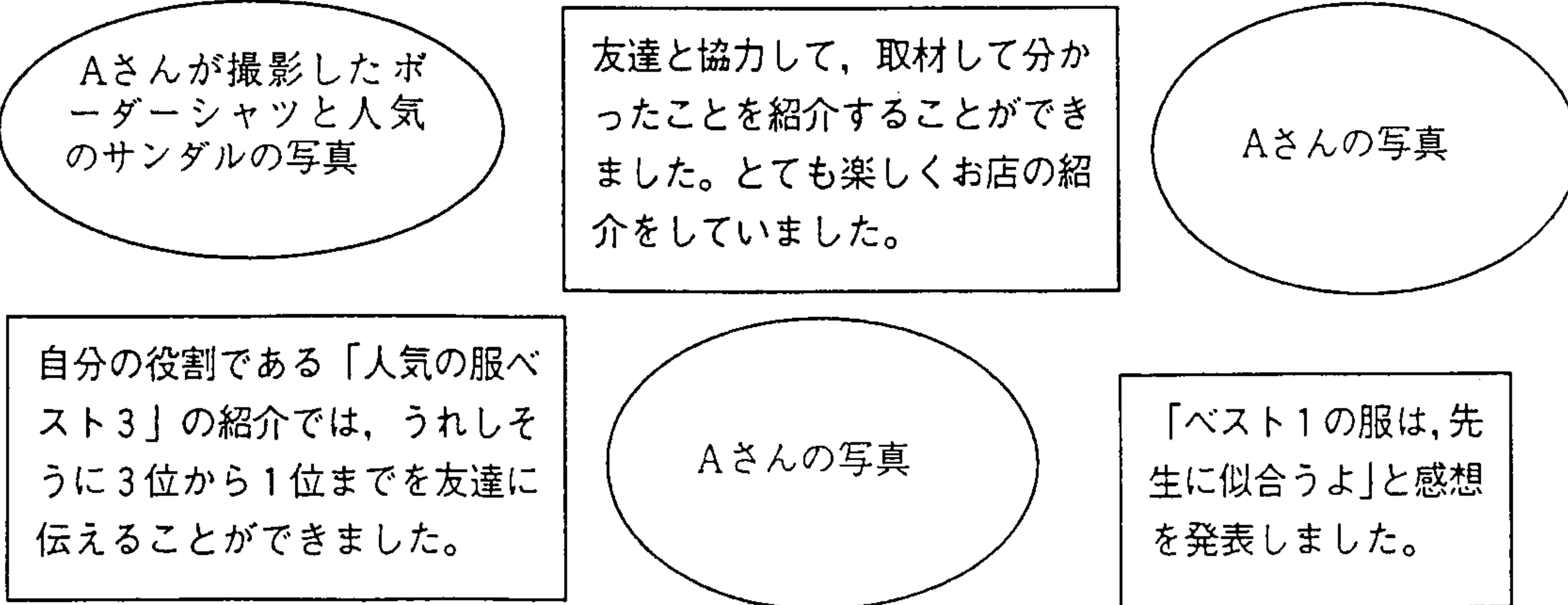
「いろいろなお店マップを作ろう」の学習を通して、Aさんには次の目標を立てました。

いろいろなお店マップ作りを通して、店員や友達に分かるように、知りたいことを質問したり、分かったことを発表したりすることができる。

目標を達成するために次の支援を行いました。

- Aさんの関心が高い、流行品を扱っている店やおしゃれに関連した店を取材先として選定する。
- 店員とのやり取りに、徐々に慣れていくことができるよう、デジタルカメラ係など取り組みやすい役割分担に配慮する。
- 発表会では、発表の順番や雰囲気作りに配慮したり、取材でAさんの関心が高かった内容について、教師が質問したりする。

## 1回目は、洋服店へ取材に行き、まとめたことを友達に伝えました。



## Aさんの「一人一人の学校生活計画」(抜粋)

	発 展 目 標	主な指導の形態等
観点1「豊かな心」	内容④ 向上心をもつ	生活単元学習 社会生活学習 作業学習
観点4「コミュニケーション」	内容① 自分の意思を表現する 必要な場面で、質問したり発言したりして、 自分の意思を表現する	社会生活学習 総合的な学習の時間
観点6「地域資源の利用」	内容① お金を大切に使う	社会生活学習

	年間個人目標(長期目標)	具体的な支援
社会生活学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知りたいことを質問したり、伝えたいことを発言したりして、自分の意思を相手に伝えることができる。</li> <li>・小遣い帳を付けながら、計画的にお金を使うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師から問い掛けをしてリラックスできる雰囲気を作り、思っていることや考えていることを自由に述べる場面を設定する。</li> <li>・消費税や残金が自動的に計算される表計算ソフトを活用する。</li> <li>・小遣い帳を身近に置き、いつでも記入したり、確認したりできるようにする。</li> </ul>

### (3) 事例 13 (領域・教科を合わせた指導)

#### 1 小学部の教育課程・教育目標

本校では、学年・学部ごとの校外学習や交流学習など、様々な経験の場を用意し児童生徒の生きる力の育成に取り組んでいる。

小学部の教育課程は表 13-1 に示す通りである。教育目標は、「すべての児童が健康で安全な学校生活を送り、自立する力、ものごとをしっかりと見つめる力や要求を出せる力を養うとともに、集団生活を通して社会性を身につけ地域社会とかかわり合い、生活を豊かにする力を養う」としている。

さらに、①丈夫な身体づくり②基本的な生活習慣③友だちとの活動④自分の気持ちを表現⑤興味・関心を広げ、考える力を育てる、の 5 項目について、低学年、高学年ごとに目標を設定している。

#### 2 評価の場

教育における評価は基本的には、教育目標に対してどの程度成長、発達したのかという子どもの視点と、教育目標の設定や教育課程の実施がどうであったのかという教師の視点の両方の視点が含まれる。

本校における評価の場としては、子どもの視点から見ると、①通知票、②指導要録、③保護者懇談会、④連絡帳、⑤授業などがある。

教師の視点から見ると、①事例研究、②授業研究、③校内研修、④教育課程検討委員会などがある。

#### 3 領域・教科を合わせた指導と評価の例

##### ～日常生活の指導で生きる力の基礎を～

本校の領域・教科を合わせた指導の評価について、小学部の日常生活の指導を例に挙げて以下に述べる。本校では日常生活の指導を「生活」の項目名で評価している。

通知票の評価の例を表 13-2 に示す。通知票は小・中・高等部ともに記述式である。当該学期の成長の様子を指導内容に即して記述し、総合所見として当該学期の特徴的な様子を記述して評価としている。

日常生活の指導の評価を行う際の留意点としては、次の 3 点を考えている。

- (1) 日常生活の指導は生きる力の基礎を育むものであるから、保護者にも分かるように記述し、家庭との連携が図りやすいように留意する。
- (2) 子どもの学習の様子や変化、次の課題が分かるように配慮する。
- (3) 具体的な生活に即して目標を設定する。それに対して学期ごとに、理解の程度や態度等を中心に評価する。

通知票と指導要録の評価に役立てるために、本校小学部では「生活の課題」として表 13-3 に示すような担任が課題設定を作成している。これは担当する児童一人一人について担任が目標や課題を設定し、学期ごとにその達成状況を記録するものである。また、新しい課題や目標設定の見直しを行うために設けたものである。目標と達成状況を記入し、整理することにより、教師側の自己評価や目標管理も併せて行えるようになっている。「生活の課題」の活用の在り方を実践的に検討している。

#### 4 本校の評価の課題

##### (1) 校外学習等の評価

例示したように、学年・学部ごとの校外学習や交流学習等、また全校行事である学習発表会や運動会などの評価が分かりにくいことが一つの課題である。

これらの活動の評価は、折に触れて保護者懇談会や連絡帳などを通して保護者に伝えられることが多く評価の形としては残りにくいので、通知票に行事等の評価欄を設定するなど工夫が必要である。

##### (2) 通知票に個々の目標を

もう一つの課題は、通知票に児童生徒個々の当該年度の教育目標が記述されていないことである。これも保護者懇談などで当然、担任から保護者に伝えられていることであるが形として残っていないのである。

教育活動の評価は教育計画と表裏一体のものである。子ども一人一人の目標があり、その目標に沿って計画、指導、評価、次の目標設定があるものである。それら一連の教育活動の全体を保護者に十分伝えることにより、学校、保護者のそれぞれの子どもに対する教育の役割が明確になるものと考えられる。

##### (3) 目標管理の視点と教育課程の評価

評価は通常、子どもの側の評価が中心となり、教師の側からの評価が少ない。もちろん、事例研究や授業研究の場などでは教師の側の評価も話し合われるが、それらが通知票などに反映されない。そこで、目標管理の視点から、教師の立てた子どもの指導目標や課題設定がその子どもに合っていたのかどうか等の目標や指導方法等の評価を考える必要がある。本校では表 13-3 のように目標の見直しを記録できるようにしているが、子どもの評価と教師の評価が有機的に関連してはじめて評価活動は充実するものと思われる。



表 13-1 小学部教育課程

教科・領域	学年	1	2	3	4	5	6	重 複					
								1	2	3	4	5	6
生 活		15	17	18	16	16	16	15	17	18	16	16	16
国 語 ・ 算 数		3	3	3	4	4	4	3	3	3	4	4	4
音 楽		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
図 画 工 作		1	1	1	2	2	2	1	1	1	2	2	2
体 育		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
教 科 の 計		23	25	26	26	26	26	23	25	26	26	26	26
道 徳		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
特 別 活 動					1	2	2				1	2	2
自 立 活 動	特 別 指 導	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	取 り 出 し に よ る 指 導	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
総 計		26	28	29	30	31	31	26	28	29	30	31	31

備考 (1) 年間授業日数を 35 週とした場合における週当たり平均授業時間数である。  
 (2) 授業時数の 1 単位時間は 40 分とする。  
 (3) ( ) は取り出しによる指導であるため数は計上しない。

表 13-2 日常生活の指導の通知票例

項目	1 学 期	項目	2 学 期	項目	3 学 期
生活	<p>(登校～着替え) 声をかけないと何もせず椅子に座っていることも多かったのですが、後半は一人できばきとできる日が多かったです。服の前後や靴下など一人で間違えずに着替えることが目標です。</p> <p>(給食) 好き嫌いが激しく食事に長く時間がかかりました。お箸の片づけや歯磨きなど自らできるように頑張りました。</p> <p>(遊び) 前半はマラソンをしてからブランコや泥遊びを好んでしました。「泥水オーレ」等、上手に命名して楽しんでいました。後半はホールでベンチを並べて迷路を造ったり、マジックで字を書くことを楽しみました。オルガンで「ピンポン」の音を出すのも大好きでした。</p> <p>(生活) 家庭科でやったミシンかけには興味を示し「ストップ」の声かけでコントローラーから足を離したり、両手で布送りをするのも上手でした。自然で植えた野菜の水やりは積極的に行いました。</p> <p>(行事その他) 交流学習ではたくさんの人の前で冗談を交えて自己紹介をするなどリラックスして楽しむことができました。</p>	<p>(登校～着替え) 着替えまでの朝の一連の作業が遅く、声かけが必要です。服の前後や靴下など間違えずに一人で着替えることができるようになりました。</p> <p>(給食) 嫌いなものから先に食べるなど自分で順番を決めて食べ終わるスピードが速くなりました。好きなものはおかわりをし楽しく給食を食べています。</p> <p>(遊び) 物に対して興味があり、クレーン車、答マシーンなどいろいろ見つけて遊びましたが、放置したままで帰ることが多く後かたづけが目標です。</p> <p>(終わりの会) 忘れ物がないよう、一人で荷物をチェックすることができてきました。</p> <p>(生活) 自然の「鏡の世界」では 2 枚の鏡をいろいろな角度に変えてたくさん見えることを楽しみました。「やじろべえ」では指、鼻、あご等に置いて上手にバランスをとることができました。家庭科の「雪洞づくり」では適当な力で糸を巻くことができ、仕上げも上手に丸くカットできました。</p> <p>(行事その他) 学習発表会では劇の流れやせりふをよく覚えていました。ピラミッドも頑張りました。</p>	<p>(登校～着替え) まだ着替えまでの一連の作業が遅くなりがちになっています。早くできる日もありますので、声をかけられなくても自分から着替えられるようになってほしいと思います。今までよく間違っていたズボンの前後は意識してよく見て間違いが減りました。</p> <p>(排泄) ときどきズボンを濡らすことはありますが特に問題はありません。今後はファスナー付きのズボンでの排尿も練習できるとよいですね。</p> <p>(遊び) 今学期は段ボールに字や絵を描いてよく遊びました。ユニークな発想で楽しそうに遊びますが、友だちとのかかわりをもう少し広げてほしいと思っています。</p> <p>(生活) 自然の「じしゃく(磁石)」の学習では、NS極で「くっつく、反発する」ということはだいたい理解できました。磁石を使っての魚釣りゲームでは、たくさん釣り上げようと磁石の位置を工夫することができました。</p>		
総合所見	<p>新しい友だちに積極的にかかわってすぐに仲良くなり、今はよき競争相手として意識しているようです。散歩に出たときには危険な所で手をつないでいる友だちを引っ張って止めるなど、声をかける前に自分で判断して行動できる場面が見られました。</p>	<p>何でも「やってみよう」と意欲的でした。宿泊では須磨で海水をなめてしゃべると驚きました。自ら体験して海水の味を発見しました。その姿勢で冬休みも色々なことに挑戦してください。</p>	<p>遊びについてはいろいろと自分なりに工夫して楽しんでます。友だちとももっと遊べるようになるとういすね。いろいろな力をもっていますので、落ち込んだときもできるだけ早く気持ちを切り替えていけるようにしていきましょう。</p>		

表 13-3 日常生活の指導における担任の課題設定 (目標と達成状況)

生活の課題 【目標：自立に向けて何事も一人でできるようにする】 (5)年・名前 (A)

項目	1 学期 学年当初の状況	目標設定	達成状況	2 学期 新しい課題・達成状況	3 学期 新しい課題・達成状況
登下校				<ul style="list-style-type: none"> <li>連絡帳を出すから着替えまで一連の作業が遅く, 声かけが必要</li> <li>指示がなくてもできる</li> </ul>	→ (同じ)
排泄	<ul style="list-style-type: none"> <li>大便時のおしり拭きに介助が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人で始末できるようにする</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>ファスナー付きのズボンでファスナーのみ下ろして排尿できるようにする</li> </ul>
給食	<ul style="list-style-type: none"> <li>肘をついて食べる</li> <li>「お皿を持って」と声かけ要</li> <li>準備, 片づけに声かけ要</li> <li>好き嫌いが激しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肘をついて食べない</li> <li>お皿を持って食べる</li> <li>指示がなくても後片づけや歯磨きができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肘をついて食べる</li> <li>「お皿を持って」と声かけ要</li> <li>準備, 片づけに声かけ要</li> <li>好き嫌いが激しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>好き嫌いを少なくする</li> <li>嫌いな物から先に食べるようになってきた (自分で)</li> </ul>	(肘をつかない等の目標は同じ) <ul style="list-style-type: none"> <li>おかわりもするようになった</li> </ul>
着替え	<ul style="list-style-type: none"> <li>着替えに時間がかかる (取りかかるのが遅い)</li> <li>ズボンの前後, 靴下, 一人ではけない (意識の問題)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人でさっさと着替える</li> <li>ズボンの前後を意識させる, 靴下は踵を下にしてはくよう意識させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月に入り数日一人で着替えられるようになった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>着替える時間が短くなってきている</li> <li>ほとんど間違えないで前後を意識して見てはける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ズボンの前後を意識して間違わなくなった</li> </ul>
遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>マジックで字を書くことや砂遊びが好き</li> <li>泥遊びは長く続く</li> <li>一人遊びが多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと遊べる</li> <li>後片づけをする</li> <li>ベンチを並べて迷路をつくったりオルガンで音を出すこと等遊びが広がる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベンチを並べて迷路をつくったりオルガンで音を出すこと等遊びが広がる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>色々見つけて遊ぶのはいいが後片づけができない</li> <li>話を聞いている時性器いじりが多い</li> <li>話に注意しているときは答えらるようになってきた</li> <li>忘れ物チェックをするようになった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>段ボールを見つけてきてはマジックで何か書いている</li> <li>事務室前の車で遊ぶ等興味の対象が変わる, 後片づけはできない</li> <li>爪しゃぶりや性器いじりは少し減少してきた</li> </ul>
朝の会 終わりの会	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問に的確に答えられない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話をよく聞いて質問に答えられるようになる</li> </ul>			
健康 情緒 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前のことを思い出し, 急に泣いたりする</li> <li>受けこたえはあるがぼんやりして頭に何も入っていない瞬間が見られる</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いと違うことがあると落ち込んでしまい尾をひく</li> <li>気持ちの切り替えが難しい</li> </ul>	

## 平成13年度 プロジェクト研究

「21世紀の特殊教育に対応した教育課程の望ましいあり方に関する基礎的研究」

### 研究代表者

川 住 隆 一\* (重複障害教育研究部)

### 研究分担者

千 田 耕 基 (視覚障害教育研究部)  
宍 戸 和 成\* (聴覚・言語障害教育研究部)  
笹 本 健 (肢体不自由教育研究部)  
竹林地 毅 (知的障害教育研究部)  
徳 永 豊 (知的障害教育研究部)  
當 島 茂 登 (肢体不自由教育研究部)  
武 田 鉄 郎 (病弱教育研究部)  
渡 邊 章 (情報教育研究部)

※ 編集責任者

### 研究協力校等

北海道札幌盲学校  
愛知県立岡崎聾学校  
新潟大学教育人間科学部附属養護学校  
千葉県立流山高等学園養護学校  
大阪府立佐野養護学校  
大阪府立高槻養護学校  
福岡県北九州市立八幡養護学校  
北海道拓北養護学校  
神奈川県立茅ヶ崎養護学校  
筑波大学桐が丘養護学校  
新潟県立柏崎養護学校  
山梨県立富士見養護学校旭分校  
岐阜県立長良養護学校

盲・聾・養護学校における学習評価の事例集

---

平成14年3月刊行

発行者 独立行政法人

国立特殊教育総合研究所

〒239-0841 神奈川県横須賀市野比5丁目1番1号

電話 0468-48-4121 (代表)

FAX 0468-49-5563 (総務課), 9410 (総合政策情報センター事務室),  
9450 (会計課), 5240 (研修情報課)

URL <http://www.nise.go.jp/>

---